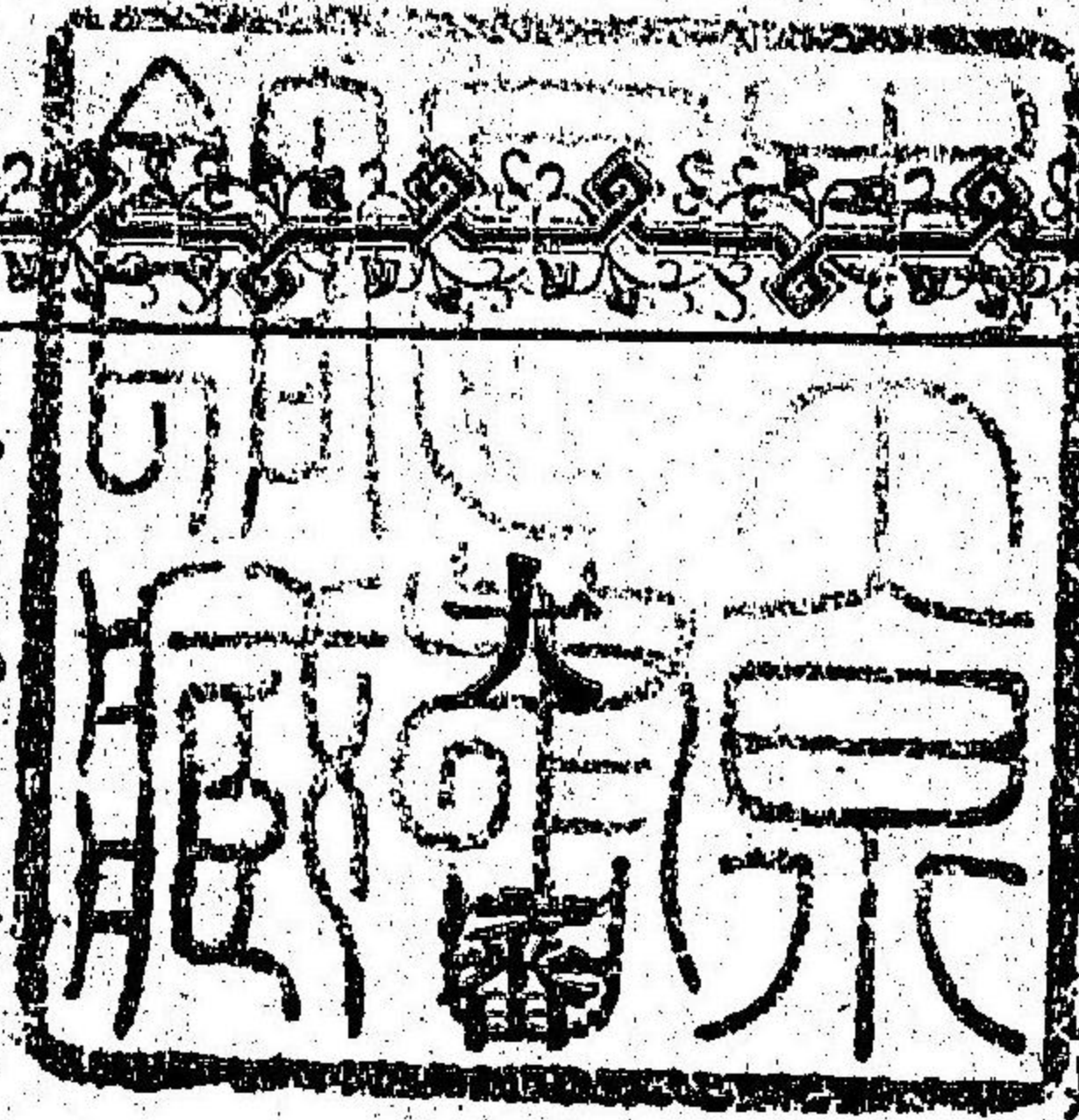


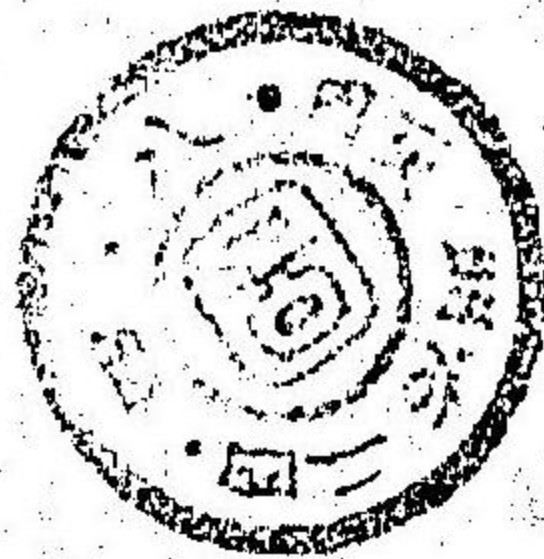
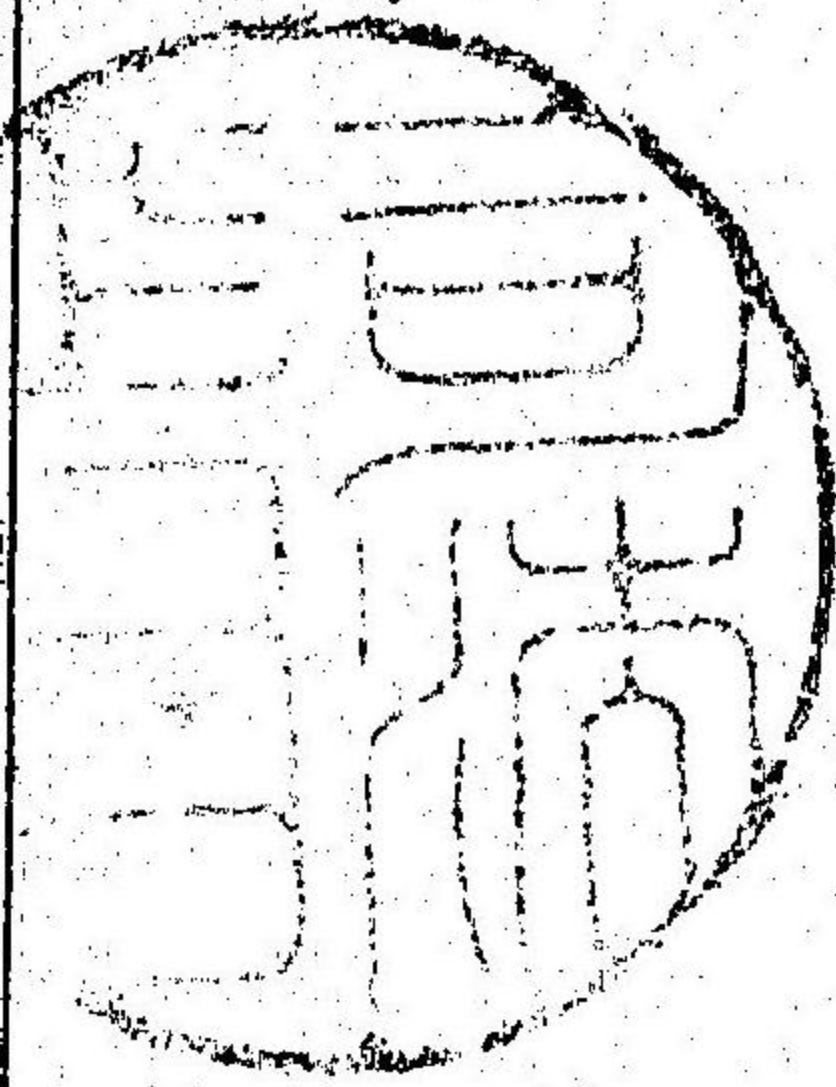
12183/1000



司法部藏版 版權所有

院 刑 事 判 決 錄

明 治 二 十 四 年 三 月 印 行



22
~~211~~
01
e7
2711
7

凡例

- 一本書編纂ノ主意ハ大審院判決中擬律ノ摸範トナルヘキモノヲ集録スルニアリ
- 一本書ハ明治廿年中大審院ニ於テ判決シタル刑事ヲ選抜シタルモノニ係ル
- 一本書編纂ノ体裁ハ大審院ニ於テ受理シタル件名及年次號數ニ關セズ争點ヲ類別シ刑法治罪法ノ節目ニ從テ集録ス
- 一本書ハ前述ノ如ク争點ヲ類別シテ編纂ス例ヘハ詐欺取財ノ件ト題シアルモ其争點刑期計算ニ係ルルハ刑期計算ノ部ニ編入スルカ如シ
- 一本書中一事件ニシテ争點數箇ニ涉リ問題ハ各之ヲ掲クト雖モ其一ニ從ヒ一部門ニ編入ス
- 一本書ハ每件其争點ノ要ヲ取り初メニ問題ヲ掲ケ以テ其事件ノ争點

- ヲ知ルニ便ナラシム
- 一件名ハ原件名ヲ存シ每件ノ初頭ニ何年何號ト割註アルハ大審院ニ於テ受理シタル年次及號數ナリ
- 一本書中單ニ棄却シタリト記スルモノハ總テ治罪法第四百二十七條ニ依リ又單ニ破毀シタリト記スルモノハ大審院自カラ判決ヲ與ヘス他ニ移シタルモノトス
- 一初審裁判所ニ於テ科シタル罰金科料等ハ或ハ金額ヲ記シ或ハ若干ノ文字ヲ以テ之ヲ省略ス

明治廿年大審院刑事判決錄

總目錄

刑法ノ部

附加刑處分ニ關ス

- 一 監 視 違 犯 ノ 件 (監視執行中遁走シタルニ係ル) 明治二十年 甲第七百四十號 一 丁
- 期滿免除ニ關ス
- 一 監 視 規 則 犯 ノ 件 (監視ヲ違レタルニ係ル) 明治二十一年 第千五百九十一號 四 丁
- 再犯加重ニ關ス
- 一 監 視 規 則 違 犯 ノ 件 (附加刑ノ執行ヲ違レタルニ係ル) 明治二十一年 第千四百五十九號 六 丁
- 加減順序ニ關ス
- 一 未決囚逃走及官吏毆傷ノ件 (刑法第三百二條及第三百三條ノ加減ニ係ル) 明治十九年 第千四百四十一號 八 丁

數罪俱發ニ關ス

一強盜ノ件(夜間家宅ニ忍ヒ入り飯ヲ喫シ強盜ヲ爲シタルニ係ル)明治二十年十月十三日

官印及ヒ官文書偽造罪ニ關ス

一官文書變換ノ件(戶籍簿ヲ改竄シタルニ係ル)明治二十年十月十九日

一官文書偽造ノ件(入籍願書ヲ偽造シタルニ係ル)明治二十年十月二十二日

一官印盜用ノ件(公證アル證書ヲ偽造シタルニ係ル)明治二十年十月二十九日

一官印偽造ノ件(廢棄ノ官印ヲ偽造シタルニ係ル)明治十九年十月三十五日

私印私書偽造罪ニ關ス

一私印偽造ノ件(受託物費消ヲ蔽ハシ爲メ私書ヲ偽造シタルニ係ル)明治十九年十月三十八日

一詐欺取財ノ件(他人ノ印影ヲ盜捺シタルニ係ル)明治二十年四月二十二日

一官文書偽造ノ件(代人願書ヲ改措シタルニ係ル)明治十九年十月五十六日

一官印文書偽造徵兵忌避ノ件(戶長ヲシテ戶籍簿ヲ變換シタルニ係ル)明治十九年十月六十三日

一私書偽造ノ件(信託セラレタル實印押捺ノ白紙ヲ使用シタルニ係ル)明治二十年十月六十八日

一私書偽造ノ件(他人ノ財産管理中其印影ヲ用井地所ヲ處分シタルニ係ル)明治二十年十月七十六日

一私書偽造ノ件(仕切書ヲ增加シタルニ係ル)明治二十三年十月八十一日

一手形偽造行使詐偽取財ノ件(爲替手形ニ用ユヘキ切符ヲ抵當トシ金圓ヲ騙取シタルニ係ル)明治十九年十月八十六日

一爲換手形ニ詐欺ノ裏書其他欺罪ノ件(郵便爲替ヲ竊取變換シタルニ係ル)明治二十年十月九十三日

一證書偽造ノ件(受取書ヲ偽造シタルニ係ル)明治二十一年十月百二日

一證書變造詐欺取財ノ件(出所期限經過ノ貸金證書ヲ變造シタルニ係ル)明治十九年十月百六日

一約束手形偽造ノ件(銀行維持金策ノ爲メ爲替約束手形ヲ偽造シタルニ係ル)明治二十年十月百十日

一印紙再貼用ノ件(提出セザル紙狀ノ印紙ヲ剽取リ貼用シタルニ係ル)明治十九年十月百十六日

身分詐稱罪ニ關ス

一氏名詐稱ノ件（廣州後他ノ前罪ヲ包蔵セシムルニ係ル）明治二十年 百二十丁

健康ヲ害スル罪ニ關ス

一私 醫 業 ノ件（人ヲ雇ヒ代診セシメタルニ係ル）明治二十七年 百二十四丁

一幼者ヲ遺棄シ死ニ致シタル件（棄兒ヲ拾ヒ又之ヲ遺棄シタルニ係ル）明治十九年 百二十七丁

謀殺故殺罪ニ關ス

一謀 殺 ノ件（目的外ノモノヲ刺傷シタルニ係ル）明治四十四年 百三十三丁

一謀 殺 ノ件（糊口ニ苦ミ嬰兒ヲ懷キ殺シタルニ係ル）明治二十二年 百二十八丁

一謀 殺 ノ件（生兒ヲ殺シタルニ係ル）明治三十四年 百四十二丁

一謀 殺 ノ件（謀殺ノ助力ニ係ル）明治二十五年 百四十六丁

誣告及ヒ誹毀ノ罪ニ關ス

一官吏侮辱ノ件（新聞紙ニ想像ノ語ヲ以テ誣告ノ職務ヲ非難シタルニ係ル）明治三十三年 百五十七丁

一官吏侮辱ノ件（自己ノ登記ヲ速カニセシムルカ爲メ該吏ニ對シ不平ノ語ヲ吐キタルニ係ル）明治四十六年 百六十一丁

竊盜罪ニ關ス

一竊 盜 ノ件（乾燥ノ爲メ暴露シタル稻束ヲ竊取シタルニ係ル）明治二十七年 百六十四丁

一竊 盜 ノ件（雜踏ニ乘シ竊盜ヲ爲シタルニ係ル）明治二十九年 百六十七丁

一竊 盜 ノ件（委託ノ鍵ヲ用井其家屋內ノ財産ヲ竊取シタルニ係ル）明治四十三年 百七十一丁

一竊 盜 ノ件（戸壁ヲ毀壞シテ竊盜ヲ爲シタルニ係ル）明治三十二年 百七十六丁

一竊 盜 未 遂 ノ件（竊盜ノ爲メ建物ヲ毀壞シタルニ係ル）明治二十年 百七十九丁

一竊 盜 未 遂 ノ件（竊盜ノ爲メ人ノ邸宅ニ忍入リタルニ係ル）明治二十八年 百八十二丁

一竊 盜 ノ件（竹木伐採ノ際發見セラレタルニ係ル）明治二十三年 百八十五丁

一竊 盜 ノ件（物品ヲ竊取シ携ヘ去ランニ係ル）明治二十一年 百八十七丁

一竊 盜 ノ件（樹木ノ已ニ薪トナリタルモノヲ竊取シタルニ係ル）明治三十年 百九十二丁

一 田野穀物竊盜ノ 件(乾燥シアル穀類ヲ竊取シタルニ係ル) 明治十九年 第四百三十七號 百九十一丁
一 冒認ノ 件(共有ノ土地ヲ賣却シタルニ係ル) 明治二十年 第五百七十二號 百九十三丁

強盜罪ニ關ス

一 強盜ノ 件(追跡者ヲ傷ケタルニ係ル) 明治二十一年 第一千二百九十一號 百九十六丁
一 建物毀棄ノ 件(強盜ノ爲メ戸壁ヲ破壊シタルニ係ル) 明治十九年 第一千百十六號 百九十九丁
一 強盜ノ 件(強盜教唆ニ係ル) 明治十九年 第九百七十七號 二百三十三丁
一 強盜ノ 件(家宅ニ侵入シ其家人ヲ縛シタルモ物件ヲ取得セザルニ係ル) 明治十九年 第四百四十七號 二百十丁
一 持兇器強盜ノ 件(新竹ヲ携ヘ強盜ヲ爲シタルニ係ル) 明治二十年 第四百九十四號 二百十七丁
一 持兇器強盜ノ 件(使用上ノ兇器ニ係ル) 明治十九年 第四百四十五號 二百二十丁
一 強盜教唆ノ 件(強盜者ニ物件ヲ貸與シタルニ係ル) 明治二十年 第一千三百三十八號 二百廿三丁

遺失物埋藏罪ニ關ス

一 遺失物隱匿ノ 件(他人所有ノ家畜ヲ賣却シタルニ係ル) 明治二十年 第四百十二號 二百二十七丁

詐欺取財ニ關ス

一 詐欺取財ノ 件(公證ヲ經サル地所ヲ重テ抵當ニ入レタルニ係ル) 明治二十年 第六百三十五號 二百三十三丁
一 證書變造詐欺取財ノ 件(保管ノ物件ヲ賣却シタルニ係ル) 明治二十年 第六百三十八號 二百三十三丁
一 冒認ノ 件(承諾ヲ得ス共有物ヲ賣却シタルニ係ル) 明治二十年 第七百十六號 二百三十七丁
一 差押物脫漏ノ 件(假差押ヘタル米稻ヲ刈取リタルニ係ル) 明治二十年 第九百九十二號 二百四十四丁
一 詐欺取財ノ 件(依託物ヲ取匿シタルニ係ル) 明治二十年 第七百十二號 二百四十六丁
一 贓物故買ノ 件(拘留ニ科料ヲ附加シタルニ係ル) 明治二十年 第三百四十號 二百五十五丁

放火失火罪ニ關ス

一 放火ノ 件(惡ニ乘シ火ヲ放チタルニ係ル) 明治二十年 第二百二十六號 二百五十三丁
一 放火ノ 件(用法ヲ變シタル家屋ニ放火シタルニ係ル) 明治十九年 第四百八十號 二百五十八丁

一放火ノ件(放火故意ノ證據充分ナラ)明治十九年 第二百六十四丁

一失火ノ件(他人ノ財産ヲ燒燬シタルニ係ル)明治二十年 第二百六十六丁

一失火ノ件(嬰兒ヲ燒死セシメタルニ係ル)明治二十年 第二百六十八丁

陸軍刑法ニ關ス

一點呼召集ニ不應ノ件(點呼召集不應者ニ對シ陸軍刑法ヲ適用シタルニ係ル)明治二十年 第二百七十三丁

治罪法ノ部

總則ニ關ス

一私文書變造ノ件(假任所ヲ定メサルニ係ル)明治二十六年 二百七十五丁

一誣告及恐喝取財ノ件(控訴中公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲シタルニ係ル)明治二十一年 二百八十三丁

一姦淫負傷ノ件(被害者ニ於テ告訴ヲ取消シタルニ係ル)明治二十年 二百八十九丁

一強盜ノ件(還付ノ言渡ニ對シ檢察官ニ上告ヲ爲シタルニ係ル)明治二十五年 二百九十三丁

一官文書偽造ノ件(豫審判事公訴附帶ノ私訴ヲ棄却シタルニ係ル)明治三十五年 二百九十六丁

一誣告ノ件(豫審判事ニ於テ被告事件ヲ斥ケタルニ係ル)明治三十三年 二百九十九丁

一證書竊取詐欺取財ノ件(公訴私訴并起リ無罪ノ旨ヲ確定シタルニ係ル)明治二十年 三百二丁

一私書偽造ノ件(檢察官ニ對シ告訴ト共ニ私訴ヲ爲シタルニ係ル)明治二十年 三百四丁

一私書偽造詐欺取財ノ件(百圓以上請求ノ始審裁判ヲ不當トシ直チニ上告シタルニ係ル)明治十九年 三百九丁

告訴ニ關ス

一強姦ノ件(他人代テ告訴ヲ爲シタルニ係ル)明治十九年 三百十二丁

證人訊問ニ關ス

一山林盜伐ノ件(證人喚問ノ請求ヲ斥ケタルニ係ル)明治二十九年 三百十八丁

豫審終結ニ關ス

一 墮胎 〃 件 (豫審判事再調ノ請求ヲ拒絶シ直チニ豫審終結ノ旨ヲ爲シタルニ係ル) 明治二十七年 三百二十二丁

一 詐欺取財偽證 〃 件 (豫審終結ニ對スル故障ニ係ル) 明治三十九年 三百二十六丁

豫審上訴ニ關ス

一 官文書偽造 〃 件 (豫審言渡ニ故障ヲ爲シタルニ係ル) 明治二十七年 三百二十九丁

一 證書騙取及證書偽造私印盗用 〃 件 (原裁判所ノ認定シタル事實ヲ取消シ原裁判ヲ認可シタルニ依ル) 明治三十八年 三百三十二丁

第四編通則ニ關ス

一 官文書偽造 〃 件 (會議局ニ移シタル裁判官其公判ニ干預シタルニ係ル) 明治二十六年 三百三十六丁

一 竊盜 〃 件 (贓品ヲ賣却シ購求シタル物件ノ還附處分ニ係ル) 明治二十年 三百三十九丁

一 竊盜 〃 件 (竊取ノ殺類ヲ運ヒタル風呂敷ノ還付ニ係ル) 明治二十年 三百四十三丁

上告期限ニ關ス

一 私書偽造 〃 件 (書記ノ過失ニ由リ上告期限ヲ失シタルニ係ル) 明治二十年 三百四十五丁

再審ニ關ス

一 財產脫漏 〃 件 (再審ノ判決ニ對シ哀訴ヲ爲シタルニ係ル) 明治二十年 三百五十一丁

一 詐欺取財 〃 件 (民刑二個ノ裁判矛盾ヲ起シタルニ係ル) 明治二十年 三百五十一丁

一 失火 〃 件 (同一ノ事件ニ對シ刑ヲ受ケタルニ他ニ同犯者アリタルニ係ル) 明治二十年 三百五十三丁

裁判管轄ニ關ス

一 證書騙取 〃 件 (管轄違ノ控訴ニ對シ本案ノ裁判ヲ爲シタルニ係ル) 明治十九年 三百五十五丁

一 私書偽造 〃 件 (二個ノ裁判所ニ於テ豫審終結ノ旨渡確定シタルニ係ル) 明治二十年 三百六十丁

附言百九十二頁以下三頁ノ差アリ然レヒ之レヲ改メヌ目錄モ亦之レニ倣フ

明治二十年大審院刑事判決録

刑法ノ部

附加刑處分ニ關ス

○監視違犯ノ件明治二十年
甲第七百四十號

監視執行中逃走シ欠席裁判ヲ受ケ確定シタル場合ニハ其裁判言
渡後逃走ニ別ニ一罪ヲ構成スルヤ否

兵庫縣津國有馬郡下内上村二十九番地平民農村上豊吉ニ對ス

初審 神戸輕罪裁判所



本件 上豊吉ハ曩キニ竊盜ノ科ニ依リ再度重禁錮ニ處セ
テ主刑滿期後前顯下内上村ニ於テ監視執行中明治十九年十月逃走
セシヲ以テ同年十二月九日初審裁判所ニ於テ欠席ノ儘重禁錮六月ニ
處セラレ本年四月廿六日ニ至リ其裁判確定セリ然ルニ欠席裁判ヲ

二
言渡サレタル後其裁判確定ニ至ル迄引續キ逃亡シ監視規則違反ノ公
訴起リ明治廿年四月三十日初審裁判所ハ被告カ所爲ハ裁判言渡シ前
ノ監視違反ニ外ナラサレハ更ニ其罪ヲ構成スルモノニアラスト判定
シ治罪法第三百五十八條第二百二十四條ニ照シ免訴且放免スト言渡
シタルニ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ凡裁判言渡ハ對審ト欠席
トヲ問ハス既往ノ事實ヲ認ムルニ止マリ決シテ將來ノ事實ヲ認メ得
ヘカラサルヤ多言ヲ要セス果シテ然レハ甲號ノ裁判ハ明治十九年十
月以來同年十二月九日迄ノ事ヲ認メタルニ過キサレハ乙號ノ裁判ハ
同年十二月十日若クハ本年一月以來四月十八日迄ノ事實ヲ認メ而シ
テ其間被告ニ於テ監視規則ニ背タル廉アラハ之ニ對シ相當ノ刑ヲ言
渡シ而シテ甲號ノ刑ト比較シ一ノ重キニ從テ處斷スヘキハ勿論ナリ然
ルニ原裁判ハ單ニ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ治罪法第四百十條第十項
ニ相當スル原由アルモノナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告ハ其

理由ナキモノトシ棄却シタルモノニ係ル
其理由ニ曰ク上告ノ趣旨ハ要スルニ欠席裁判言渡後ノ逃走ハ別ニ一
罪トシテ罰スヘキモノナリト云フニ在リト雖モ凡逃走罪ハ假令數月
若クハ數年ヲ累タルモ其所爲引續キタル片ハ即チ一箇ノ繼續犯罪ニ
シテ之ヲ分離スヘキモノニアラス本案被告ニ於ケル一箇ノ逃走中甲
號裁判即チ關席裁判ヲ受クルト雖モ該裁判ハ未タ確定セス且該裁判
ノ後尙ホ未タ其監視ヲ履行シ始メタルニアラサレハ假令其逃走カ甲
號裁判ノ前後ニ涉ルモ一箇ノ繼續犯罪ニ過キサルモノナルカ故ニ之
ヲ以テ該逃走ヲ甲號裁判ノ前後ニ分チ以テ二箇ノ監視違反ト爲スヘ
キモノニアラストス故ニ原裁判所ニ於テ更ニ其罪ヲ構成スル者ニア
ラストシテ免訴シタルハ當然ニシテ本案上告ハ治罪法第四百十條各
項ニ適スル破毀ノ原由ナキモノトス

期滿免除ニ關ス

○監視規則犯ノ件明治二十一年
第五百九十一號

四

監視規則違犯ハ繼續犯ナルヤ將タ即時犯ナルヤ
栃木縣下野國河内郡西京村九拾二番地平民吉五郎三男形付職井
上庄八ニ對スル被告事件

初審 東京輕罪裁判所

本件ノ事實被告井上庄八ハ明治十六年十月廿日初審裁判所ニ於テ竊
盜罪ニ依リ重禁錮五月監視六月ノ處刑ヲ受ケ主刑滿期後本所區綠町
二丁目拾壹番地福田久次郎方ニ於テ監視執行中明治十七年四月三日
所轄警察署ノ許可ヲ得ス擅ニ監視執行地ヲ立去リ爾來上州館林又ハ
東京府下等ノ諸所ニ流寓中明治二十年十月三日ニ至リ捕押ヘラレタ
ルモノニテ同二十年十月初審裁判所ハ刑法附則第二十七條ニ違
背セシモノニ付刑法第五百十條ニ依リ處斷スヘキ犯罪ナルモ被告カ
其規則ニ違背シ擅ニ監視執行地ヲ轉シタル以來捕ニ就キタル迄ノ間

既ニ滿三年ヲ經過シ公訴ノ期滿免除トナリタルモノナルヲ以テ治罪
法第三百五十八條同第二百二十四條ニ照シ免訴且放免スト言渡シタ
ルニ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ所爲タル數十年ヲ經過
スト雖モ公訴期滿免除ヲ得ル限りニ非ス何トナレハ被告ハ逃亡以來
今尙ホ繼續シテ監視ノ規則ニ違背シ以テ監視ヲ遣レ居タルモノナレ
ハ其犯罪ノ止息ナキヲ以テナリ然ルニ原裁判茲ニ出テス公訴期滿免
除トナリタルモノト裁判シ言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ破毀
ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告ハ其理由ナキモノト認メ棄
却シタルモノニ係ル
其理由ニ曰ク刑法第六十條ニ明文アル如ク監視ノ刑タルヤ期滿免除
ヲ得スト雖モ其執行ヲ免レタルノ所爲即チ監視違犯ノ所爲ハ即時犯
ニシテ繼續犯ト云フヲ得サレハ原裁判所カ其犯罪ノ日ヨリ起算シテ
三年ヲ經過シ公訴期滿免除ニ係ルモノトシテ免訴ヲ言渡シタルハ相

五

當ニシテ決シテ據律ノ錯誤ト云フヲ得ス因テ上告ノ論旨相立タサルモ
ノトス

再犯加重ニ關ス

○監視規則違犯ノ件明治二十九年
第四百五十九號

監視規則ニ違犯シタルモノハ再犯ヲ以テ論シ刑法第九十二條ニ
依ルヘキヤ否

山口縣周防國佐波郡新田村平民古谷直吉ニ對スル被告事件

初審 山口輕罪裁判所

本件ノ事實被告古谷直吉ハ明治十九年九月八日詐欺取財ノ科ニ依リ
六月ノ重禁錮八月ノ監視ニ付セラレ主刑滿期歸途ノ際山口豊田氏名
知レサルモノ、家ニ於テ酒ヲ貰ヒ之ヲ飲ミ酩酊ノ餘監視票ヲ遺失シ
警察署ヘ出願セシ明治二十年八月廿六日迄處々ニ遁走シ居リタルモ
ノニテ明治二十年九月十三日初審裁判所ハ刑法附則第廿七條第一刑

法第百五十五條ニ違フモ前キニ竊盜ノ罪ニ依リ重禁錮ノ刑ニ處セラ
レタルヲ以テ同第九十二條ニ依リ一等ヲ加重シ一月ノ重禁錮ニ處ス
ト言渡タル裁判ニ對シ檢察官ハ被告ノ犯罪ハ再犯ヲ以テ論スヘキモ
ノニアラサルニ原裁判ノ爰ニ出サリシハ不法ナリト論シ上告ヲ爲シ
タリ刑事局ニ於テハ上告論旨ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原
裁判ヲ破毀シ直ニ刑法第百五十五條ニ依リ十五日以上六月以下ノ重
禁錮範圍ニ於テ被告古谷直吉ニ對シ廿日ノ重禁錮ニ處スト言渡シタル
モノニ係ル
其理由ニ曰刑法第百五十五條ヲ按スルニ監視ニ付セラレタル者其規
則ニ違背シタル時ハ云々ニ處スト又其第百五十六條ニハ「前二條ノ罪
ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス」
トアリテ其再犯加重例ハ普通一般ノ法ト差別アルヲ明白ナリトス然
ルニ原判文ニ因レハ被告ヲ監視ニ付セラレタル以降初テ其規則ニ違

背シタル事實ヲ明認シナカラ獲キニ竊盜ノ罪ヲ犯シ重禁錮ノ刑ニ處
 セラレタルコトアリトノ理由ヲ以テ未タ監視規則違犯ノ再度ニ及ハサ
 ルモノヲ刑法ノ再犯加重例ニ照依シ同第五百五十五條ノ刑ニ一等ヲ加
 ヘ處斷シタルハ上告論旨ノ如ク前顯法律ニ違ヒタル裁判ニシテ即チ
 治罪法第四百十條第十二該當スル攬律ノ錯誤ナルモノニシテ破毀ノ
 原由アルモノトス

加減順序ニ關ス

○未決囚逃走及官吏毆傷ノ件明治十九年
第四百四十一號

豫メ謀テ人ヲ毆傷シタルモノニ對シテハ刑法第三百二條及ヒ第
 三百三條ヲ適用シ二等ヲ遞加スヘキヤ否

兵庫縣播磨國印南郡梅井村平民農木山清太郎ニ對スル被告事件

初審 大阪輕罪裁判所

本件ノ事實被告木山清太郎ハ明治十九年六月二十九日大阪重罪裁判

所ニ於テ強盜傷人罪ニ依リ無期徒刑ノ言渡ヲ受ケ上告中大阪府堀川
 監獄未決監第七房ニ收監セラレ在同房囚岸鹿藏吉村久三郎玉水常次
 吉村大二郎ト俱ニ反獄逃走セント通謀シ吉村久三郎ヨリ當時押丁眞
 鍋市太郎ニ依頼シ竊カニ差入貫ヒタル鋸ヲ以テ看守人ノ隙ヲ覗ヒ監
 房出入口上部ノ格子ヲ切破リ明治十九年七月十一日夜各自監内厠ノ
 蓋板ヲ携ヘ監外ニ突出シ登時巡視ノ同監獄詰看守池田謙助ニ暴行ヲ
 加ヘ終ニ同人ヲ打倒シ其携帶シタル刀劍ヲ奪ヒ取り勢ニ乘シ現場ニ
 驅ケ集ル看守押丁ニ打掛リ戰鬪中玉水常次吉村大二郎ハ外柵ヲ踰越
 逃走シ吉村久三郎岸鹿藏ハ負傷ノ爲メ即死シ被告ハ浴場竈内ニ潜伏
 セシヲ搜索逮捕セラレ看守池田謙助中山健造等ハ被告等ニ毆傷セラ
 レ各二十日以上疾病休業ニ係リタルモノニテ明治十九年十一月廿五
 日初審裁判所ハ刑法第四百四十四條第四百四十二條二項第四百四十五條第
 百四十九條第一百十二條ニ照シ一等ヲ減シ毆打創傷ノ罪ハ同第三百一

十
條一項第三百二條第三百三條第三百五條ニ照シ一等ヲ加ヘ尙ホ一等
ヲ加ヘ更ニ一等ヲ減シ囚徒逃走未遂ノ罪ハ重禁錮二年ニ毆打創傷罪
ハ重禁錮三年ニ處ス曩キニ上告シタル重罪ハ本案犯罪ノ後自カラ取
消又ハ理由ナクシテ已ニ確定シタルヲ以テ刑法第百條第三項ニ依リ
重罪ノ刑ノミ執行ヲ受クヘキモノナリ但押収シタル鋸ハ刑法第四十
三條第四十四條ニ照シ沒収シ刀劍四本ハ治罪法第三百八條ニ依リ各
所有主ニ還付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告ハ右囚徒未遂ノ罪ハ
犯シタルモ毆打創傷ノ罪ハ犯サ、ルナリ而シテ向キニ無期徒刑ノ裁
判言渡ヲ受ケ確定シタルモノナルニ付前顯ノ罪ハ刑法第百二條ニ照
シ更ニ論スヘキモノニアラサルニ原裁判爰ニ出サリシハ擬律ノ錯誤
ナリト論シ上告ヲ爲シ檢察官ハ第一原裁判所カ刑法第三百二條ニ依
リ本刑ニ一等ヲ加ヘ又同第三百三條ニ依リ更ニ一等ヲ加ヘタルハ擬
律ノ錯誤ナリ第二原裁判所カ被告ノ破獄逃走未遂罪ヲ重禁錮二年ニ

處シ毆打創傷罪ヲ重禁錮三年ニ處シタルハ刑法第百條ニ背ク越權ノ
處分ナレハ破毀ヲ求ムト論シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ被
告カ上告並ニ毆打創傷ノ點ニ係ラサル附帶上告ハ治罪法第四百二十
七條ニ從ヒ之ヲ棄却シ毆打創傷ニ對スル原裁判ハ附帶上告ニ基キ之
ヲ破毀シ被告カ他ノ五名ト謀リ反獄逃走セントシテ共ニ看守三名ヲ
毆傷シ各二十日以上疾病休業ニ至ラシメタル其毆打創傷罪ハ各刑法
第三百三條ニ依リ第三百二條ノ例ニ從ヒ第三百一條初項ノ刑ニ第七
十條ノ制ヲ以テ一等ヲ加ヘ一年三月以上三年五月以下ノ重禁錮ニ處
スヘキ處其共ニ毆テ成傷者判明セサルニ依リ同第三百五條ニ基キ第
七十條ノ制ヲ以テ該刑ニ一等ヲ減シ十一月七日以上二年九月廿二日
以下ノ重禁錮範圍内ニ於テ被告木山清太郎ヲ二年ノ重禁錮ニ處ス但
刑法第百條ニ依リ一ノ重キ刑ノミ執行スルロハ原裁判言渡ノ如シ判
文刑法第百條ノ下第三ト宣告シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク被告於テ原裁判所カ刑法第百二條ヲ適用セスシテ第百條ニ依リシハ不當ナリト論告スレヒ其第百二條ハ一罪前キニ發テ判決ヲ經ル際已ニ犯セル餘罪アルモ尙ホ未タ發セスシテ他日之レカ發覺セシ場合ニ適用スヘキモノニシテ本件ノ如キ前キノ裁判上告ニ係リ未タ確定セサル間ニ於テ復タ罪ヲ犯セシモノニ該當セサレハ原裁判所カ刑法第百條ニ依リシハ至當ナリトス仍ホ毆打創傷ノ罪ヲ犯セシコトナシト云ト雖ヒ其事實ヲ判定スルハ原裁判所ノ特權タルヲ以テ箇ハ上告ノ原由トナラス又原檢察官ニ於テ被告ノ破獄逃走未遂犯ト毆打創傷罪ニ對シ原裁判所カ各自ニ其刑ヲ科セシハ不當ナリト主張スレヒ刑法第百條ハ一ノ重キ罪ヲ論シテ其他ヲ不問ニ付ストノ趣旨ニアラス皆ナ之ヲ論シテ一ノ重キ刑ノミ執行スルトノ精神ナレハ原裁判所カ其二個ノ罪ヲ論シテ各自ニ相當ノ刑ヲ科シ該條ニ則リ一ノ重キ刑ノミ執行受クヘシト命シタルハ不法ニアラス然レヒ原裁判所

カ其毆打創傷罪ニ對シ刑法第三百二條第三百三條ヲ適用シテ本刑ニ二等ヲ追加セシハ原檢察官附帶上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス何トナレハ其第三百三條ハ豫謀ニ出ツルト否トヲ問ハス重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ已ニ犯シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ毆打創傷シタル者ハ皆ナ本條ノ制裁スヘキモノニシテ斯カル場合ニ其第三百二條ヲ別ニ適用スヘキモノニアラサレハナリ

數罪俱發ニ關ス

○強盜ノ件明治二十二年七月九十四號

夜間家宅ニ忍ヒ入り飯ヲ喫シ強盜ヲ爲シタルモノハ數罪俱發ニ問フヘキヤ將タ一罪ナルヤ

德島縣阿波國美馬郡喜多庄村土族水車業藤川九平(廿二年八月生)ニ對スル被告事件

初審 宮崎重罪裁判所

本件ノ事實被告藤川九平ハ第一明治十九年四月中旬宮崎縣宮崎郡川原町寄留泰熊助ハ同縣ニテ縁族ノ者ニシテ國元ヨリ熊助ヲ便リ來リ滯在中熊助ハ金物商業ニ付被告モ店向ノ手傳致居リ賣上金ハ自由ニ取扱ヒ明治十九年五月五日午前十時頃筆筒ノ引出ニ在ル金貳拾壹圓三拾錢ヲ竊ニ盜ニ取リ直ニ熊助方ヲ逃出シ一里許リモ逃行キ追手ニ取押ヘラレ内拾貳圓三拾錢ハ還付シ猶ホ殘リ九圓ヲ隱クシ第二明治十九年八月六日午前第二時頃前文泰熊助カ留守中ヲ附込ニ該家ノ裏板扉ヲ乘踰ヘ兩戸ノ鎖鑰ヲ捻切り忍入り裏庭ニ於テ大便ヲ爲シ之ニ鹽ヲ伏セ置キ又臺所ニ在ル飯籠ノ飯ヲ喰ラヒ其レヨリ坐敷ノランプノ燈火ヲ細ムル等彼是スル内熊助カ妻エミカ目覺タルヲ以テ被告ハ直チニ床ノ側ニ來リ何モ騒クヲ勿レ今晚ハ相談アリテ來リシナリ若シ騒クニ於テハ打放ス杯ト威シ店棚ノ簞笥ヨリ金三拾六圓八拾錢ヲ奪ヒ取リタルモノニテ明治二十年四月廿八日初審裁判所ハ第一ノ竊

盜ハ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ依リ犯時二十歲未滿ナルヲ以テ同第八十一條ニ照シ一等ヲ減シ強盜ハ同第三百七十八條ニ依リ二罪俱發スルヲ以テ同第百條ニ照シ一ノ重キニ從ヒ輕懲役八年ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ原裁判ハ第二ノ事實ヲ以テ強盜トセラレタルモ豫審又ハ故障ニ於テ陳述セシ如ク脅迫シテ金ヲ奪取シタルコトナク云々ト論シ上告ヲ爲シ檢察官ハ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一被告カ熊助方ヘ忍入りエミヲ脅迫シ金員ヲ強取スル前該家飯籠ノ飯ヲ喫食シタルハ竊盜罪ナリ此點ニ付公訴ヲ爲シタルモ判官ハ其事實ヲ認メナカラ何等ノ理由ヲモ付セス判決ヲ與ヘサルハ越權ナリ第二被告ハ一人ニテ忍ヒ入りタルニアラス他ニ一人ノ共謀者アリタルハエミ等ノ陳述書及證據物タルニ足ノ草鞋ニ由ルモ明カナリ然ルニ其草鞋ヲ證據ト爲シナカラ單ニ刑法第三百七十九條三百七十八條ノ誤ヲ適用シタルハ不法ノ裁判ナリト云ヒ又被告代官人カ上告趣意

ヲ擴張シタルハ第一藤川九平脇書ニ二十二年八月生トアルハ何ヲ指シタルヤ明瞭ナラス第二判文第一ノ事實ハ竊盜ヲ以テ論シタリ然ルニ公判始末書ヲ見ルニ被害者ハ被告ノ姉ノ夫ナレハ即チ兄ナリ而シテ被告ハ當時同居ナレハ竊盜ヲ以テ論スルノ限リニアラス第三未丁年者ヲ減等スル刑法第八十一條ヲ揭ケナカラ判決ニ至リ減等ヲ爲サス輕懲役八年ニ處シタルハ擬律錯誤ナリト論告シタリ刑事局ニ於テハ上告附帶上告及上告擴張論旨トモ總テ其理由ナキモノト認メ治罪法第四百二十七條ニ則リ棄却シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク被告カ上告ノ理由ハ竊盜ノ所爲ニテ強盜ノ事實ニアラズト云フニアルモ假令最初如何ナル手段ヲ以テ竊ニ忍入リタルニモセヨ既ニ被害者ニ覺知セラル、ニ際リ暴行脅迫ヲ以テ財物ヲ強取シタル上ハ純然タル強盜ノ事實ニシテ原判官カ諸般ノ證憑ニ依リ其事實ヲ認メタルニ於テハ他ヨリ之ヲ非難スルヲ得ス何ントナレハ諸般

ノ證憑ヲ取捨シ事實ヲ判定スルハ原判官ノ權内ナレハナリ依テ被告ノ論旨ハ上告ノ理由ト爲ヌヲ得ヌ又原檢察官附帶上告第一ノ理由ハ金員強取前喫食シタルハ一個ノ竊盜罪ナルニ判決ヲ與ヘサルハ不法ナリト云フニアルモ原判文ニ認メタル事實ハ其喫食セシト金員ヲ強取セシトハ其所爲間斷ナク前後繼續シテ即チ竊盜中強盜罪ニ變シタルモノト爲シ刑法第三百七十八條ニ依リ處斷シタルハ敢テ判決ヲ與ヘサルモノト云フヲ得ヌ其第二ノ理由ハ二人共謀シテ犯シタル證憑明カナルニ單ニ一人ニテ犯シタル法條ノミ適用シタルハ擬律錯誤ト云フモ個ハ原判官ノ認メサル事柄ヲ揭ケ採證及ヒ事實ノ認定ニ非難ヲ容ル、モノニテ上告ノ理由ナキモノトス又代言人ノ擴張第一ニ論スル二十二年八月生トハ被告ノ年齢ヲ示シタルモノニテ本案裁判ノ年即チ明治二十年ニ在テ被告ハ二十二歳ニシテ八月ノ出生ト云フ義ニテ滿年ヲ以テ算スルルハ裁判ノ當月即チ明治二十年四月ニ於テ二

十年九月トナル而シテ之ヲ犯罪ノ當時ニ溯リ算スレハ第一ノ犯罪
 明治十九年五月ニ在テハ十九年八月ニシテ第二ノ犯罪明治十九年
 八月ニ在テハ廿年一月ナルヲ確知スヘケレハ刑ノ適施ニ付キ事實
 ノ不明ナルヲナシ故ニ原裁判所カ法律適用ニ至リ第一ノ犯罪ニ付テ
 ハ刑法第八十一條ヲ適用シテ減等ヲ爲シ第二ノ犯罪ニ付テハ該條ヲ
 適用セシメテ二罪中一ノ重キ第二ノ犯罪ニ付テハ該條ヲ適用セシ
 テ二罪中一ノ重キ第二ノ犯罪ニ從ヒ輕懲役ニ處シタルハ擬律其當ヲ
 得タルモノナリ故ニ擴張第三ノ擬律錯誤トノ論點ニ對シテモ此辯明
 ヲ以テ充分了解シ得ルニ足ルモノナレハ二個ノ論旨共ニ相立サルモ
 ノトス而シテ第二ノ理由ハ被害者ハ被告ノ姉ノ夫即チ兄ニテ同居ス
 ル者ナレハ第一ノ所爲ハ竊盜ヲ以テ論スル限リニアラスト云フモ姉
 ノ夫ハ所謂姉婿ニシテ即チ姉ノ配偶者ナレハ刑法第三百七十七條ニ
 掲ケタル同居ノ兄弟ト稱スヘキモノニアラサルヲ以テ本條ニ依ルヘ

キモノニアラス畢竟此論旨ハ法律ノ誤解ニ出ツルモノニテ上告ノ理
 由トナスヲ得サルモノトス

・官印及ヒ官文書偽造罪ニ關ス

○官文書變換ノ件明治二十年
第六百二十號

名稱ノ凡俗ナルヲ厭ヒ戶籍簿ヲ改竄シタルモノハ刑法第二百三
 條ニ該當スルヲ將々問擲スヘキ法條ナキヤ

島根縣石見國美濃郡石谷村土族雜業羽田榮治ニ對スル被告事件

初審 松江重罪裁判所

本件ノ事實被告羽田榮治ハ石見國美濃郡澄川村外三ヶ村戶長役場用
 係ヲ奉職シ兵事戶籍簿等ヲ自宅ヘ持歸リ居ルヲ幸ヒ自己及家族ノ名
 稱凡俗ナルヲ厭ヒ明治十八年七月廿日被告宅ニ於テ擅ニ石見國鹿足
 郡森村外四ヶ村戶長平田正表ヨリ同國美濃郡澄川村外三ヶ村戶長宛
 送付シタル被告全家ノ送籍證中羽田榮治ト記載シアルヲ羽田榮紘ニ

變換シ同戸籍寫中羽田榮治トアルヲ羽田榮胤ニ祖父相之助ヲ久満ニ父岩治ヲ久忠ニ豐吉ヲ久開ニ榮治庶子久幸ヲ榮胤庶子ニ變換シ且久幸ノ脇書ニ母ハ美濃郡澄川村平民中本宗太郎長女アヤトアルヲ削除シ及ヒ戸籍簿モ亦前同様ニ改竄シタルノミナラス尙榮胤ヲ有孝ニ壽八ヲ壽開ニ變換シ右變換シタル戸籍簿等ハ之ヲ戸長役場へ差戻シ置キ事既ニ發覺シタル後ニ於テ明治十九年八月廿日右ノ始末ヲ濱田支廳檢事局へ自首シタルモノニテ明治二十年三月三十日初審裁判所ハ刑法第二百三條ノ第一項ニ依リ輕懲役ニ處スヘキ處犯狀原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同法第八十九條第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ一年六ヶ月ノ重禁錮ニ處シ仍ホ第二百七條ニ依リ監視八ヶ月ニ付ス但自首發覺後ニ係リ以テ減等ノ限ニ非ス證據物件トシテ差押ヘアル送籍證戸籍改名屆等ハ澄川勝亮ニ還付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一原裁判官ノ認メタル外ニ變換ノ事

實アルヲ舉示セス云々第二戸籍簿ハ之ヲ變換スルモ社會ニ害毒ヲ流サ、レハ其罪ハ行政上ノ處分ニ止マリ刑法上ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス第三被告ハ犯時精神病ニ罹リ善惡ヲ辯セサリシ云々ト論シ大審院立會檢事ハ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ本件ハ文書偽造罪ニ必要ナルニ原素中惡意ノ原素ヲ欠缺セルヲ以テ完全ナル偽造罪ヲ構造セサルモノニシテ原裁判ハ據律錯誤ナレハ破毀シテ無罪ノ言渡アラント望ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ附帶上告ニ基キ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ被告カ所爲ハ罪トナラサルモノト認メ治罪法第四百一條ニ依リ被告羽田榮治ニ對シ無罪且放免スト言渡シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク文書偽造變造ノ罪ハ眞實ヲ變換スルヲ害ヲ生スルヲ惡意アルヲノ三要件ヲ具備スルニ非サレハ構成セサルモノトス本案被告カ所爲ハ擅ニ戸籍簿中ノ名字ヲ改竄シタルハ眞實ヲ變換スルノ事

柄ニシテ害ノ生スルモノタルハ言ヲ俟タヌ素ヨリ善良ノ所爲ニ非サルナリ然レトモ其意思ノ如何ヲ推究スレハ自己及家族ノ名稱凡俗ナルヲ厭ヒタルマテニシテ他ニ又那ノ意思ナキハ原判文證明シタル事實ニ依テ明瞭タリ果テ然レハ惡意ノ一原素ヲ欠キタルモノニシテ其變換ノ罪ヲ構成セス刑法ノ制裁ヲ受クヘキモノニ非ス然ルニ此惡意ノ一原素ヲ欠キタル事實ヲ認メナカラ官文書變換ノ刑ヲ適用シタルハ則チ擬律ヲ錯誤シタル不法ノ裁判ナリトス

○官文書偽造ノ件明治二十年
第四百七號

入籍願書ヲ偽造シ戸長ノ與書ヲ得テ郡長ヘ差出シ其指令ヲ受ケタルモノハ罰スヘキ法條ナキヤ否

神奈川縣北多摩郡府中驛土族雜業井上由藏岐阜縣中島郡須賀村平民惣兵衛弟無職業井上七太郎ニ對スル被告事件

初審 横濱重罪裁判所

本件ノ事實被告井上七太郎ハ明治十五年徵兵年齡ニ相當スルヲ以テ兵役ヲ免レン爲メ本籍地ヲ逃亡シ爾來井上勇ト稱シ潜伏中明治十八年六月十九日岐阜輕罪裁判所ニ於テ徵兵忌避事件ニ付重禁錮壹月罰金三圓ノ獄席裁判ヲ受ケタリ然ルニ被告ハ右言渡アリタルヲ知ラサルモ首尾能ク兵役ヲ免レンコトヲ遂クル爲メ被告由藏ニ該情實ヲ明シ由藏ノ長男ニシテ從來脱籍シ居タルコトヲ取扱ヒ由藏方ヘ入籍センコトヲ請求シ被告由藏ハ其請求ヲ承諾シ共ニ謀テ七太郎事勇ハ由藏「カメ」ノ出ニシテ「カメ」病死後他ヘ里子ニ預ケタル儘王政維新ノ變改ニ際シ親子離散シ互ニ其行衛ヲ詳ニセス其後明治十九年十月ニ至リ圖ラヌ再會スルコトヲ得タル体ニ偽リ右虛構ノ事柄ヲ書キ綴リタル脱漏入籍願ト題スル願書ヲ作り明治十九年十二月十日神奈川縣北多摩郡府中驛戸長岩崎秀三郎ノ與書ヲ受ケ是ヲ同郡長ニ差出シ入籍認可ノ指令ヲ得タルモノニテ明治二十年七月廿日横濱重罪裁判所ニ於テ右被告

兩名カ脱漏入籍願書へ戸長ノ與書ヲ得テ郡長へ差出シタル所爲ハ律ニ罰ス可キ正條ナキヲ以テ刑法第二條ニ依リ無罪ヲ言渡シ且放免スト雖也氏名身分等ヲ詐稱シタル所爲ハ刑法第二百三十一條ニ該當スルヲ以テ被告由藏ニ對シテハ罰金十圓被告七太郎ニ對シテハ罰金十五圓ニ處ス但入籍願書ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收スト言渡シタルニ檢察官へ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ刑法第二百四條ニ所謂其他ノ文字タル其意況キモノニシテ其法律上ニ關スルト行政上ニ係ルトヲ問ハス尙モ惡意ヲ以テ其公證即チ與書證印ヲ偽造シ若クハ其官吏ヲ欺キテ之レカ公證ヲ爲シシメタル者ハ皆同條ノ制裁ヲ受ケサル可ラス是レ其人民私ニ爲スヲ得ヘカラサルモノニシテ而シテ其詐僞ノ公證アル文書ノ一旦世間ニ出ツルニ當テハ其信用ヲ破リ其安寧ヲ害スル其性質ノ如何ニ因テ區別アルモノニ非レハナリ夫レ法律上ニ關スルモノ例へハ地所建物ノ質入書入賣買讓渡證書偽造行使スルト行政上

ニ係ル者例へハ不正ノ事ヲ遂クル爲メ虛構ノ願書ヲ作り官吏ヲ欺キテ之ニ與書證印ヲ爲サシメ以テ官署ヲ瞞着シ其欲望ヲ達スルト其官ヲ蔑視シ其德義ヲ傷ケ其信用ヲ破リ其安寧ヲ害スルノ點ニ於テ何ソ擇ハン或ハ刑法第二百四條ニ其他云々トアルハ專ラ財產上ニ關スルモノニ限ルト謂ハンモ是レ債主ト人トヲ知テ法律ト官トヲ識ラサルモノナリ凡ソ虛無ノ事情ヲ捏造シ以テ官私ヲ詐欺スル者各其爲メニスル所アリテ然ラサル可ラス而シテ財產ニ關シテ其人ヲ詐ルノ手段ハ之ヲ罪トシ己レノ爲メニスル所アリテ其官ヲ欺クノ手段ヲ無罪トセハ權衡其平ヲ失スルノミナラス公證ナルモノ、無キ方今ニ於テハ其他云々ノ文書ハ徒文ニ屬シ奸曲ノ徒以テ私ヲ營ミ社會ノ秩序隨テ紊亂セン豈ニ之ヲ不問ニ措テ可ナランヤ然ルヲ本件被告カ戸長ヲ欺キ其與書證印ヲ受ケ之ヲ郡長ニ差出シ入籍認可ノ指令ヲ得シ所爲ヲ法律ニ罰ス可キ正條ナシトシテ無罪ヲ言渡シタルハ見解ヲ誤リシモ

ノナリ又刑法第二百三十一條ノ精神タル蓋シ身分等ヲ詐稱シ以テ官署ヲ瞞着スル者ハ現ニ公害ヲ生セサルモ其事ニ當リ誤リヲ生シ多少ノ害無キヲ保ス可ラス故ニ之ヲ罰金ノ刑ニ處スル者ナル可クシテ本案事實ノ如キ場合トハ同日ノ論ニ非ラサルナリ然ルヲ本案事實ニ適用スルニ本條ヲ以テシテ各罰金ノ刑ニ處シタルハ擬律ノ錯誤ナリ加之ナラス裁判言渡書ニハ止マ其氏名身分等ヲ詐稱シタル所爲ハ「トアルノミニシテ其詐稱ハ果シテ文書ヲ以テセシヤ將タ言語ヲ以テセシヤヲ詳示セサルハ理由ノ不備ナリ況ンヤ假令ヒ本案虛構ノ願書ヲ以テセシモノトスルモ豫審判事ハ其願書ハ戸長ノ與書ヲ經ルニ非サレハ其効ナキニヨリ私書偽造ノ罪ハ成立タハサルモノトシテ已ニ免訴ノ言渡ヲ爲シアルニ於テオヤ因テ原裁判ノ破毀ヲ請フト云ヒ被告兩名答辯ノ要旨ハ法律ノ適用ハ極メテ汎博ナル場合ト雖モ荷モ法ニ明文ナク其精神ニ於テ禁止セサル以上ハ決シテ條文ヲ敷衍シテ適用ス

可キモノニ非サルナリ故ニ檢察官ノ上告論旨ハ法律ノ制裁ト道徳ノ制裁ヲ混同セシニ起リシモノト云フ可シ何トナレハ行政上ノ文書ナル本案ノ如キ戸長ノ與書ハ單ニ其願人若クハ届人ノ住所身分年齢ヲ確ムルニ過キスシテ地券公債證書ノ賣買讓渡書ノ公證ノ如キモノト其性質ヲ異ニスレハナリ刑法第二百四條ヲ以テ罰ス可キモノハ鐵道假免狀即チ會社ノ負債保證書ノ如キ公債證書等ト同様ナル重且大ナルモノニ限ル法意ナレハナリ故ニ被告ノ所爲ハ明カニ刑法第二百三十一條ノ制裁中ニ包含ス可キモノト確信スト云ヒ大審院立會檢事ハ上告趣意ヲ辯明シ且擴張シテ曰ク原判文ニ右被告兩名カ脫漏入籍願書へ戸長ノ與書ヲ得テ郡長へ差出シト有罪タル事實ヲ認メナカラ之ヲ刑法第二百四條ノ其他云々トアルニ照ラサスシテ刑法第二條ニ依リ無罪ト言渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリト又被告代言人ハ答辯ノ趣意ヲ説明シ且被告カ豫審ニ於テ免訴セラレシハ私書偽造ノ事ニシテ身

分詐稱ノコニアラス又身分詐稱ノ點ハ公訴狀中ニ含有セラレタル事
ナレハ原裁判ハ至當ニシテ間然スル所ナシト陳辯シタリ刑事局ニ於
テハ原裁判ヲ是認シ上告ハ皆其理由ナキモノトシ治罪法第四百二十
七條ニ照シ棄却シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク刑法第二百四條ニ規定セラレタル官吏ノ公證シタル文
書トハ其明文ノ如ク公債證書地券ハ勿論地所建物ノ質入書入又ハ賣
買讓與等各其規則ニ從ヒ相當官吏ノ公證ヲ得テ其効カヲ生セシムル
證書類ヲ指稱スル謂ニシテ本案脱漏入籍願書與書調印ノ如キハ之ヲ
郡長ニ差出シ唯其認可ヲ得ルニ止マルモノナレハ之ヲ以テ右ノ法律
ニ定メラレタル公證文書トハ云フヲ得サルニ付該與書調印ヲ視テ官
吏ノ公證ト做ス上告趣意ハ其當ヲ得サルモノトス又刑法第二百三十
一條ヲ以テ被告ヲ各々罰金ニ處シタルヲ不當ト訴フルモ這ハ前掲原
裁判所ノ認定シタル事實ニ妥當ナル法律ノ適用ニシテ又原裁判ヲ以

テ理由不備或ハ一件再理トスルモ其一ハ原判文ヲ通讀セハ乃チ其文
書ヲ以テ詐稱シタルノ理由ハ自カラ明ニシテ其二ハ上告者モ自唱ス
ル如ク豫審ニ於テ免訴セシハ私書偽造ノ點トアリテ身分詐稱ノ被告
事件ニアラサレハ相立タサル上告趣意ニシテ又本院立會檢事ノ擴張
論告ナル刑法第二百四條云々ノ點ハ已ニ與ヘタル辯明ノ如クニシテ
刑法第二百四條ノ制裁外ニ屬スルモノトセハ原裁判相當ニシテ擬律
ヲ誤リタルモノニ非ストス

○官印盜用ノ件明治二十年
第四百二十號

公證アル證書ヲ偽造シタルモノハ公證ノ前後ヲ以テ官文書及私
文書偽造ノ二罪ニ問フヘキヤ否

千葉縣下總國東葛飾郡木野崎村八十四番地平民農業大塚政右衛
門ニ對スル被告事件

初審 千葉重罪裁判所

本件ノ事實被告大塚政右衛門ハ居村戸長奉職中明治十五年六月三十日曾テ武藏國北足立郡草加宿高山五郎右衛門ヨリ借入タル金五百圓ノ證書書換ニ際シ自己ノ所有タル居村耕地ノ内千百四十番字天神向田九畝五步外二筆ハ明治十三年八月廿二日石塚市郎左衛門ニ貸渡シ當時ノ筆生中村彌次兵衛ノ公證ヲ受ケ堀越秀助ヘ講金ノ抵當ニ差入レ又二千八百四十番字神明下田五畝二十一步ノ外五筆ハ明治十五年一月十日當時ノ筆生小山清五郎ノ公證ヲ受ケ小管作治ヘ借金ノ抵當ニ差入レ又千七百二十七番地字下鹿野田七畝七步外三筆ハ明治十三年六月三十日筆生小山清五郎ノ公證ヲ受ケ植竹八平外連中ヘ講金ノ抵當ニ差入レ又千六百六十番字三角平林九段貳畝拾步ハ明治十一年十一月廿一日當時ノ副戸長濱野久右衛門ノ公證ヲ受ケ横錢松五郎ヘ講金ノ抵當ニ差入アルヲ欺隱シ外五筆ノ地所ト共ニ抵當ト爲シ自ラ借主トナリ高山五郎右衛門ヘ宛タル金五百圓ノ借金證書ヲ作り其情

ヲ告ケス假野兵右衛門ヲ保證人トシテ連署セシメ已ニ死亡セシ大塚彌五右衛門ヲ保證人トシテ詐記シ當時ノ筆生ト申合セ公證ヲ偽造シ自ラ管守スル戸長役場印ヲ盗用シ該證書ヲ五郎右衛門ニ交付シタルモノニテ明治二十年八月廿六日初審裁判所ハ被告第一ノ所爲ハ刑法第百九十七條第百九十五條ニ該リ第二ノ所爲ハ刑法第二百四條第一項ニ該リ第三ノ所爲ハ刑法第二百十條第一項第二百十二條ニ該ル數罪俱發ニ係ルモノトシ同第百條ニ照シ一ノ重キ第一ノ罪ニ從ヒ刑法第百九十七條ニ依リ重懲役九年ニ處スト言渡シタルニ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一戸長役場ニハ筆生等ノ吏員アリテ職務ヲ分擔從事スルヲ以テ役場印ノ看守ハ果シテ何人ノ爲スヘキヤヲ審究シ其局ニ當ルモノヲ確カメ其實ヲ負ハシムヘキハ當然ナルニ此等ヲ確メスシテ被告ヲ看守者ト見做處斷シタルハ不當ナリ第二被告カ第二ノ所爲ヲ分別シテ二罪ヲ以テ罰シタルハ不當ナリ第三原裁判所ハ二重抵當

ノ所爲アルヲ認メ判文ニ明記シナカラ法律適用ニ至リ一語モ此點ニ及ハサリシハ不當ナリト云ヒ代官人ハ原判文ニ二重抵當タルヲ欺隱シトノミアリテ其欺隱シアル方法ヲ明悉セス又筆生ト申合セトノミアリテ其筆生ノ氏名ヲ明記セサル等ハ事實理由ノ不備ナリト論シ上告ノ趣意ヲ擴張シタリ刑事局ニ於テハ上告第二論旨ハ適當ト認メ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ直チニ被告カ第一戸長役場印ヲ盜用シタルハ刑法第百九十七條第二項同第百九十五條ニ該リ其第二公證偽造行使ノ所爲ハ同第二百四條第一項ニ該ル數罪俱發ニ係ルヲ以テ同第百條ニ照シ一ノ重キ第一ノ罪ニ從ヒ被告大塚政右衛門ヲ重懲役九年ニ處ス但上告ニ係ラサル私印偽造ノ點及證據物還給處分ハ原裁判言渡ノ通リタルヘシト言渡シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク被告カ上告第一論旨ハ抑モ被告ハ戸長役場印ノ監守者ナルヤ否ヤヲ斷スルハ全ク事實認定上ニ屬スル事柄ナルノミナラス戸

長役場印ハ一時筆生等ニ取扱ハシムルト否トヲ問ハス素ト其役場ノ戸長ニ於テ監守ノ責ニ任スヘキモノナルヲハ茲ニ多言ヲ俟サル處ニシテ而シテ原判文ニ徵スルニ裁判官ハ既ニ被告カ戸長奉職中其役場印ヲ盜用シタル事實ヲ確認シ其理由ヲ明瞭ニ判示シ相當ノ處分ヲ爲シタルヲ明晰タレハ今ヤ之ヲ動カシ得ヘキモノニアラス何トナレハ事實ノ認定ハ法律上裁判官ニ任從シタル職權ニシテ他ヨリ論難スヘキモノニアラサルノミナラス原判文上被告ヲ役場印ノ監守者ナリト認メタル事實理由明瞭ニシテ闕クル處アルヲ見サレハナリ又其第三論旨ハ治罪法第二百七十六條ニ依ルニ裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事キニ付裁判ヲ爲ス可キモノニアラス本案地所重抵當事件ノ如キハ之ヲ公訴狀又ハ公判始末書中原檢察官法律適用ノ意見ヲ述ヘタル處ニ徵スルモ隻語モ此點ニ論及シタル處アルヲ見サルハ則チ訴アラサル事柄ニ係ルヲ明カニシテ而シテ之ヲ辯論中發見シタル附帶犯ナリ

トモルモ其之ヲ問フト否トハ専ラ裁判官ノ意見如何ニ屬スルモノナ
 レハ裁判官ニ於テ之ヲ問フヘキモノト認メスシテ不問ニ付シタリト
 テ敢テ不當ト云フヲ得ス況ンヤ裁判官ニ於テ不問ニ付シタル事柄ヲ
 被告ヨリ喚起シ即チ自ラ不利益ニ歸スルコトヲ論告スルハ全ク被告カ
 上告スルノ主義ニ乖戾シ正當ノ原由トスルヲ得サルニ於テヤ而シ
 テ又代言人カ擴張論旨ハ欺隱ノ方法又ハ筆生ノ氏名ノ如キハ本案犯
 罪上ニ必要アルヲ見サレハ之ヲ判文ニ省略シタリトテ敢テ事實理由
 ノ不備ト云フヲ得ス何トナレハ本件ハ素ト官印盜用官文書偽造等ニ
 依リ處斷シタルモノニシテ重抵當ノ事ハ問題外ニ係ルコトハ被告カ上
 告第三論旨ニ對シ辯明ヲ與ヘタル次第ナレハ其欺隱ノ方法ナキモ不
 備ト云フヲ得サルハ勿論其筆生ノ氏名有無ノ如キハ本案犯罪構成上
 ニ關係ヲ有セサル事柄ナレハナリ依テ右等ノ論旨ハ總テ相立スト雖
 モ戸長ノ公證アル證書ヲ偽造シタル場合ハ其偽造ノ公證即チ與書ノ

部ニ係ルト其以外即チ契約書ノ部分ニ係ルトヲ問ハス單ニ刑法第二
 百四條ノ支配ニ歸スヘキモノニシテ之ヲ官文書ト私文書ト二個ニ區
 別スヘキモノニ非ス何トナレハ其證書ハ全部相俟テ一ノ官文書即チ
 公正證書ト稱スヘキモノニテ分ツヘキモノニアラサレハナリ然ルニ
 原裁判所ニ於テ之ヲ二個ニ區分シテ處斷シタルハ被告カ上告第二論
 旨ノ如ク擬律ノ錯誤タルヲ免カレサルモノニシテ治罪法第四百十條
 第十項ニ適合スルモノトス

○官印偽造ノ件明治十九年
第五百十六號

廢棄ノ官印ヲ偽造シタルモノハ罪トナラサルヤ又刑法第九十
 五條ヲ以テ論スヘキヤ

京都府丹後國與謝郡成折寺村平民農小倉善平同府同國同郡同村
 平民農業藤田徳太郎ニ對スル被告事件

初審 京都重罪裁判所

被告小倉善平藤田徳太郎ハ善平宅ニ於テ明治十七年九月一日夜借用金證書ノ公證ヲ偽造センコトヲ相謀リ幸ヒ徳太郎カ所持セシ古證書ニ押捺アリシ京都府與謝郡成折寺戸長役場トアル十四字ヲ善平ニ於テ之ヲ紙片ニ寫シ取り其翌九月二日徳太郎ハ古版下ヲ同郡宮津魚屋町印刻師某方ニ持參シ代價三十五錢ニテ同月五日迄ニ彫刻ノコトヲ約シ手付金トシテ金二十錢ヲ差置キ立歸リ依テ印師某ハ其期日ニ右印彫刻ヲ遂ケタルモ未ダ授受セズ明治十九年三月十八日初審裁判所ハ被告カ官印ヲ偽造シタルモ其官印ハ已ニ廢棄ニ屬シタルモノナレハ刑法第百九十五條ヲ適用ス可キモノニ非ズ依テ刑法第二條ニ基キ之ヲ罰セス押收ノ印影ハ還付スル旨言渡シタル裁判ニ對シ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原裁判所ハ成折寺村戸長役場ノ印ヲ偽造セシ事實ヲ認メナカラ該印ハ廢棄ニ屬シタルモノナレハ之ヲ偽造スルモ官署ノ印ヲ偽造シタルモノトスルヲ得ストテ刑法第二條ニ照シ罪トナ

ラサルノ言渡ヲ爲セシハ擬律ノ錯誤ヲ免サル裁判トス何トナレハ該印ハ使用ヲ停止シタルニモセヨ該戸長役場ノ印判ニ外ナラス然レハ官署ノ印ト云フヘク官印偽造罪ノ精神タルヤ苟モ之ヲ偽造シ又ハ行使シタルニ於テハ公衆ノ信用ヲ害シ爲メニ官印ノ信憑ニ妨害ヲ與ヘ官權ヲ蔑如スルモノナレハ已ニ之ヲ偽造セハ行使セサルモ之ヲ罰ス故ニ其使用ヲ停止シタル官印ナルニモセヨ官印タルコトヲ知テ偽造シタルニ於テハ其實ヲ免ルヘカラス刑法第百九十五條ヲ適用スヘキモノナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告論旨ノ如ク原裁判ハ擬律ヲ誤リタルモノト認メ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ該裁判ヲ破毀シ直チニ被告兩名カ官署ノ印ヲ偽造シタル罪ハ刑法第百九十五條ニ照シ重懲役ニ處スヘキ處原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ從ヒ酌量シテ本刑ニ二等ヲ減輕シ二年以上五年以下ノ重禁錮範圍内ニ於テ被告小倉善平藤田徳太郎ヲ各重禁錮二年ニ處シ刑法第

二百一條ニ從ヒ六月ノ監視ニ付ヌ但押收ノ印判ハ刑法第四十三條第
四十四條ニ依リ沒收スト言渡シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク刑法第九十五條ニ所謂官署ノ印トハ其官署ニ於テ現
ニ使用スルモノヲ指スノミナラス已ニ廢止ニ屬スルモノト雖モ亦公
益ヲ害スルニ至リテハ差異ナキモノナレハ之ヲ偽造スルカ如キハ該
條ノ制裁ヲ免ルヘカラサルモノトス然ルニ原裁判茲ニ出テスシテ本
案被告等ヲ罰ス可カラサルモノトセシハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤
アル不法ノ裁判ナリ

私印私書偽造罪ニ關ス

○私印偽造ノ件明治十九年
第四百十八號

受託金費消後之ヲ蔽ハンカ爲メ詐欺ノ所爲ヲ施シタルモノハ刑
法第三百九十五條末段ニ問フヘキヤ否

兵庫縣神戸區兵庫新町第九十番地平民町用雇人萩野昌三郎ニ對
スル被告事件

初審 神戸輕罪裁判所

本件ノ事實被告萩野昌三郎ハ曾テ兵庫和田神社營繕ノ爲メ取設ケタ
ル和融講ナルモノ、引受人神田甚兵衛外四名ヨリ該講ノ掛金取集メ
及ヒ渡方等ノ委囑ヲ受ケ其取扱中明治十九年七月二日ニ至リ引受人
神田甚兵衛等ヨリ該講ノ株主北風半七ヘ金百圓ヲ渡スヘキ依頼ヲ受
ケ之ヲ承諾シタルモ被告ハ曩キニ明治十八年一月頃ヨリ同十九年四
月迄ノ間ニアツテ該講ノ爲メ取集シタル金員百圓ヲ恣ニ費消シ半七
ヘ渡スヘキ金員十キヨリ明治十九年九月中兵庫縣神戸區兵庫西宮内
印判師長澤德衛ヲ欺キ北風トアル小印ヲ彫刻セシメ費消シタル金百
圓ハ既ニ明治十九年七月二日北風半七ヘ渡シタルモノ、如ク其偽造
印ヲ用非受取書ヲ偽造シ引受人神田甚兵衛等ヲ欺キ其偽造ノ受取書
ヲ行使シタルモノニテ明治十九年十一月二十七日初審裁判所ハ金
圓ヲ渡シヨリト詐リ費消シタル所爲ハ刑法第三百九十五條末文第三

百九十條上文第三百九十四條ニ私印ヲ偽造シ使用シタル所爲ハ第二
 百八條第二百十二條ニ受取書ヲ偽造行使シタル所爲ハ第二百十條上
 文第二百十二條ニ當リ數罪俱發ナルヲ以テ同第百條末項ニ照シ私印
 偽造ノ所爲ヲ重トシ被告ヲ重禁錮九月罰金拾圓監視十月ニ處シ偽造
 ニ係ル受取證ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收シ端書二通ハ北風半七ヘ
 還付シ民事原告人カ請求スル金百圓ノ私訴ハ至當ト認ムルニ依リ被
 告ニ於テ被害者神田甚兵衛外四名ヘ還付スヘシト言渡シタルニ被告
 ハ和融齋金取集メノ擔當中敷札人等ノ承諾ヲ受ケ金七拾圓ハ和田神
 社ノ神官ヘ貸付三拾圓ハ被告ノ悴費消セリ此事實ハ民事原告人ノ承
 知スル所ナリ然ルニ被告ハ其百圓ヲ調達シ能ハサルヨリ明治十九年
 九月ニ敷札人ノ一人ナル最上彦左衛門ヘ百圓ノ辨償方ニ地券二通ト
 貸金帳簿トヲ引渡シタリ被告ハ右金策中一時敷札人ノ手前ヲ蔽フ爲
 メ受取證ヲ偽造シ敷札人ヘ渡置キタルモノナルニ私印偽造詐欺取財

費消ノ罪トシ處斷シタルハ不服ナリ云々ト論シ上告ヲ爲シタリ刑事
 局ニ於テハ上告ハ其理由ナキモノトシ之ヲ棄却シタルモ原裁判ハ擬
 律ヲ誤リタルモノト認メ該裁判ヲ破毀シ刑法第三百九十五條第二百
 八條第一項第二百十條第一項及ヒ第二百十條第一項及ヒ第二百十二
 條ニ該當スルモノトシ同法第百條ニ照シ原裁判所カ重シト認メタル
 私印偽造ノ罪ニ從ヒ被告荻野昌三郎ヲ重禁錮九月附加罰金拾圓監視
 十月ニ處斷シ沒收及私訴ノ言渡ハ原裁判ヲ是認シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク本案被告カ上告趣意ノ中ニ就中委託金費消ハ私印私書ノ
 偽造以前ニ在レハ詐欺ノ所爲ト云フ可ラストノ點ハ治罪法第四百十
 條第十項ニ適應スル破毀ノ原由タルモノナリト雖モ自餘ノ旨趣ハ皆
 ナ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノトス何トナレハ其二ハ法律上
 承審官ニ一任セラレタル事實認定ノ如何ヲ非難スルニ過キサルモノ
 ニハ決シテ許容ス可ラサル訴旨タルモ其一ハ原判文ヲ査閱スルニ被

告カ委託ヲ受ケテ取集メタル和融講金百圓ヲ恣ニ費消セシハ明治十八年一月頃ヨリ同十九年四月迄ノ間ニ在リ而シテ北風半七ノ私印及ヒ受取證ヲ偽造シ之ヲ神田甚兵衛ニ向テ行使セシハ明治十九年九月中ナリ即チ被告ノ所爲ハ受托金費消ノ後之ヲ蔽ハンカ爲メ詐欺ノ所爲ヲ施シタル事實ナレハ刑法第三百九十五條末段ニ問擬スヘキモノニアラス則チ本案被告ノ所爲ニハ刑法第三百九十五條第二百八條第一項第二百十條第一項及ヒ第二百十二條ヲ當行ス可キニ然ラスシテ其前後各別ノ犯罪ヲ合一同視シテ之ニ刑法第三百九十五條末文及ヒ第三百九十條ヲモ適用セシハ即チ擧律ノ錯誤ナレハナリ

○詐欺取財ノ件 明治二十年第四百八十八號

豫テ他人ノ印影ヲ盜捺シ置キタル白紙ヲ以テ金圓借用證書ヲ偽造シ貸金催促ノ勸解ヲ出願シ示談濟方金ト稱シ金圓ヲ騙取シタルモノハ刑法第二百十條第一項ニ該當スルヤ將々同第二百八條

ヲ適用スヘキヤ

埼玉縣武藏國幡羅郡中奈良村平民野中政平ニ對スル被告事件

初審 前橋輕罪裁判所

終審 東京控訴院

本件ノ事實被告野中政平ハ明治十九年五月五月初審裁判所ニ於テ缺席ノ儘重禁錮八月罰金拾圓監視十月ノ刑ヲ受ケ明治十九年十二月十三日初テ之ヲ知り翌十四日故障ノ申立ヲナシタルヨリ其月二十七日同裁判所ハ之ヲ受理スルノ言渡ヲナシ更ニ對審ノ爲メ公廷ヲ開キシニ明治二十年一月廿二日同裁判所ハ右受理ノ言渡ニ反シ嚮ノ缺席裁判ハ治罪法第三百五十六條第一ノ場合ニ該當スルニ其言渡ノ送達ヲ受ケタルヨリ三日内ニ故障セス遂ニ其缺席裁判ハ確定シ即チ治罪法第二百二十四條第四項ノ場合ニ適當スルヲ以テ同法第三百五十八條第二項ニ依リ免訴スル旨言渡シタルニ被告ハ此裁判ニ對シ控訴ヲ爲シ

タリ其要旨ハ明治十九年五月五日ノ闕席裁判ハ其年十二月十三日初
 テ之ヲ知り其謄本ヲ得故障ヲナシ更ニ明治二十年一月二十二日裁判
 ノ上免訴ノ言渡ヲ受ケタルニ尙ホ拘留シアルヲ以テ控訴ノ申立ヲナ
 シタルモ其本案モ共ニ審理セラレ治罪法第三百五十八條ニヨリ無罪
 ノ言渡シアラント云フニアリ原檢察官ハ控訴人カ申立ツル
 所ハ大ニ相違スル所アルモ原裁判所ハ嚮ノ缺席裁判ヲ確定ノモノト
 ナシ裁判シタルハ不當ナルニ付之ヲ取消シ直ニ本案ノ審理アルヘキ
 旨述ヘタリ仍テ終審裁判所ハ今一件書類ニ付逐一審査スルニ被告ニ
 於テ申立ル免訴云々其判決ノ意ヲ誤解シ居ルモノニ付固ヨリ採ル可
 ラサルモ嚮ノ闕席裁判故障告知ノ但書ニ其期限ハ裁判言渡書ノ送達
 ヲ受ケ又ハ刑ノ言渡アリタルトヨ知リタルヨリ三日ナリト記シアル
 ニ付實ハ該闕席裁判ニ付被告カ故障ヲナシ得ヘキ期限ハ治罪法第三
 百五十六條第一ニ照シ起算スヘキモノナルモ其告知ハ前顯ノ如ク期

限ヲ誤リ記シアル上ハ則チ治罪法第三百十六條第一項ノ末文ト同第
 二項トニ基キ被告利益ノ爲メ其知り得タル時迄故障期限ノ經過ヲ停
 止セサルヲ得ス故ニ被告ニ於テ之ヲ知り得タル時ヨリ三日内ニ故障
 ヲナシタル本件ハ其受理言渡ニ依リ治罪法第三百五十五條第三百三
 十四條等ニ基キ本案ノ裁判ヲナスヘキハ當然ナルニ原裁判所ハ此等
 ノ調査ヲ誤リ以テ嚮ノ闕席裁判ハ既ニ確定セシモノトナシ治罪法第
 二百二十四條第四ト同法第三百五十八條第二項トヲ適用シ免訴ノ言
 渡ヲナシタルハ不當ナリト説明シ原裁判ヲ取消シ更ニ審理ヲ遂ケ被
 告カ石關吉平太郎作ノ印影ヲ盜用シタル證憑ハ充分ナラサルヲ以テ
 無罪ナリト雖モ被告カ石關モン同吉平同太郎作等ヨリ金員騙取セン
 トノ目的ヲ以テ川島廣平ト謀リ同人カ曾テ石關吉平同太郎作ノ印影ヲ
 盜捺シ置キタル白紙ヲ以テ明治十八年四月二日ヨリ其月二十八日迄
 ノ間ニ在テ廣平カ石關家戸主タリシ時ノ氏名ヲ以テ借主ト爲シ石關

吉平名義ヲ證人ニ用井シ明治十五年四月十一日付金三百五十圓ノ借用證書及ヒ明治十七年二月二十日付右廣平吉平太郎作連借名義ニテ被告宛金五拾圓ノ借用證書トヲ偽造シ置キ明治十八年同月二十八日被告ヨリ石關モシ同吉平同太郎作ノ三人へ掛リ太田治安裁判所へ貸金催促ノ勸解ヲ出願シ該偽造ノ證書ニ通テ提供シ遂ニ明治十八年五月六日七月六日ノ兩日ニ於テ示談濟方金ト稱シ該證書金ノ内兩度金三拾圓ヲ石關吉平等ヨリ騙取シタルモノト認メ刑法第二百十條第一項第二百十二條第三百九十條第三百九十四條及第百條ヲ適用シ被告ヲ重禁錮八月附加罰金十圓監視十月ニ處スト言渡シタルニ被告ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一裁判所ニ於テ免訴ノ言渡ヲ受ケタルニ放免セサルニヘ控訴セシニ終審院ハ最モ重キ有罪ノ判定ヲ爲シタルハ誤判ナリ第二共犯川島廣平カ豫審調書ノ幾部被告政平カ陳述ノ幾部ト言渡サレシハ何等ノ證憑ナルカ解ス可ラス云々第三

被告事件ノ模様ニ因リ有罪ナルノ推測ヲ定ムルコトナシトノ法律アルニ斯ク疑ハシキ證憑ヲ以テ裁判セシハ該法律ニ背クモノナリ第四放免ナキコトヲ控訴シタルニ右ノ如ク裁判セラレタルハ訴ヲ受ケサル事件ヲ裁判シタルモノナリト云ヒ檢察官モ亦上告ヲ爲シタリ其要旨ハ本件ハ初審裁判所ノ闕席裁判ニ對シ政平ヨリ故障ヲ爲シ同裁判所ハ之ヲ受理シ更ニ公判ヲ開廷シタルニ當時裁判官ハ闕席裁判言渡ニ附記セシ故障期限ニ錯誤アリシニ心附カス單ニ被告カ裁判前豫メ裁判スヘキ事件ヲ申立タル事實アルヲ以テ已ニ故障ノ期限ヲ失ヒ闕席裁判確定セシモノトシ免訴ノ言渡ヲ爲シ被告ハ其言渡ニ對シ控訴シ更ニ本案事實ノ裁判ヲモ請求セシコトハ原裁判書ニ詳記スル所ノ如シ而シテ如キ場合ニ於テ控訴裁判官ハ先ツ始審裁判官カ闕席裁判確定シ而シテ始審裁判ヲ正當トシ其裁判確定スレハ更ニ本案事實ノ裁判ヲ爲スニ及ハス又始審裁判ヲ不當トシ之ヲ取消シ其裁判確定スルト

キハ更ニ本案事實ノ裁判ヲ爲スヘク其裁判ヲ爲スヘキ者ト思料セシ
 モ始審裁判官カ闕席裁判確定セシト裁判セシハ其不當ナルコト明瞭ニ
 シテ到底本案ノ事實ニ立入ラサルヲ得サルヲ以テ裁判官ニ於テ同意
 ナレハ始審裁判官カ闕席裁判確定セシトノ裁判ニ對シ先ツ其當否ヲ
 判決スルノ手數ヲ省キ直ニ本案ノ事實ニ立入り裁判センコトヲ請求シ
 裁判官ニ於テ直ニ本案事實ヲ審理セシ者ヲ固ヨリ正當ノ處分ト思料
 スレトモ本案事實ノ裁判ヲ爲スニ闕席裁判言渡ニ對シ之ヲ爲サ、リ
 シハ不當ト思料ス何トナレハ本案事實ノ裁判ヲ爲スハ控訴ノ裁判ヲ
 爲ス者ニテ控訴認廷内ニ於テ犯シタル輕罪ヲ裁判スルカ如ク始審ナ
 クシテ直ニ終審ノ裁判ヲ爲ス場合ト異ナリ治罪法第三百六十六條ニ
 依リ闕席裁判ニ對シ故障ヲ爲サスシテ直ニ控訴セシ場合ト同ク闕席
 裁判言渡ヲ認可スル乎若クハ之ヲ取消シ更ニ裁判スル乎必ス此ニ途
 ノ一ニ由ラサルヲ得サレハナリ然ルニ原裁判官カ闕席裁判アルニモ

拘ハラヌ漫然本案事實ノ裁判ヲ爲シタルハ其裁判ヤ之ヲ始審ト謂ハ
 ン乎控訴院ハ始審ヲ爲ス所ニアラス之ヲ終審ト謂ハン乎始審裁判ニ
 對シテ爲シタル者ニアラス是控訴ヲ裁判スルノ法意ニ背キ治罪法第
 四百十條第十一項ニ所謂越權ノ處分ト云フニ適當セリ或ハ云ハン原
 裁判官ハ始審裁判官カ闕席裁判確定セシトノ裁判ヲ取消シ更ニ本案
 事實ノ裁判ヲ爲シタル者ナレハ決シテ不法ノ裁判ニアラスト然レト
 モ闕席裁判確定セシトノ裁判ハ本案ノ事實外ニ起リタル者ナレハ其
 裁判ヲ取消シタリトモ本案事實ノ闕席裁判ハ依然トシテ尙ホ存在セ
 リ之ヲ如何ソ不法ニアラスト云フヲ得ンヤ又原裁判書ノ起頭ニ於テ
 政平カ石關吉平石關太郎作ノ印影ヲ盜用シタル證憑充分ナラサルヲ
 以テ無罪ト判定シ而シテ其次ニ政平ハ吉平等ヨリ金員ヲ騙取セシト
 ノ目的ヲ以テ川島廣平ト謀リ同人カ曾テ吉平太郎作ノ印影ヲ盜捺シ
 置キタル白紙ヲ以テ借金證書ヲ偽造行使シテ金三十拾圓ヲ騙取シタル

等ノ事實ヲ認メナカラ私書偽造行使詐欺取財ノ法律ヲ適用セリ是レ治罪法第四百十條第九項ニ所謂理由ノ齟齬アル者ナリ何トナレハ刑法第二百八條第二項ニ所謂印影盜用ノ罪ハ其印影ヲ盜捺シタル而已ヲ以テ組成スル者ニアラス其盜捺シタル印影ヲ使用シテ始テ罪ヲ組成スル者ナリ又刑法第四百條ニ所謂二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者トハ罪トナルヘキ事ヲ爲サント着手セシ時ヨリ共謀一致シテ其事ヲ爲シタル而已ヲ云フニアラス其事ニ着手スルヨリ其事ヲ組成スル迄ノ間ニ於テ共ニ事ヲ爲シタル者ハ是亦共犯ナリ左スレハ政平ハ廣平カ吉平等ノ印影ヲ白紙ニ盜捺スルトキハ其情ヲ知ラス其白紙ヲ用非テ借金證書ヲ偽造スル時ヨリ共ニ事ヲ爲シタルヲ原裁判官ノ認メタル事實ナリトスレハ是政平ハ私印盜用ノ罪ヲ組成シタル一人ニシテ私印盜用ノ共犯者ナレハ決シテ印影盜用ノ證憑充分ナラスト云フヲ得ス若シ印影盜用ノ證憑充分ナラストスレハ或ル場合ヲ除クノ外私書偽

造行使詐欺ノ罪モ亦證憑充分ナラスト云ハサルヲ得ス故ニ本件ニ於テ原裁判官カ前ノ判決ヲ是トスレハ後チニ認メタル事實ハ非ナリ後チニ認メタル事實ヲ是トスレハ前ノ判決ハ非ニシテ兩立スルヲ得サルモノナリ仍テ速ニ原裁判ノ破毀ヲ請フト云フニアリ刑事局ニ於テハ被告カ上告及ヒ檢察官ノ上告第一點ハ其理由ナキモノトシ之ヲ棄却シ其第二點ニ依リ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ直ニ被告カ所爲ハ刑法第二百八條第一項第二項第七十條第二百十二條第二百十條第一項第二百十二條第三百九十條及ヒ第三百九十四條ニ該當スルモノト認メ同法第百條ニ仍リ同法第三百九十條及ヒ第三百九十四條ニ從ヒ被告野中政平ヲ重禁錮八月附加罰金拾圓監視十月ニ處斷ス但無罪沒收及還付處分ニ就テノ言渡ハ原裁判ノ通りタルヘシト宣告シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク本案被告カ上告趣意ノ第一點及ヒ第四點ハ前橋輕罪裁判所カ明治十九年五月五日ヲ以テ言渡シタル關席裁判言渡書ニ被告政

平ヲ八月ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加シ十月ノ監視ニ付スト在
 リ又原裁判言渡書ニ檢察官ノ意見ヲ聽クニ控訴人カ申立ルヲニ就テハ
 大ニ相違スル所アルモ原裁判所ハ嚮ノ關席裁判ヲ確定ノモノト爲シ
 裁判アリシハ不當ナルニ付之ヲ取消シ直ニ本案ノ審理アル可キ旨ヲ
 陳ヘタリ云々ト在リ又前橋輕罪裁判所カ明治二十年一月二十二日ヲ
 以テ言渡シタル對審裁判言渡書ニ該關席裁判ハ確定シタルモノニシ
 テ云々免訴スル者也ト在リ又原裁判言渡書ニ今一件書類ニ付逐一審
 査スルニ被告ニ於テ申立ル免訴云々ハ其判決ノ意ヲ誤解シ居ルモノ
 ニ付固ヨリ採ル可ラサルモ云々ト在レハ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得
 サルモノトス何トナレハ原裁判所ノ宣告シタル刑名ハ上文關席裁判
 言渡書ノ刑名ヨリ重カラサルヲ以テ治罪法第三百四十四條第二項ニ
 背戾セサレハナリ被告ノ控訴ハ假令ヒ放免ノ一事ナリトスルモ檢察
 官ノ申立ハ之ヲ治罪法第三百六十八條及ヒ第三百四十二條ニ照シテ

妥當ナレハ決シテ訴ヲ受ケサル事件ノ裁判ヲ爲シタルモノト謂ハサ
 ルヲ得サレハナリ對審裁判言渡ヲ爲シタル承審官ハ全ク法律ヲ誤解
 シタルモノナリト雖モ要スルニ被告カ自家防衛ノ辯論ヲ許容セスト
 ノ謂ヒニ免訴ノ文詞ヲ誤用セシモノナレハ原裁判所カ被告ハ免訴云
 々其判決ノ意ヲ誤解シ居ルモノナリト判定セシハ敢テ不當ト爲ス可
 ラサレハナリ第二點及ヒ第三點モ亦以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サル
 モノトス何トナレハ其一ハ事實ノ認定及ヒ證據ノ採擇如何ハ法律上
 之ヲ承審官ニ一任セラレタルモノナレハ何人ト雖モ復々之ヲ論スル
 不能ハサルモノナルニ尙ホ之レカ難論ヲ試ムモノニシテ其二ハ治罪
 法第四百十六條ハ法律自身ニ被告事件ノ摸樣ニ因テ有罪タルノ推測
 ヲ定メストノ謂ナル法意ヲ誤解セシ訴告ナレハナリ又原裁判所檢察官
 カ上告趣意ノ第一點ハ破毀ノ原由トハ爲スヲ得サルモノトス何トナレ
 ハ前橋輕罪裁判所カ明治二十年一月二十二日ヲ以テ宣示シタル對審

裁判言渡ハ其論告ノ如ク本案ノ事實外ニ起リテ成リシモノユヘ同裁判所カ明治十九年五月五日ヲ以テ爲シタル關席裁判言渡ハ依然トシテ存在セサルカ如キ觀ヲ呈スルモ上文對審裁判言渡書ニ明治十九年五月五日當衙ニ於テ言渡シタル關席裁判ニ對シ被告人ハ故障ヲ爲シ當衙ニ於テ該故障受理ノ判決ヲ爲シ更ニ公判ノ爲メ開廷シタル處云々ト在ルヲ以テ曩時ノ關席裁判言渡ニ對シ爲シタル裁判ニシテ此裁判カ控訴ニ係リタルモノナルカ故ニ其關席裁判モ亦之レニ包含スレハ隨テ原裁判所カ其對審裁判言渡ニ對シテ治罪法第三百五十五條第三百三十四條等ニ基キ更ニ本案ノ裁判ヲ爲ス可キハ當然ナルニ原裁判^{上文ノ對審}裁判ヲ指スハ此等ノ調査ヲ愆リ云々ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ニ付本院ニ於テハ治罪法第三百六十八條第三百四十四條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ取消シ更ニ同法第三百五十五條第三百三十四條ニ基キ直ニ本案ニ付審理ヲ迷クル處云々ト言渡シタルモ亦妥當ナレハナリ而シ

テ其第二點ノ上告趣意ハ治罪法第四百十條第九項ニハ適應セスト雖同條第十項ニ適當スル破毀ノ原由タルモノトス何トナレハ上告者即チ原檢察官カ指テ起頭ト云フ原判文中被告政平ニ於テ石關吉平同太郎作ノ印影ヲ盜用シタル證憑充分ナラサルヲ以テ云々ト在ル文詞ハ被告政平ハ躬親カラ印影ヲ盜捺シタル證憑不充分ナリトノ謂ニ過キス而シテ其次ニ政平ハ云々川島廣平ト謀リ同人カ曾テ吉平太郎作ノ印影ヲ盜捺シ置キタル白紙ヲ以テ借金證書ヲ偽造行使シ云々ト在ル文詞ハ政平ハ他人ノ盜捺シタル印影ヲ知テ使用シタリトノ謂ニシテ即チ其事實ヲ異ニスレハ決シテ事實理由ノ齟齬ナリト爲ス可ラサルモ原裁判所ハ其判文ニ被告ハ石關モン同吉平同太郎作等ヨリ金員騙取セントノ目的ヲ以テ川島廣平ト謀リ同人カ曾テ石關吉平同太郎作ノ印影ヲ盜捺シ置タル白紙ヲ以テ明治十八年四月二日ヨリ其月二十八日迄ノ間ニ在テ廣平カ石關家戸主タリシ時ノ氏名ヲ以テ借主ト

ナシ石關吉平名義ヲ證人ニ用ヒシ明治十五年四月十一日付金三百五拾圓ノ借用證及ヒ明治十七年二月二十日付ノ右廣平吉平太郎作連借名義ニテ被告宛金五拾圓ノ借用證トヲ偽造シ置キ明治十八年四月二十八日被告政平ヨリ石關モン同吉平同太郎作等ノ三人ヘ掛リ太田治安裁判所ヘ貸金催促ノ勸解ヲ出願シ該偽造ノ證書二通ヲ提供シ遂ニ明治十八年五月六日ト七月六日ノ兩日ニ於テ示談濟方金ト稱シ該證書金ノ内兩度ニ金三十圓ヲ石關吉平等ヨリ騙取シタルノ事實ト揭載シナカラ刑法第二百八條第二項ヲ適用セサリシハ即チ擬律ノ錯誤ニシテ斯ク印影盜捺ノ當時ハ知ラサルモ其之ヲ知テ使用シタルモノニシテ該法章ノ責罰ヲ免ル可カラサルハ上告論旨ノ如クナレハナリ

○官文書偽造ノ件明治十九年第六百十八號

代人願書ヲ改描シテ提出シタルモノハ刑法第百十二條ニ該當スルヤ將々同第二百十條ヲ適用スヘキヤ

岩手縣陸中國紫波郡宮手村十七番地平民農立花金三郎ニ對スル
被告事件

初審 盛岡重罪裁判所

本件ノ事實ハ明治十九年七月六日初審裁判所ニ於テ被告立花金三郎ハ第一紫波郡上松本村阿部喜六外八十九名ニ係ル伐木損害要償ノ事件盛岡始審裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ明治十八年二月廿六日宮城控訴裁判所ヘ控訴スルニ際シ己レカ訴權ヲ確實ナラシムル爲メ曾テ紫波郡吉水村細田文平カ遺失セシ詞訟ニ付同郡上松本村藤原平八郎外八十四名ヨリ右文平ニ代人委任セシ明治十六年八月一日付ノ戶長代理書記藤原虎松カ公證シタル代人保證願書ヘ其文中「吉水村六番地細田文平ヘトアル十一字ヲ小屋敷村藤原由松ト描改シ外ニ阿部喜六ノ四字ヲ書入八月ヲ四月ト爲シ宛名細田文平ヲ藤原由松ト替ヘ即日保證トアル文字ノ上ヲ小屋敷村ト筆太ニ書シ尙上松本村阿部喜六名

前ヲ書加ヘ即チ其當時ニ在テ藤原平八其外ヨリ由松喜六兩人ニ代理ヲ委任セシ者ノ如ク變換シ之ヲ以テ喜六由松及平八外數名ニ係ル訴權アリトノ證據トシテ宮城控訴裁判所ヘ提供シタルモ終ニ敗訴シ其目的ヲ遂ケ得サリシモノナリ而シテ該保證願書ハ被告人ニ於テハ石原興保ヨリ受取り興保ハ之ヲ交付セシメナシト申供スル所ヲ以テ視レハ其得タル顛末ハ詳カナラサルモ被告カ入手シタル後變造シタルモノト判定シ其官吏ノ公證シタル文書ヲ變換シテ行使シ及ヒ私ノ證書ヲ偽造シテ行使シタルハ刑法第百條ニ依リ一ノ重キ公證文書變換行使ノ罪ニ從ヒ同第二百四條ヲ適用シ輕懲役ノ處未遂犯ナルヲ以テ同第一百十二條第百十三條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ仍ホ情狀ヲ酌量シ同第八十九條第九十條ニ依リ二等ヲ減シ九月以上一年十月十五日以下ノ範圍内ヲ以テ重禁錮十月ニ處シ同第二百七條ニ依リ六月ノ監視ニ付ス但偽造ノ書類ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收シ裁判費用壹圓貳

拾錢ハ被告負擔スヘシト言渡シタルニ被告本案代人保證願書ハ被告カ描改シタルモノニアラス云々ト論シ上告ヲ爲シ上告代人擴張第二第一ハ論旨ハ訴訟代人保證願書ハ本來公證ヲ要スヘキモノニアラス戸長ノ職制ニ依ルモ絶テ其之ヲ管理スルノ規定アルコトナシ然レハ本案代人保證願書ノ如キハ公證ヲ付シアルモ其効ナク而シテ被告ハ之ヲ變造行使シタルモノナレハ私書變造行使ノ罪ヲ組成スルカハ知ラサルモ公證文書ヲ變造行使シタルモノトシ論スヘキモノニアラス然ルニ原裁判官ノ刑法第二百四條ヲ適用シテ處斷シタルハ攪律ノ錯誤ナリ依テ破毀ヲ求ムト云ヒ檢察官ハ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ抑モ第一ノ所爲ハ被告ニ於テ己レカ民事訴訟ニ付其權利ヲ確實ナラシムルカ爲メ委任狀代人保證願書ヲ變造シ之ヲ控訴裁判所ニ提供シタルモノニシテ控訴裁判官ハ明治十八年六月廿九日之ヲ檢閲セリ而シテ大体ノ目的ハ民事控訴ニ勝チ金圓ヲ得ントスルニ在ルヘシ

ト雖此該委任狀ノ代人保證願書ニ付テノ目的ハ之ヲ裁判官ノ面前ニ出シ即チ訴訟ノ證據ニ供フルニ在テ已ニ之ヲ提供シ裁判官ノ檢閲ヲ得タルモノナレハ乃チ其目的ハ已ニ遂ケタル者ニシテ行使ヲ了リタルモノナリ然ルヲ裁判官ハ敗訴ニ及ヒ其目的ヲ遂ケ得サルモノナリトシ刑法第百十二條ニ該當スル未遂犯トシテ減等セリ其裁判官ノ所謂目的ナル者ハ大体訴訟ニ勝チ金員ヲ得ル所ニアリテ若シ此目的ヲ達セハ更ニ詐欺取財ノ罪ヲ構造スルモノナレハ是レ行使以上ノ事ニ係リ本案事件ノ外タルモノナリ又其證書ノ有効トナリ無効トナルハ裁判官ノ職權ヲ以テ爲スモノニシテ被告ノ關係スル所ニアラス因テ原裁判ハ此點ニ付擬律ノ錯誤ナリト云フニアリ大審院立會檢事ハ原檢察官及代言人ノ第二論旨ハ相當ナリト意見ヲ陳述シタリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ治罪法第四百十條第十項ニ該當スル原由アルモノト認メ同第四百二十九條ニ依リ該裁判言渡ヲ破毀シ直チニ被告カ所爲ヲ

法律ニ照ラシ第一代人保證願書ヲ變造シテ行使シ第二委任狀ヲ偽造シテ行使シタルハ共ニ刑法第二百十條第一項ニ依リ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ同第二百十二條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノニ該ルニ罪俱發シタルヲ以テ刑法第百條ニ照シ第一罪ヲ以テ情狀全キモノトナシ前ニ示セシ刑期金額ノ範圍内ニ於テ被告金三郎ヲ六月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付ス但書ハ裁判言渡ノ通りタルヘシト言渡シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク凡ソ諸般ノ證據ヲ取捨シテ事實ノ如何ヲ判定スルハ法律上承審官ニ任委セシモノナレハ苟モ越權ノ所爲アルニ非サルヨリハ他ヨリ漫ニ喙ヲ容ル、ヲ得ヘキモノニアラス今被告カ上告ノ趣意ヲ按スルニ前ニ掲載セシ如クニシテ徒タニ事實ノ如何ヲ論シ原裁判官カ其職權内ニ於テ判定セシ廉ニ對シ漫ニ不服ヲ唱ヘ以テ其裁判ヲ

左右セント試ムルニ過キサレハ之ヲ上告ノ理由アリト爲スヲ得ス然
 レモ原檢察官ノ附帶上告及ヒ上告代言人カ擴張論旨第二ノ理由ニ基
 キ原裁判言渡ニ掲ケシ第一ノ行爲ニ據レハ被告ニ於テ己レノ民事詞
 訟事件ニ付其權利ヲ確實ナラシムルカ爲メ他ノ訴訟代人保證願書ヲ
 變造シ之ヲ證據物トナシ裁判所ニ提出シタルモノナレハ其目的ハ既
 ニ遂ケ乃チ行使ヲ了リタルモノナルニ付個ハ未遂犯ヲ以テ論スルヲ
 得ヘカラサルヤ明カナリ且訴訟代人願書ニ區長又ハ戶長ノ公證ヲ受
 クヘキコトハ司法省明治十三年甲第二號ノ布達アルモ該布達ハ同省明
 治十七年第一號布達ヲ以テ改正セラレ爾後代人願書ニハ區戶長ノ公
 證ヲ要セサリシナリ而シテ本案代人保證願書ハ明治十六年八月一日
 付ナレハ其成立ハ右司法省明治十三年甲第二號ノ布達實行中ニ在ル
 モ被告カ之ヲ變造行使シタルハ明治十八年二月中ナレハ布達改正後
 ニ係リ當時ニ在テ已ニ區戶長ノ公證アルニ用ナケレハ其長シヤ該願書

ニ戶長代理ノ公證ヲ付シアルモ初メヨリ之ヲ付シアラサルニ異ナル
 コトナシ然レハ被告カ所爲ハ私書ヲ變造行使シタルニ外ナラスシテ殊
 ニ其性質民事上ノ權利ニ關スルモノナレハ刑法第二百十條第一項ニ
 依リ論スヘキモノトス然ルニ原裁判官カ之ヲ刑法第二百四條ニ問擬
 シ剩ヘ未遂犯ナリトシ同第百十二條第百十三條ヲ適用シ處斷シタル
 ハ到底擬律ノ錯誤タルヲ免カレスシテ即チ治罪法第四百十條第十項
 ニ該當スル破毀ノ原由アルモノトス

○官印文書偽造徵兵忌避ノ件明治十九年
第八百四十一號

金圓騙取ノ爲メ戶長ヲシテ戶籍簿ヲ變換セシメタルモノハ官文
 書偽造ヲ以テ論スヘキヤ否

茨城縣常陸國新治郡石岡町字大砂平民農小松崎忠助ニ對スル被
 告事件

初審 水戸重罪裁判所

本件ノ事實被告小松崎忠助ハ其附籍ナル廣澤藤藏カ數年前失踪シ原告生死詳ラカナラサルヨリ之レカ戸籍ヲ變換即チ別戸ト爲シ一ノ戸籍ヲ偽造シ尙ホ死亡シタリトシ徵兵適齡者ヲ入籍セシメ以テ金員ヲ得ント企テ明治十六年二月十三日附籍タリシ廣澤藤藏ノ分籍届并ニ墓所届ヲ偽造シ全人名下及ヒ親類トシテ擅ニ記入シタル押武三郎小松崎庄右衛門名下ニハ有合印ヲ押捺シ之ヲ戸長役場ニ差出シ廣澤藤藏ノ一戸籍ヲ偽造セシメ明治十六年三月三日ニ至リ廣澤藤藏ノ死亡届ヲ偽造シ擅ニ岡野文吉ノ名義ヲ記入シ其ノ名下ニ有合印ヲ押捺シテ戸長役場ニ差出シ戸籍上全人ヲ死亡者ト爲サシメ明治十六年三月五日ニ至リ藤藏ノ女「タヨ」ノ名義ナル死跡相續出願書ト題シタル相續者ヲ定ムル猶豫願書ヲ偽造シ「タヨ」カ名下ニハ摺印ヲ爲シ擅ニ親類押武三郎ト記入シ其名下ニハ有合印ヲ押捺シ戸長役場ニ差出シ置キ相續者ヲ尋ネタル折柄明治十六年四月下旬元木佐助カ其弟喜代之介ヲ

他ヘ養子ニ遣ハサント心掛居ルヲ知リ之ヲ幸ヒトシ藤藏カ戸籍ヲ偽造シタル等ノコトヲ明カサス喜代之介ヲ藤藏カ死跡相續者ト爲ス可キ談判ヲ遂ケ明治十六年五月五日ニ至リ「タヨ」ニ於テ元木喜代之介ヲ藤藏ノ養子ニ貫ヒ入籍セシムル旨ノ届書ヲ偽造シ「タヨ」名下ニハ摺印ヲ爲シ自ら連署シ戸長役場ニ差出シ明治十六年五月七日ヲ以テ「タヨ」カ名義ナル死跡相續願書ヲ偽造シ擅ニ小松崎治三郎ノ名義ヲ記入シ有合印ヲ押捺シ戸長役場ヲ經テ郡役所ニ差出喜代之介ヲ入籍セシメタル上明治十六年五月十四日藤藏カ病中ノ藥價又ハ死亡ニ就テノ入費金五十七圓五拾錢立換アル旨ヲ偽リ元木佐助ヨリ該金員ヲ騙取シ又横田辰次郎ニ於テハ明治十年徵兵適齡ニシテ既ニ検査ヲ受ケ合格シ入營ニ先立チ兵役ヲ免レン爲メ逃走シ爾來年々兵役ヲ免レタルモノニテ明治十九年六月十八日初審裁判所ハ私文書及官文書偽造詐欺取財ヲ以テ論シ刑法第三百九十條末項全第二百十二條全第二百三條

初項第三百九十條全第三百九十四條ニ依リ全第百條ニ照シ一ノ重キ官文書偽造罪ニ從ヒ輕懲役八年ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不法トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ノ附籍ナル廣澤藤藏カ數年前失踪シ生死詳カナラサルヨリ之カ戶籍ヲ變換シテ別戶ト爲シ一ノ戶籍ヲ偽造シタリトノ一ハ原裁判官ニ於テ只分籍届及墓所届等ノ私書ヲ偽造シテ戶長役場へ差出シタル事實ニ付之ヲ認メラレシモ刑法第二百三條初項ノ罪ヲ組成スルモノニアラス何トナレハ本條ノ罪ハ自ラ手ヲ下シテ偽造シタル者ニテ被告ノ如キハ私書ヲ偽造セシニ止リ官文書ヲ偽造セシニアラス戶籍ヲ書換タルハ被告ニ欺瞞セラレタル戶長ノ所爲ニ出ツルヲ以テナリ依テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト論シ檢察官ハ徵兵忌避者ヲ瞞著シ金圓ヲ騙取スル爲メ被告ハ戶長ヲ器械トシテ戶籍簿ヲ變換セシモノ、如シト雖モ戶籍簿ノ加除ハ戶長職務上ノ事ニテ人民ノ干與スル所ニアラス果シテ然ラハ官文書偽造ヲ以テ裁判

シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ該ル破毀ノ原由ナリト附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ直チニ法律ニ照シ刑法第二百十條一項二項全第二百十二條全第三百九十條全第三百九十四條ニ該當スル私書偽造行使詐欺取財ト判定シ全第三百九十條末項ニ照シ重キ詐欺取財ノ一ニ從ヒ被告小松崎忠助ヲ重禁錮一年ニ處シ罰金拾圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス但裁判費用負擔及差押證書還付ノ言渡ハ原裁判ノ通リタルベシト言渡シタル者ニ係ル

其理由ニ曰ク上告及ヒ附帶上告ノ趣旨ハ歸着スル處同一ニシテ被告カ廣澤藤藏ノ分籍届死亡届及ヒ廢戶主願等ヲ偽造シ戶長役場ニ出シ戶籍ノ變換ヲ來シタルハ官文書偽造ヲ以テ論ス可キモノニアラスト云フニアリ依テ原裁判言渡ニ認メタル事實ヲ鑑查スルニ(前附籍タリシ廣澤藤藏ノ分籍届並ニ墓所届ヲ偽造シ云々戶長役場ニ差出シ藤藏

ノ一戸籍ヲ偽造セシメ云々藤藏ノ死亡届藤藏ノ女「タヨ」ノ死跡相續出願ト題スル相續者ヲ定ムル猶豫願書ヲ偽造シ云々戸長役場へ差出シ置キ云々トアル理由ニ依レハ被告ノ所爲ハ分籍届墓所届死亡届相續猶豫願等ノ私文書ヲ偽造行使シタル事實ニテ爲メニ戸長役場ノ戸籍簿ニ異動ヲ來シタルハ該私文書偽造行使ノ結果ニシテ別ニ戸長ヲ欺キ器械ト爲シ偽造セシメタルニ非サレハ官文書偽造ノ別罪ヲ構成ス可キモノニアラス然ルニ原裁判所ハ此事實ヲ認メナカラ刑法第二百三條ヲ適用シ處斷セシノミナラス右墓所届ヲ除クノ外分籍届死亡届相續猶豫願等ノ私文書ハ刑法第二百十條初項ニ該ルヘキ權利義務ニ關スル文書偽造ノ罪ナルニ墓所届ノ偽造ト等シク本條二項ニ問擬シタルハ共ニ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定ス

○私書偽造ノ件 明治二十五年 第五百五十七號

豫テ他人ヨリ預リタル實印押捺ノ白紙ヲ用非金圓借用證書ヲ偽

造シ貸金請求ヲ勸解廳ニ出願シタルモノハ私印盜捺ノ犯罪ヲモ成立スルヤ否

金圓騙取ノ目的ヲ以テ貸金偽造證書ヲ勸解廷ニ提出シタルモノハ行使未遂ナルヤ將タ既遂ヲ以テ論スヘキヤ

兵庫縣播磨國明石郡寺谷村番地不詳平民山口仙吉ニ對スル被告事件

初審 神戸輕罪裁判所

終審 神戸輕罪裁判所

本件ノ事實被告山口仙吉ハ初審裁判所ニ於テ私書偽造詐欺取財各未遂罪ノ併犯者ナリトシ一ノ私書偽造罪ニ依リ重禁錮四月罰金四圓監視六月ニ處斷シタル裁判ヲ不當トシ被告ハ控訴ヲ爲シタルニ明治二十年三月二十九日終審裁判所ハ更ニ審理ヲ遂ケ被告ハ曾テ播磨國明石郡寺谷村木下勇藏亡父六左衛門ヨリ他事ノ爲メ預リ置キタル白紙押捺ノ印影ヲ偽造證書ニ利用シタルモノニシテ盜用シタルモノニア

ラス依テ治罪法第三百五十八條第二百二十四條ニ照シ無罪然レモ被告ハ前書六左衛門存生中攝津國八郡郡妙法寺村岡淺右衛門ヨリ貸金催促ノ訴ヲ受ケタル節六左衛門ノ代人トナリ明石治安裁判所へ出頭ノ際該事件豫備ノ爲メ六左衛門ヨリ同人實印押捺ノ白紙一葉ヲ預リ置キ當時不用ニ屬シタルヲ返戻セシ其儘所持シタルヲ奇貨トシ明治十九年十二月中播磨明石郡池谷村小池辨藏外一名ト共謀シ之レニ負債主六左衛門ノ名義ヲ記入シ小池辨藏ヲ債主ト爲シ明治十七年十二月十日附金八拾圓ノ借用證書ヲ偽造シ他人ヲシテ木下勇藏ニ依リ明石治安裁判所へ貸金請求ノ勸解ヲ出願シ該金員ヲ詐取セントシテ其目的ヲ達セサルモノト判定シ其貸金證書偽造行使ノ罪ハ刑法第二百十條第二百十二條ニ詐欺取財未遂ノ罪ハ同第三百九十四條第三百九十七條第一百二十條第七十條第三百九十四條ニ該當スルニ罪俱發ニ付同法第百條末項ニ照シ其所犯情狀重キ者ニ從ヒ所斷スヘキモノトシ初審裁判所ノ

言渡ヲ取消シ私書偽造罪ヲ以テ四月ノ重禁錮ニ處シ四圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付ス但犯罪ニ用非タル貸金證書二通ハ刑法第四十三條第二項ニ照シ官ニ沒收スト言渡シタルニ之ヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一判文ニ係ル前被告カ曾テ云々盜用シタルニ非前畧然レトモ被告ハ云々其儘所持シタルヲ奇貨トシ云々トアリ又其後段ヲ見ルニ前畧他人ヲシテ云々其目的ヲ達セサルモノトストト記載セリ是前段ハ被告人カ白紙押捺ノ印影ヲ得タルハ私證書ヲ偽造スルノ目的ヲ以テ之ヲ掠取シタルニ非ス他事件ノ爲メ預リタルモノヲ私用シタルニ過キサルヲ以テ盜用ニ非スト爲シ後段ハ偽證書ヲ以テ勸解ヲ出願シタルハ詐欺ノ方法ヲ盡クシタリト認定シタルモノナリ印影盜用トハ他人ノ印影ヲ掠取スルヲ猶強竊盜犯カ他人ノ財物ヲ掠取スルカ如クナルヲ要セサルヤ素ヨリ明カナルニ原判文ニ印影盜用ノ事實ヲ擧テ盜用ニ非スト斷シタルハ事實理由ノ齟齬ナリ後段勸

原文ヲ

解ニ出願シタルヲ以テ詐欺ノ方法トシタルハ擬律ノ錯誤アルモノニシテ第一ニ於テ論シタル事實ニ依レハ治罪法第三百五十八條第二、二十四條ニ照シ無罪又其詐欺取財未遂罪ハ同法第三百九十四條第三、九十七條第百十二條第七十條第三百九十四條ニ該當ストアルハ何レモ其當ヲ得サルモノト思料スルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云ヒ又被告ハ一件書類ノ朗讀ヲ聽タルニ債主ハ小池竹藏ナルニ小池辨藏ヲ債主ト爲シ云々ト言渡シタルハ治罪法第四百十條第九項ニ基キ破毀スヘキノ第一點ナリ原裁判貸金請求ノ勸解ヲ出願シトノ言渡書ニ記載シ直ニ行使ノ既遂犯即チ上告人カ着手ヲ全ク終リ惡結果ヲ生セシメタルモノト爲シタルハ事實ノ理由ヲ欠キタルモノニシテ前同條項ニ基キ破毀スヘキノ第二點ナリ本件詐欺取財ハ其目的タル金額物件ヲ詐取セント着手スルモノニシテ此場合ニハ目的タル金額物件ヲ得ルニ至ルノ權利ノ製造中ニシテ豫備ノ所爲ニ止ルニ詐欺取財未

遂ナリト言渡シタルハ擬律錯誤ニシテ前同條第十項ニ基キ破毀スヘキノ第三點ナリ公判廷ニ於テ讀開セタル調書中小池竹藏ノ調書アリタルニ判文上記載ナキハ前同條第十一項ニ基キ破毀スヘキノ第四點ナリト論シ上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ本案上告ハ各其理由ナキモノト認メ之ヲ棄却シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク按スルニ印影盜用罪ニ付法律上ノ理論ニ於テ原檢察官カ上告趣旨ノ第一ニ於テ論スル所ハ敢テ不當ト云フヲ得ス然レトモ控訴判文ヲ觀ルニ略上六左衛門ノ代人トナリ明石治安裁判所ニ出願ノ際該事件豫備ノ爲メ六左衛門ヨリ同人實印押捺ノ白紙一葉ヲ預リ置キ當時不用ニ屬シタルヲ返戻セス其儘所持シタルヲ奇貨トシ云々トアリテ其白紙ヲ不正ノ所爲ニ使用シタルハ善良ノ所爲ニ非サルハ言ヲ俟タサルナリ然レトモ印影盜用ノ罪ハ使用シタルノ條件アルノミヲ以テ足レリトセス使用ノ外尙ホ所有主ノ承諾ナキニ私擅ニ押捺シ

タルノ一條件ヲ具備セサルヘカラス本件ノ如キハ此一條件ヲ闕キタルモノナレハ其所爲ハ唯貸金書偽造法方中ノ一所爲タルニ過キサルモノナリ故ニ本案ハ印影盗用ノ罪成立セサルモノトシタルハ相當ニシテ上告第一ノ趣旨ハ相立タサルモノトス其第二ノ趣旨ハ偽造ノ證書ヲ以テ勸解ニ出願シタル如キハ詐欺取財未遂ノ罪ハ成立スト云フニ在レトモ貸金アルカ如ク事實ヲ捏造シテ證書ヲ偽造シ之ヲ以テ勸解ニ出願シタルハ即チ其金額ヲ取受スル爲メニシテ既ニ其目的トシタル事柄ニ着手シタルモノナレハ之ヲ詐欺取財未遂ノ場合ニ非スト云フヲ得ス故ニ此第二ノ趣旨モ相立タサルモノトス

被告人カ第一ノ趣旨ハ債主ハ竹藏ナルニ辨藏ト判文ニ記シタルハ事實ノ理由ヲ誤リタルト云フニ在レトモ其債主ヲ辨藏ト爲シ竹藏ト爲ス如キハ事實認定部内ノ事柄ナレハ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ヌ第二ノ趣旨ハ貸金請求ノ勸解ヲ出願シトノミ言渡書ニ記載シ直ニ

證書偽造行使ノ既遂犯トシタルハ事實ノ理由ヲ闕キタルモノナリト云フニ在レトモ金員ヲ騙取スルノ目的ヲ以テ偽造シタル證書ヲ勸解廷ニ提出シタル上ハ未タ金員ヲ騙取スルノ場合ニハ至ラスト雖モ其證書ヲ勸解廷ニ提出シタルハ即チ之ヲ使用シ了リタルモノナレハ既遂ノ場合ナルハ論ヲ俟タヌ而テ控訴判文其證書ヲ偽造シテ行使シタリシ事實ハ充分ニ理由ヲ付シアレハ事實理由ヲ闕キタルモノト云フヲ得ス第三ノ趣旨ハ詐欺取財ノ所爲ハ豫備ニ止ルニ未遂犯ヲ以テ論シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在レトモ其豫備ナルカ將々未遂ナルカノ問題ニ付テハ前段既ニ原檢察官ノ上告趣旨ニ對シテ説明セル如シ第四ノ趣旨ハ公廷ニ於テ朗讀シタル小池竹藏ノ調書ヲ判文ニ記載ヒサルハ越權ノ處分ナリト云フニ在レトモ若シ被告人カ論旨ニ反對ナル場合即チ公廷ニ於テ朗讀辯解ヲ爲サシメサル調書ヲ以テ心證ノ資ニ供シ之ヲ判文ニ掲ケタル如キハ之ヲ擅横ノ處分ト云フハ原ヨリ

當然ナリ其判文ニ掲出セサルハ畢竟裁判官ハ公廷ニ於テ朗讀セシメタルモ以テ心證ヲ資スルニ足ラストシ採擇セサルモノナリ證憑ノ取捨ハ裁判官ノ特權ニシテ被告人等ノ苟モ喙ヲ容ルヘキ所ニ非ス故ニ第二第三第四ノ論旨モ亦上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノトス

○私書偽造ノ件明治二十年第七百九十八號

他人ノ財産管理中其印影ヲ押捺シ擅ニ地所ヲ處分シタルモノハ刑法第三百九十五條ノ制裁ヲ受クルヤ否

島根縣出雲國楯縫郡平田町平民無職業長廻慶太郎同縣同國大原郡木次町平民無職業梅宗太郎ニ對スル被告事件

初審 松江輕罪裁判所
終審 廣島控訴院

本件ノ事實被告長廻慶太郎梅宗太郎ハ明治十九年十月廿一日初審裁判所ニ於テ私書偽造詐欺未遂ノ二罪アルモノト判定セラレ各重禁錮

二年六月罰金貳拾圓監視一年ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス控訴ヲ爲シタリ終審院ハ更ニ審理ヲ遂ケ島根縣出雲國楯縫郡平田村灘分通圓寺ハ被告慶太郎ノ祖先長廻與三右衛門カ建立ニ係リ當時地所貳町七反七畝拾八步ヲ寄付セシ處明治ノ初年地券發行ノ際慶太郎亡父友左衛門ヨリ其名前書替ノ請書ヲ差出シ置キタリシカ明治十三年以降通圓寺ハ無住職同様ニテ殊ニ十七年以後ハ同寺ノ事務及ヒ維持方等迄全ク長廻家ノ專斷ニ歸シ十八年二月以來ハ慶太郎宗太郎ニ於テ檀家總代ノ名義ニテ該寺財産ノ管理ヲ始メ其他一切ノ寺務ヲ總理スルノ折柄長廻家モ追々衰頽スルノミナラス友左衛門ノ死亡ニ乘シ舊債ノ督促ヲ受ケ一時困難ノ餘被告慶太郎ハ豫テ管理シ居ル通圓寺ノ地所カ亡友左衛門ノ名義ナルヲ幸ヒトシ之ヲ詐冒賣却シテ其急ヲ遁レン爲メ被告宗太郎其他ノモノニ謀リ右寄附地ノ内平田村灘分第九百六拾番字二ノ切外七筆ノ地所合反別壹町五畝拾四步ヲ書入レ借主

通圓寺及亡長廻友左衛門受人亡長廻與三右衛門ニテ債主仲間政太郎ニ宛タル明治九年一月付金六百圓ノ借用證書ヲ作爲シ通圓寺名下ニハ豫テ其管理中ナル同寺ノ印形ヲ盜押シ友左衛門與三右衛門名下ニハ各舊實印ヲ押捺シ且付箋ヲ以テ亡原儀平カ其貸借ヲ取扱ヒタル体ニ假粧シ尙ホ其内實高納ヨキナル者ヲ金主ノ如ク取扱ヒ而シテ慶太郎ハ明治十八年同月二日ニ名ヲ商業ニ假リテ他國ニ出テ宗太郎ヲ留守管理人ト爲シ其管轄廳ナル今市治安裁判所ヲ避クル爲メ同人ヲシテ一時松江ニ止宿セシメ置キ同月中政太郎ヨリ中島倉太郎ヲ代人トシ該證書ヲ以テ宗太郎ニ係リ松江治安裁判所ニ勸解ヲ出願シ宗太郎ハ容易ニ抵當ニ公賣ノ示談ヲ遂ケ其公賣願書ヲ同裁判所ニ差出シ公賣揭示中通圓寺檀徒ノ覺知スル所ト爲リテ其目的ヲ遂ケサルモノト事實ヲ判定シ之ヲ法律ニ照シ刑法第二百八條二項一項第二百十二條第四百條連帶義務ノ借用證書ヲ偽造シタルハ同第二百十條一項第二

百十二條第四百條受託ノ地所ヲ詐欺ヲ以テ費用セントシ遂ケサル罪ハ同第三百九十四條第四百條第三百九十七條第一百十二條ニ照シ減一
等ノ數罪俱發ナルヲ以テ同第一百條ニ照シ一ノ重キ私印盜用罪ニ從ヒ
處斷スヘキモノニ付初審裁判所ノ言渡シタル裁判ハ不當ナルニ依リ
之ヲ取消シ前顯法條ニ從ヒ各重禁錮二年罰金廿圓監視一年ニ處ス但
偽造ノ借用證書ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收シ差押アル帳簿等ハ各
差出人ニ下付シ裁判費壹圓廿八錢ハ證人某ニ三拾錢ハ某ニ被告等ヨ
リ連帶辨償セシムト言渡シタル裁判ニ服セス被告兩名ハ上告ヲ爲シ
タリ其要旨ハ原判文ニ通圓寺ノ印影ヲ盜用シ云々トアレトモ該印ハ
先キニ紛失シテ改印セシ一ハ民事原告人ノ申立及ヒ什物差上ケ帳ノ
印影等ニ據テ明カナレハ若シ之ヲ盜用シタリトセンニハ必ラス該印
ノ被告カ掌握シタル事實ヲ舉示シ而シテ其盜用シタルノ事實ヲ推定
スヘキハ當然ナルニ否ラスシテ濫リニ無證ノ斷定ヲ下シ盡スヘキ事

實ノ理由ヲ付セサリシハ越權ノ處分ナリ又刑法第三百九十五條ハ動
 産耳ニ關スル制裁ナルニ本件ノ如キ不動産タル地所ヲ賣却セントシ
 テ遂ケサル事實ヲ認メ該法條ニ依據セシハ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ破
 毀ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ事實理由不備ノモノ
 ト認定シ治罪法第四百二十八條ニ則リ破棄シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク抑刑法第三百九十五條ハ動産耳ニ關スル制裁ニシテ本
 件ノ如キ不動産タル地所ニ及ハサルコトハ上告論旨ノ如クナルニ原裁
 判所ハ該法條ヲ適用セシ耳ナラス該判文ニ被告カ偽造シタル借用證
 書ニ借主通圓寺ヲ濫記シ該寺ノ印影ヲ盜用シ云々ト揭示アリテ其罪
 ニ坐セシト雖モ抑寺院ノ金穀借入ハ明治十年第四十三號布告ニ準據
 セサレハ素ヨリ僧侶一個ノ私債ト爲ルヘキモノニシテ假令法規ニ適
 フト否トヲ問ハス其寺院ノミノ名義ヲ以テ責メテ負フヘキ謂レナケ
 レハ必スシモ其住職若クハ法類之レニ連署スヘキハ勿論ニ付只無形

タル寺院ノ印願ヲ盜用スルモ未タ此點ニ對シテ害ノ生スル理由ナケ
 レハ之ヲ認メテ罪アルモノトハ云フ得ス故ニ若シ其害ノ生シ得ヘキ
 理由アルニ於テハ之ヲ明示スヘキハ論ナキニ更ニ其明示ヲセサル耳
 ナラス犯罪構成ノ年月日ヲモ絶テ記載アルヲ見サルハ要スルニ事實
 理由ノ不備ナルモノニシテ擬律ノ當否モ判知シ難シ之レ即チ治罪法
 第四百十條第九ニ該當スル破毀ノ原由タルモノニ付上告論旨ニ就テ
 ハ逐一辯明ヲ下サス

○私書偽造ノ件 明治二十三年
第千五百三十三號

買物仕切書ニ金若干圓右ノ通リトアルヲ正ニ受取候也ト記入シ
 タルモノハ私書偽造ヲ以テ論スヘキヤ否

愛知縣丹羽郡稻置村千二百三番地土族陸軍砲兵二等軍曹即今豫
 備疆員吉田瀧太郎ニ對スル被告事件

初審 熊本輕罪裁判所

本件ノ事實被告吉田瀧太郎ハ熊本區洗馬町一丁目研屋ニ止宿中明治廿年七月十六日及ヒ十七日ニ熊本區中唐人町吳服商大見屋河野文次郎方ヨリ反物其他代金都合十九圓許リノ物品ヲ買取り其内手付金又ハ内金トシテ金八十錢ヲ拂入レタルモ其殘金督促ヲ受ケ辨濟セサル舉動ノ怪シキヨリ明治二十年七月十八日巡查某カ右研屋ヘ立越シ一應取調ヲ爲サントシタルニ種々口論ヲ爲スニヨリ遂ニ共ニ熊本警察署ニ至リ取調ヲ受クルニ際シ其前日文次郎ヨリ差送リタル所ノ金八圓八拾貳錢三厘ノ仕切書末尾ニ右ノ通トアルニ正ニ受取候也ノ六字ヲ填記シ置キタルヲ掛リ官ニ提出シ其義務ヲ免レントシタルモ其場ニ於テ直チニ被害者文次郎ヨリ偽造シタルヲ看破セラレタルモノニテ明治二十年九月十五日初審裁判所ハ被告ハ權利義務ニ關スル請取書ヲ偽造シ未タ其行使ヲ遂ケサルモノト判定シ刑法第二百十條第一項第二百十一條第一百十二條ニ依リ已ニ遂ケタルモノ、刑ニ一等ヲ

減シ重禁錮三月十五日ニ處シ罰金三圓ヲ附加シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一仕切書ノ末尾ニ正ニ請取候也ノ六字ヲ増書シタルハ即チ増減變換シテ未タ行使セサルモノナリ然ルニ裁判官ハ其變換ノ事實ヲ目シテ權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シタルモノト判示シタルハ理由ノ齟齬ナリ第二仕切書ナルモノハ權利義務ニ關スル證書ニ非スシテ一ノ私書ナリ故ニ之ヲ變換スルモ尙ホ私書變換ニ過キサレハ刑法第二百十條第二項ニ該當ス可キモノナリ而シテ該仕切書ニ印紙ノ貼用シアルハ熊本地方商人一般ノ風習ニテ貼付セシモノニテ權利義務ニ關スルカ故ニアラス其他姓ノミヲ記載シ名ヲ省畧シ半切ノ端紙ニ書シタルヲ以テ視ルモ證書ニアラスシテ私書ナルコト判然ナリ第三被告カ所爲ハ未遂犯ナレハ刑法第七十條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ三月十五日ノ重禁錮ニ處ス可キコソ相當ナルニ三月十五日ニ處スト法律ニ正條ナキ刑期ヲ言

渡シタルハ越權ノ處分ナリ第四本件ノ起因ハ被告カ研屋ニ居タル處
 文次郎來リ金圓拂入方ヲ督促スルニ付延期ノ談判中高聲ニナリタル
 際巡查某來リ被告カ爲メニ文次郎ニ延期方ヲ説諭シ居ル處ニ巡回ノ
 巡查一名入來リ種々説諭中少シク言語ノ相違ヨリ口論ニ至リタル未
 右巡查カ被告ノ身体ヲ毆打シタルニ依リ其當否ヲ判決センカ爲メ被
 告ヨリ進ンテ警察署ニ訴出タル事實ナルニ原判文ニ被告カ河野文次
 郎ヨリ物品ヲ買取り殘金督促ヲ受ケ辨濟セサル舉動ノ怪シキヨリ明
 治廿年七月十八日巡查二名研屋ヘ立越一應取調ヲナサントシタルニ
 種々口論ヲ爲スニヨリ云々ト掲ケタルハ事實相違ニシテ理由ヲ付セ
 サル裁判ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告ハ其理由ナキモノト
 シ棄却シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク上告第一論旨ヲ按スルニ抑モ證書ノ増減トハ證書ノ質
 ヲ變セスシテ其證書中ノ條件ヲ添削シタル場合ヲ云フモノナリ本案

被告カ所爲タル之ヲ原判文ニ徵スルニ仕切書ニ正ニ請取候也ノ文字
 ヲ記入シ權義ニ關セサル私書ヲ利用シ權義ニ關スル請取書ヲ捏造シ
 即チ私書ノ質ヲ變シ權義ニ關スル證書トナシタルモノナレハ原裁判
 所ニ於テ之ヲ證書偽造トナシタルハ固ニ當然ニシテ敢テ不法ト云フ
 ヲ得ス而シテ又其二論旨ノ如キモ假令仕切書ハ私書ナリトスルモ前
 段ニ辯明スル如ク既ニ其實ヲ變シ權義ニ關スル請取書トナシタル以
 上ハ私書ノ偽造ニ非スシテ權義ニ關スルモノヲ偽造シタルモノナル
 一勿論ナレハ刑法第二百十條第一項ヲ適用シタルハ當然ニシテ擬律
 錯誤ト云フヲ得ス而シテ又其第三論旨ハ全ク法律ノ解釋ヲ誤リタル
 モノナレハ採用スルニ足ラサルモノトス何トナレハ該第二百十條第
 一項ノ刑期即チ四月以上四年以下ヨリ一等ヲ減スルハ三月以上三
 年以下ニ下ルヲ以テ其範圍内ニ於テ三月十五日ニ處シタルハ當然ニ
 シテ決シテ法律ニ正條ナキ刑期ト云フヲ得サレハナリ而シテ又其第

四論旨ハ全ク法律上裁判官ニ任從シタル職權内ニ立入り採證ノ當否事實ノ認定ヲ非難スルニ過スシテ毫モ適法ノ原由ナキヲ以テ相立サルモノトス

○手形偽造行使詐偽取財ノ件明治十九年第五百九十二號

銀行支配人ノ記名アル爲替手形ニ用ユ可キ切符ヲ印刷シ之ヲ抵當トシ金圓ヲ騙取シタルモノハ手形偽造ヲ以テ論スヘキヤ否但該手形ハ裏書ヲ以テ移轉スヘキ性質ヲ有セサルモノニ係ル

既ニ前發ノ犯罪ニ因リ罰金ノ刑ヲ受ケタル者ニ對シ後發ノ罪ヲ罰スルルキハ前刑ニ係ル其罰金ハ被告ニ還付スヘキヤ又ハ通算スヘキヤ

東京府京橋區新富町三丁目三番地初原イチ方寄留三重縣北牟婁郡相賀村百六十六番地平民莊太郎長男佐々木莊三郎ニ對スル被告事件

初審 東京重罪裁判所

本件ノ事實被告佐々木莊三郎ハ明治十七年三月中和歌山縣紀伊國東牟婁郡新宮出張久次米銀行支店支配人久次米榮次ノ記名アル爲替手形ニ用ユヘキ切符ヲ印刷セシメ之ニ二百圓ノ金高及ヒ其受取人ニ被告カ氏名並ニ番號月日等ヲ記入シ又之ニ相當ノ印紙ヲ貼用シ且其必用ノ所ニハ被告カ持合ハセ印形ヲ押捺シ右新宮支店ヨリ京橋區八丁堀久次米銀行ニ宛テ振出シタル爲替手形即チ被告人ハ久次米銀行ニ於テ金二百圓ハ直ニ交換シ得ヘク見セ掛ケタル切符ヲ偽造シ同月二十一日朝神田元岩井町十三番地日向與四郎方ニ到リ之ヲ示シ久次米銀行ヨリ受取ルヘキ金圓ナルモ役員未タ出頭ノ時刻ニ至ラス然ルニ差掛リ入用出來スルニ依リ預ケ置ク可キ間一時金圓用立吳レ可シト申欺キ右手形ヲ抵當トシテ金貳拾圓ヲ騙取シタルモノト明治十九年六月三十日初審裁判所ハ認定シ而シテ被告ハ又明治十八年七月十一

日東京輕罪裁判所ニ於テ拐帶ノ科ニヨリ重禁錮一年罰金貳拾圓監視六月ニ處セラレタルモノニテ其爲替手形偽造行使ノ所爲ハ刑法第二百九條初項ニ依リ輕懲役其手形ヲ以テ金圓ヲ騙取シタル所爲ハ同第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ右重輕罪俱發シ尙ホ前ニ一罪發シ處刑ヲ受ケタルヲ以テ同第百條同第百二條ニ照シ後發ノ内重キ手形偽造行使ノ所爲ヲ以テ論シ同第二十二條第二後項ニ依リ輕懲役六年ニ處斷ス但前刑ノ内罰金貳拾圓ハ被告ヘ還付スヘキモノトスト言渡シタル裁判ヲ不當トシ被告及東京控訴院檢察長ハ各上告ヲ爲シタリ被告上告ノ要旨ハ第一上告人カ作爲シタル活版ノ證書ハ明治十五年太政官第五十七號公布爲替手形約束手形條例第四十七條第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程範圍内ノモノニアラス其所爲ハ約束手形爲換手形ハ其裏書ヲ以テ甲乙丙ト自由ニ輾轉流通シ得ルモノヲ云フナリ今上告人カ製作シタルモノハ權利義務ニ關スル私書ニシ

テ該證書ヲ未タ行使セサルモノナレハ其罪ヲ論スルモノニ非ス假リニ偽造行使犯ト認ムルモ檢察官請求ノ如ク輕罪犯ニシテ刑法第二百十條第二項ヲ適用スヘキモノナルニ爲替手形偽造行使ト認定シ其理由ヲ明示セス刑法第二百九條ヲ適用シ輕懲役六年ニ處セラレシハ不當ナリ第二檢察官ニ於テ上告人ノ犯罪ハ刑法第二百十條第二項ニ據リ云々ト請求セラレシモ法官ハ一モ其言ヲ採ラス單ニ同法第二百九條ニ依リ斷定シタルハ治罪法第四百十條第六項ニ該當スル不當ノ裁判ナリ第三公廷ニ於テ證人初原イチノ母外四名ノ召喚ヲ請求セシニ採用セサルハ越權ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云ヒ檢察官ハ本案ノ偽造シテ行使シタリト認定スル爲替手形ハ如何ナル性質ヲ有スル者ナル歟トスルニ現物ニ就テ之ヲ觀ルニ送金手形トモ稱ス可キ者ニシテ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉シ得可カラサルモノナリ其所有權ヲ移轉シ得可カラサル者ナレハ法律上之ヲ尋常ノ證書ト看做ス可キモノニシ

テ其記名ノ受取人カ金額ト交換シ得レハトテ之ヲ爲替手形ト論ス可
 カラス然ルニ其性質ノ何タルヲ論辯セス直チニ之ヲ爲換手形ト論決
 シ又從テ之ニ重罪ノ刑ヲ言渡シタルハ畢竟擬律ノ錯誤ト謂フ可キナ
 リ又前罪ノ罰金既ニ納完シタル者ナレハ刑法第百二條前項ノ規則ニ
 從テ後罪ノ刑期ニ通算ス可キ筈ナルニ本案ノ裁判茲ニ出テスシテ之
 ヲ被告ニ還付スルノ言渡ヲ爲シタルモ亦擬律ノ錯誤ナルニ付破毀ヲ
 求ムト論シ上告ヲ爲シ被告代理人ハ原判文ニ福島金藏カ豫審調書ト
 アレトモ福島倉藏ノ豫審調書ハアレトモ福島金藏ハ之レナシ是レ書
 損ナルカハ知ラサレトモ破毀ノ原由アリト擴張シタリ刑事局ニ於テ
 原裁判ハ被告カ上告第一論旨及ヒ東京控訴院檢察長上告論旨ノ如ク
 擬律錯誤ノ裁判ト認メ治罪法第四百二十九條ニ依リ該裁判言渡ヲ破
 毀シ被告カ權利義務ニ關スル證書ヲ偽造行使シタルハ刑法第二百十
 條同第二百十二條ニ該リ金圓ヲ騙取シタルハ同第三百九十條同第三

百九十四條ニ該ルヲ以テ同第三百九十條末項ニ依リ重キ同第二百十
 條ニ從ヒ四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ附加罰金
 範圍内ニ於テ重禁錮一年罰金貳拾圓ヲ附加シ仍ホ同第二百十二條ニ
 依リ六月ノ監視ニ付スヘキ處一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ本件ハ餘
 罪ニ係リ等シキヲ以テ之ヲ論セサルモノトス但差押ヘタル偽造證書
 及印形壹顆ハ刑法第四十三條ニ依リ官ニ沒收シ郵便端書三枚及ヒ久
 次米銀行東京支店切符壹紙貳枚ハ治罪法第三百八條ニ依リ所有主ニ
 還付スト言渡シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク被告カ上告第一ノ理由トスル中ニ證書ヲ行使セスト
 ノ一及ヒ爲替手形偽造行使犯ト認定シタル理由ヲ明示セスト論告
 スル所アレヒ其行使セサルトノ一ハ事實ノ當否ヲ論難スルニ過キ
 サレハ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス又偽造證書行使ノ理由ハ原
 判文ニ明示シアリテ毫モ理由不備ノ際ヲ發見セサルナリ第二ハ治罪

法第四百十條第六項ニ該當スル不法ノ裁判ナリト云フニ在レテ該項ハ法律ニ定メタル場合ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽カサル時ニ該當ス可キ法意ニシテ被告カ論告スル如キ檢察官カ被告ニ適用スヘキ法律ノ請求ヲ採ラサルトテ該項ニ適當スヘキ者ニ非ラサルナリ第三ハ越權ナリト云フニアレテ証人召喚ノ請求ヲ許否スルハ裁判官ノ權内ニ在レハ之ヲ採用セサルトテ越權ト云フヲ得サルノミナラス之ヲ不當トセハ當時異議ノ申立ヲ爲シタル上ニ非ラサレハ直チニ上告スルヲ得サル者トス又被告代言人カ擴張論旨ニ付原判文ヲ査スルニ證人福島金藏カ豫審調書トハ福島倉藏ノ誤寫ナルコトハ一件書類ニ徴シテ明カナレハ其誤寫ヲ以テ破毀スヘキ限りニ非ラス因テ右上告并ニ代言人カ擴張論旨ハ相立タサルニ付治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却ス然レテ刑法第二百九條ニ所謂爲替手形トハ爲替手形約束手形條例ニ準據シ作ルヘキ爲替手形約束手形ノ類ヲ指シタルモノナリ

然ルニ原裁判所ニ於テ被告カ偽造シテ行使シタルト認定シタル手形ハ爲替手形ト稱ス可キモノニ非ラス又裏書ヲ以テ所有權ノ移轉スヘキ性質ヲ有スルモノニ非ラスシテ記名者ナル被告ニ非ラサレハ此證書ヲ以テ該金額ヲ受取ルコトヲ得サルモノナリ要スルニ權利義務ニ關スル證書ニ過キササルニ爲替手形ヲ偽造行使シタル者ト判定シ刑法第二百九條初項ニ依リ輕懲役六年ニ處シタルハ被告カ上告第一論旨及ヒ東京控訴院檢察長カ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリ而シテ又前罪ノ罰金既ニ納完シタル者ナレハ刑法第百二條初項ニ從テ後發ノ刑期ニ通算ス可キモノナルニ前刑ノ内罰金貳拾圓ハ被告ヘ還付スト言渡シタルハ是亦擬律錯誤ハ免カレサル者トス

○爲換手形ニ詐欺ノ裏書其他數罪明治二十年
第九百八十五號

郵便小爲替手形ヲ竊取シ更改變換シテ行使シタルハ刑法第二百

九條ノ犯罪ハ構成セサルヤ否

三重縣伊勢國河曲郡三日市村三番屋敷居住士族無職業坂倉玉藏ニ對スル被告事件

初審 安濃津重罪裁判所

本件ノ事實被告坂倉玉藏ハ曾テ伊勢國三重郡四日市郵便局ニ雇ハレ同局ニ於テ郵便物發着及其區分等ノ事務ヲ擔任シタルモノニシテ第一明治十九年九月二日其執務中差出人隣谷義一ヨリ受取人小田キヌニ宛テタル小爲換證書封入ノ郵便信書ヲ竊取シ而シテ同月四日該證書表面中局名ノ部ニ一身田ト記入シ尙ホ受取人名區劃内ニ小田キヌトアルヲ奄藝郡御園村真中齊助ト無形ノ人名ニ改メ又其裏面ニ同氏名ヲ記入シ且真中トシタル印形ヲ彫刻シテ其名下ニ押捺シ自ラ真中齊助ト詐稱シテ該證書ヲ同郡一身田郵便局ニ持參シ爲替金壹圓五拾錢ヲ受取り第二明治十九年九月五日頃前同様執務中差出人荒井仁太

郎ヨリ受取人荒井兼松ニ宛タル小爲換證書封入ノ郵便信書ヲ竊取シ而シテ同月廿一日該證書表面中局名ノ部ニ桑名ト記入シ又其裏面ニ三重縣員辨郡大木村荒井兼松ト記入シ且有合セノ印形ヲ購求シテ其名下ニ押捺シ自ラ荒井兼松ト詐稱シテ該證書ヲ桑名郡桑名郵便局ニ持參シ爲換金壹圓八拾錢ヲ受取り第三明治十九年九月廿七日頃前同様執務中差出人横川涉ヨリ受取人花井卯助ニ宛タル小爲替證書封入ノ郵便信書ヲ竊取シ而シテ同月十九日該證書表面中局名ノ部ニ桑名ト加ヘ尙ホ受取人ノ住所氏名ヲ員辨郡南大社榎村序助ト無形ノ人名ニ改メ又其裏面ニ同住所氏名ヲ記入シ有合セノ印形ヲ購求シテ其名下ニ押捺シ自カラ榎村房助ト詐稱シテ該證書ヲ桑名郵便局ニ持參シ爲替金貳圓ヲ受取り第四第五ハ第六明治十九年十月十九日頃ト同月三十日頃ニ前同様執務中差出人大塚祐英外一人ノ郵便信書都合二通ヲ開封シテ隱匿シ第七明治十九年十一月初旬前同様執務中差出人山

木伊之助受取人山木伊之助ニ宛タル小爲換證書封入ノ郵便信書ヲ竊取シ而シテ同月廿七日該證書表面局名ノ部ニ一身田ト加ヘ又其裏面ニ受取人ノ住所氏名ヲ記入シ其氏名ヲ刻ミタル印形ヲ偽造シテ名下ニ押捺シ自ラ花井積善館ト詐稱シ該證書ヲ一身田郵便局ニ持參シテ爲替金四圓四拾錢ヲ受取リタル者ナリ然ルニ其後所屬局長木村朗ニ第一乃至第五ノ罪ヲ覺知セラレ其訊問ヲ受テ之ヲ自白シタルモノニテ明治二十年六月九日初審裁判所ハ第一乃至第五第七第八ノ内竊盜ノ所爲ハ郵便條例第二百五十條ニ從ヒ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ氏名詐稱ハ刑法第二百三十一條ニ依リ第六ノ郵便物開封ノ所爲ハ刑法第五條ニ基キ郵便條例第二百三十四條ニ依リ第八ノ私印偽造ノ所爲ハ刑法第二百八條第二百十二條ニ依リ而シテ第一乃至第六ノ衍所爲ハ犯時二十歳未滿ナルヲ以テ宥恕シテ一等ヲ減シ第七第八ノ所爲ハ未發前自首シテ第七ノ損害ハ完償シ第八ノ損害ハ半數以上

還償シタルヲ以テ刑法第八十五條第八十六條ニ照シ第七ノ竊盜罪ハ三等ヲ通減シ第八ノ竊盜罪ハ二等ヲ通減シ其私印偽造氏名詐稱ハ一等ヲ減シ數罪俱發ニ付刑法第百條ニ照シ一ノ重キ第三ノ竊盜罪ニ從ヒ重禁錮二年ニ處シ監視一年ニ付ス第一以下ノ所爲中爲換證書拂渡局名又ハ受取人名ヲ記入シ或ハ變更シテ行使シタルハ竊盜ノ結果ニシテ且郵便局爲換證書ハ刑法ニ所謂爲換手形ト同視スヘキモノニアラサレハ別ニ一罪ヲ構成スルモノニアラス又無形人ノ印ヲ調製シタルハ偽印ノ成立ツ理ナク又爲換證書ヲ行使シテ金圓ヲ得タルハ詐欺取財ト云フヘキモノニアラサレハ共ニ治罪法第四百一條ニ依リ無罪ト裁判シタルニ之ヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ犯罪ノ事實ハ判文第一乃至第八ニ見認メタル如クニシテ其數個ノ所爲中郵便小爲換切手ノ表裏ニ局名ヲ記入シ又ハ受取人ノ住所氏名ヲ描改若クハ詐爲シ之ヲ數個ノ郵便局ニ行使シテ金員ヲ騙取シタル

所爲ヲ罰セサルト郵便局ニ行使シテ金員ヲ騙取シタル所爲ヲ罰セサルト郵便局ニ對シ金員騙取ノ爲メ爲換券記載ノ受取人ナリト申立タル所爲ヲ罰シタルトハ擬律錯誤ノ裁判ナリ其理由ハ第一原裁判官ハ爲換證書ニ拂渡郵便局名又ハ受取人名ヲ記入シ若クハ更改シテ行使シタルハ竊盜ノ結果ニシテ別ニ一罪ヲ構造スルモノニアラス若シ然ラストスルモ郵便局ノ爲替證書ハ普通權利義務ニ關スル證書ニテ刑法第二百九條及明治十五年第五十七號布告ニ所謂爲換手形約束手形ト云フヘキモノニアラス假ニ爲換手形ト同視スルモ爲換手形ノ裏書トハ同條例第十二條以下ニ云ヘル如ク手形ノ所有權移轉ニ係ル裏書ヲ云フモノナレハ小爲換證書ノ表裏ニ局名及ヒ受取人名ヲ記入シ又ハ更改シタル如キハ刑法上詐爲ノ裏書ト稱スヘカラストノ理由ヲ付シ世間所謂爲換手形トハ爲換手形條例ニ適合スル性質法式ヲ具有スルモノ、外絶テナキカ如ク判定シタルモ夫ノ爲替ナルモノハ該條例

ニ定ムルノミナラハ金圓ヲ特定ノ人ニ送ラン爲メ此地ニ於テ拂込ニ彼地ニ於テ拂渡サシムル方法即チ郵便條例ニ所謂爲替ナルモノニ均シク爲替ニ外ナラス只方法ノ異ナルノミ郵便小爲換ナルモノハ郵便條例中爲替ニ係ル條規ニ基キ郵便局カ定メタル一種ノ爲替法ト云ハサル可ラス而シテ之ヲ偽造變造シ若クハ詐僞ノ裏書ヲ爲シテ行使セハ社會ニ害ヲ與フルハ敢テ異ナル所ナシ然ラハ即チ刑法第二百九條ニ所謂爲替手形ニアラスト云フノ理ナシ假リニ本條ノ制式ヲ與フヘキモノニアラストセハ必ラス權利義務ニ關スル證書ヲ變換行使シタルモノニテ刑法第二百十條ニ該ルヘク決シテ不問ニ付スヘキモノニアラス然ルニ原裁判官ハ已ニ權利義務ニ關スル證書ト見認メナカラ之ヲ變換シタルハ竊盜ノ結果ナリトシ不問ニ措キタルハ不當ナリ云云ト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告第一論旨ニ基キ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑モ刑法第二百九條ニ爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買ス
 ヘキ證書若クハ金額ト交換ス可キ約定手形トハ單ニ明治十五年第五
 十七號布告爲替手形約束手形條例ニ定メタル手形ノミヲ云フニアラ
 ス郵便爲替手形ノ如キ郵便條例中特ニ爲替ニ係ル條規ヲ定メ發行シ
 タル爲替手形モ共ニ包含スルノ法意ナリトス今本案原判文ニ認メタ
 ル被告カ郵便小爲替手形ヲ竊取シ之ニ拂渡郵便局名及ヒ爲替受取人
 ノ住所氏名ヲ記入シ或ハ更改變換シテ行使シタル所爲ハ即チ刑法第
 二百九條ノ犯罪ヲ構成スヘキ事實ナルヲ論ヲ俟タス然ルニ原裁判所
 ハ該手形變換ノ所爲ハ竊盜ノ結果ナリ又ハ該手形ハ刑法ニ所謂爲替
 手形ト稱スヘキモノニアラス或ハ該變換ハ爲替條例ニ定メタル裏書
 ノ式ニ適セサレハ詐僞ノ裏書ト云フ可ラストノ理由ヲ附會シ別ニ一
 罪ヲ構造スヘキモノニ非ストセシモ元來爲替手形ナルモノハ金圓ノ
 代替物ナレハ之ヲ竊取シテ現金ト爲サンニハ夫々手續ヲ要スヘシト

雖モ其手續ヲ爲スヤ一個ノ犯罪ヲ構成スヘキ變換行使等ノ事實明確
 ナルトハ強チ竊盜ノ結果ナリトシ容易ク不問ニ措クヲ得サルモノナ
 リ然ルニ原裁判所カ右ノ事實ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ上告第
 一論旨ノ如ク不當ノ裁判ナルノミナラス判文中段以下ノ理由ニ由レ
 ハ該手形ヲ竊取セシハ尋常竊盜ノ事實ノ如クナルモ其前段ノ理由ニ
 (被告玉藏ハ曾テ伊勢國三重郡四日市郵便局ニ雇ハレ同局ニ於テ郵便
 物發着及其區分等ノ事務ヲ擔任シタル者ニテ)トアルヲ見レハ被告ハ
 當時郵便局ニ職ヲ奉シ其職務上擔任シテ監守ノ責アル郵便物ヲ竊取
 シタルモノ、如シ果テ然ラハ監守盜ノ事實ヲ構成スヘキモノナリ然
 ルニ斯ノ如ク前後ノ理由齟齬シテ眞實ノアル處ヲ識ルニ由ナケレハ
 未タ以テ擬律ノ當否ヲ鑑査シ能ハサル不法ノ裁判ナリトス既ニ此點
 ヲ以テ原裁判ヲ破毀シ更ニ覆審ヲ要スヘキモノト認メタレハ他ノ上
 告點ニ對シ爰ニ一々辯明ヲ與フルヲ要セス

○證書偽造ノ件 明治二十年 第五百四十一號

財産若クハ證書ヲ交附セシムルニ先チ欺罔又ハ恐喝ノ手段ナキ
モノモ刑法第三百九十條ノ制裁ヲ受クルヤ否

福岡縣筑前國御笠郡杉塚村平民農菽尾佐十郎ニ對スル被告事件

初審 福岡輕罪裁判所

本件ノ事實被告菽尾佐十郎ハ明治十七年二月廿四日小山田甚三郎カ
本岡勝太郎ヨリ金三拾圓借用シタル末其證人今村甚作引受ケ辨償ス
ルコトナリ示談ノ上拾五圓ニテ消算ノ約定書ヲ甚作外壹名ヨリ勝太
郎外壹名差入レタル其際甚作ノ爲メニ盡カスルトテ甚作ヨリ數度ニ
金貳拾六圓四拾錢ヲ受取り之ヲ勝太郎ヘノ返金ト入費トニ充テ事落
着シタリト甚作ヘ對シ申詐リ該金騙取シタル末明治二十年八月八日
勝太郎ヨリ甚作ニ係リ返金催促ノ勸解ヲ出願シタルニ付引合人トシ
テ福岡治安裁判所ヘ呼出サレ會テ中野龍生カ記セシ金五圓ト拾圓ト

ヲ列記シタル受取書壹通所持シタルヲ奇貨トシ之ニ皆濟相成候ノ文
字ヲ記入シ且本岡トアル小印ヲ彫刻シテ之ニ押用シ勝太郎ノ受取書
ヲ偽造シ甚作ヨリ受取りタル金貳拾圓ヲ勝太郎ニ渡シタル證ナリト
勸解ニ提供シタルモノト判定シ明治二十年九月廿四日初審裁判所ハ之
レニ刑法第三百九十條第三百九十四條第二百十條一項第二百八條一
項第三百十二條第百條ヲ適用シ私印偽造罪ヲ重トシ重禁錮七月罰金
五圓監視六月ニ處ス但受取書ヲ中野龍生ヨリ竊取シタルハ證憑不充
分ニ付治罪法第三百五拾八條ニ依リ無罪又該證書ハ刑法第四十三條
ニ依リ沒收スト言渡シタル裁判ニ服セス被告ハ原裁判ハ審理不盡ニ
シテ罪ヲ犯シタルモノニアラスト論シ上告ヲ爲シ檢察官ハ附帶上告ヲ
爲シタリ其要旨ハ原判文ニ被告カ今村甚作ヨリ金廿六圓四拾錢ヲ騙取
シタリトアレト該金ハ本岡勝太郎ニ仕拂フヘキモノト被告ハ費用并
ニ釣金等ニ充テタルモノナリ又中野龍生ノ自書ニ係ル五圓ト拾五圓

トノ請取書ハ竊盜ノ證據不充分ナリトシ之ヲ無罪ニ爲シナカラ何等ノ理由ヲモ付セズシテ受取書一通所持シタルヲ奇貨トシ云々ト言渡セシハ越權ノ處分ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ審理不盡ノモノト認メ上告及附帶上告ニ就テハ辯明ヲ要セサルモノトシ治罪法第四百廿八條ニ則リ該裁判言渡ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑詐欺取財ノ罪ハ人ヲ欺罔シテ無實ノ成功ヲ希望セシメ又ハ無根ノ事故ヲ以テ之ヲ畏怖セシメ其他偽計ヲ用ヒ因テ以テ財產若クハ證書類ヲ騙取スルニアラサレハ之ヲ構造セサルモノニシテ要スレハ其財產若クハ證書類ヲ交付セシムルニ先キ立チ欺罔又ハ恐喝ノ手段ナカラサルヘカラサルナリ然ルニ原判文ハ刑法第三百九十条ヲ適用セシ事實部内ニ於テ被告人ハ明治十七年二月廿四日小山田甚三郎カ本岡勝太郎ヨリ金三拾圓借用シタル未其證人今村甚作引受

ケ辨償スルコトナリ示談ノ上拾五圓ニテ清算ノ約定書ヲ甚作外一名ヨリ勝太郎外一名ヘ差入タリ此際甚作ノ爲メニ盡カスルトテ甚作ヨリ數度ニ金廿六圓四拾錢ヲ受取り之ヲ勝太郎ヘノ返金ト入費トニ充テ事落著シタリト甚作ヘ對シ申詐リ該金騙取シ云々ト掲載アリテ其甚作ハ勝太郎ニ盡スヘキ三拾圓ノ義務ハ被告カ盡力ニ因テ半額ノ拾五圓ニ減シタレハ之ヲ辨償スルト且此間被告カ多少奔走シタルノ費用ヲ償ヒ受クル約束ヲ以テ合計廿六圓餘ノ金圓ヲ甚作ヨリ受取タルモ被告於テ其拾五圓ヲ消費シ之ヲ勝太郎ニ辨償セズシテ遂ニ詐言ヲ陳セシモノ、如シ果テ然レハ被告カ該金交付セシムルニ先キ立チ之ヲ騙取スルノ惡念アリシ事實ナキヲ以テ個ハ刑法第三百九十五條ニ依ルヘキモ未タ純然タル詐欺取財ノ罪ハ構造セサルナリ良シ又其惡念アリテ之ヲ騙取シタリトスルモ甚作カ義務ノ拾五圓ニ減セシハ全ク被告ノ盡力ニ因ルトスレハ其他ノ金員ハ未タ必シモ被告カ無根ノ

騙術ヲ以テ之ヲ詐取シタリト概論シ難シ何トナレハ其甚作カ希望ヲ
 満足スルニ至リシ結果ヲ觀ルニ就テハ被告カ多少勞カト費用ヲ要ス
 ヘキ道理アツテ存スレハナリ然レハ即チ該廿六圓四十錢ノ金額ヲ皆
 ナ被告カ騙取シタリト明示シタルハ甚タ理會セサルモノト云フヘシ
 要スルニ原裁判ハ事實理由ノ不備ナルモノニシテ治罪法第四百十條
 第九ニ該當スル破毀ノ原由アルモノニ付被告カ上告并ニ原檢察官ノ
 附帶上告論旨ニ就テハ其當否ノ辯明ヲ要セス

○證書變造詐欺取財ノ件明治十九年
甲第八百九十七號

出訴期限經過ノ貸金證書ヲ變造シ金圓ヲ騙取シタルモノハ刑法
 第二百十條初項ニ該當スルヤ將々同第二項ヲ以テ處斷スヘキ
 ヤ

兵庫縣播磨國加東郡久下山村平民農山本良吉ニ對スル被告事件

初審 姫路支廳

本件ノ事實被告山本良吉ハ岸本瀧藏ヨリ藤原淺五郎へ差入レアリシ
 金拾壹圓三拾七錢五厘ニシテ明治七年十一月ノ返濟期限ナル借用金
 證書ノ自己ノ手ニ入リタルヲ奇貨トシ其證ノ紙尾ヲ切斷シタル上擅
 マニ自己ノ宛名ヲ書加ヘ貸金ノアル如ク仕做シ證書ヲ以テ瀧藏ノ相
 續人岸本寅吉ニ對シ貸金催促ノ勸解ヲ姫路治安裁判所へ出願シタル
 未明治十八年一月中同所ニ於テ證書ヲ返戻スル代リナリト云ヒ金一
 圓ヲ右寅吉ヨリ騙取シタルモノニテ明治十五年二月二十五日初審廳
 ハ刑法第二百十條第二項第二百十二條第三百九十條第三百九十四條
 ニ依リ同第百條ニ照シ一ノ犯情重キ詐欺取財ノ罪ニ從ヒ重禁錮六月
 ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス差押ヘタル第一號證中變造
 ニ係ル部分ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收シ其他并ニ第五號證ハ岸本
 寅吉へ第二三四號證ハ被告人ニ還付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告
 ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ本件甲第一號證ハ明治六年ニ起リ七年十

一月出訴ノ期限ヲ經過シ既ニ無効ニ屬セシ證書ナレハ之ヲ變換行使スルモ害ナキヲ以テ刑法第二百十條第二項ノ支配ヲ受クヘキモノニアラス又該證書ヲ以テ勸解ヲ出願シタルモ已ニ出訴期限ヲ經過シ裁判ヲ仰クノ効ナキヨリ岸本寅吉ヘ返戻シタルヲ同人ハ其厚意ヲ感シ報酬トシテ金壹圓ヲ贈リタルモノニシテ被告ハ騙取シタルニアラサルニ刑法第三百九十條ヲ適用シタルハ不法ナリト論シ尙ホ追伸書ヲ以テ事實ヲ陳述シ原裁判ハ證書ノ鑑定ヲ爲サス採證ヲ誤リ審理ヲ盡サス變造セシモノト判定シタルハ不服ナルヲ以テ破毀ヲ乞フト云ヒ檢察官ハ被告カ變造セシ證書ハ原判文ニ認メタル理由ニ依リ刑法第二百零十條第一項ノ犯罪ヲ構造スヘキ原素ヲ俱備シタル事實ナルニ該證書ノ出訴期限ヲ經過シタルモノト云フヲ以テ刑法第二百零十條第二項ノ犯罪ト裁判シタルハ擬律錯誤ナリト論シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ被告カ上告及追伸書ノ趣旨ハ其理由ナキモノトシ之ヲ

棄却シ原裁判ハ附帶上告ノ如ク擬律ヲ誤リタルモノト認メ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ更ニ被告カ所爲ハ刑法第二百零十條初項第二百零十二條第三百九十條第三百九十四條ヲ適用シ同第百條ニ照シ處斷スヘキ犯罪ナリト判定シ一ノ重キ刑法第二百零十條初項ノ罪ニ從ヒ被告山本良吉ヲ重禁錮七月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ監視六月ニ付ヌ但沒收還付ノ言渡ハ原裁判ノ通りタルヘシト宣告シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク上告ノ理由トスル處出訴期限ヲ經過セシ證書ヲ變造スルモ罪ナシ報酬トシテ受ケタル金員ヲ騙取トシタルハ不法ナリト云フニアルモ假令出訴期限ヲ經過シタル證書ト雖モ之ヲ變造行使シタルニハ害ヲ生セス又ハ生シ得可ラサルモノト斷定シ難ケレハ決シテ罪ナシト云フヲ得ヌ又其金員騙取ノ點及ヒ追伸書ノ趣旨ニ付テハ徒ラニ判官ノ認メタル事實採證ノ當否ヲ非難スルモノナレハ上告ノ

理由ト爲スヲ得ス依テ被告本人ノ上告ハ相立サルモノト雖モ抑刑法第二百十條初項ノ犯罪タル賣買貸借ノ如キ權利義務ニ關スル性質ヲ有スル證書ヲ偽造變造シテ行使シタル場合ニ構成スル者ナリ今原裁判所ニ於テ認メタル本案變造ニ係ル證書ハ金員貸借ニ係ル即チ權利義務ノ性質ヲ有スル證書ナルヲ明カナレハ假令出訴期限ヲ經過スルモ前段辯明ノ如ク直チニ無害物ト看做スヲ得ス況ヤ本件ハ現ニ該證書ヲ以テ金員騙取セシニ於テヨヤ然ルニ原裁判所カ右ノ事實ヲ認メナカラ出訴期限經過ノ故ヲ以テ刑法第二百十條二項ニ問擬シタルハ附帶上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリト判定ス

○約束手形偽造ノ件 明治二十年
第四百七十七號

銀行役員ニシテ同銀行金策ノ爲メ爲替約束手形ヲ作爲シ紹介ヲ以テ之ヲ第三者ニ交付シ清酒ヲ取り賣捌キタルモノハ銀行ニ於テ該手形ニ對スル金ノ有無ニ關セス直ニ手形偽造及詐欺取財ノ

罪ヲ以テ論スヘキヤ否

大阪府南區長堀端筋一丁目十四番地土族當時北區曾根崎新地三丁目三十七番地寓見山銀行副頭取小山豐義同府西成郡曾根崎村二百三十三番地寄留平民見山銀行取締森本豐藏兵庫縣神戸區松本町五丁目百三十五番地平民當時大阪府東區馬町一丁目十七番地石田ハツ方寄留見山銀行執事加藤吟作京都府丹後國與謝郡宮澤住吉町七十二番地平民當時大阪府南區長堀橋筋一丁目十四番地寄留見山銀行出納課福田安次郎ニ對スル被告事件

初審 大阪重罪裁判所

本件ノ事實被告小山豐義森本豐藏加藤吟作福田安次郎ハ大阪見山銀行役員ニシテ該銀行資金窮乏ノ際共ニ謀リ金策ノ手段ヲ以テ明治十九年一月初旬森本豐藏宅ニ於テ見山銀行四百圓ノ爲替約束手形ヲ作爲シ空券ナルニ宛名ヲ熱田好之助書留人森本豐藏ト記載シ之ヲ以テ

同府堺區九間町柴谷武次郎同地ニ於テ行使シ同人ヨリ清酒ヲ騙取スル目的ヲ以テ同府南區瓦屋町二番地平民金物商上阪市之助等ヲシテ其紹介ヲ爲サシメ同人ハ其情ヲ知テ之ヲ幫助シ同月十三日頃熱田好之助等ト共ニ柴谷武次郎方ヘ至リ遂ニ該偽造手形ヲ同人ニ交付シテ清酒八拾樽ヲ騙取シ大阪ニ於テ賣捌キタル代價ノ内貳百圓餘ヲ該銀行ニ入レ他ノ負債償却等ニ充テ消費シタルモノニテ明治十九年十二月十八日初審裁判所ハ刑法第二百九條第一項ニ該當シ清酒ヲ騙取シタル所爲ハ同第三百九十四條同第三百九十四條ニ該當スル二罪俱發ニ係ルヲ以テ尙ホ同第百條ニ照シ一ノ重キ約束手形偽造行使ノ罪ニ從ヒ被告四名ヲ各輕懲役ニ處スヘキ處原諒スヘキ情狀アルヲ以テ同第八十九條九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ同第六十九條第七十條ニ依リ各重禁錮一年六月ニ處シ同第二百十二條ニ照シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所即チ大阪控訴院檢察長及被告四名ハ

上告ヲ爲シタリ原檢察官ハ本案偽造ナリトノ手形ハ豫テ見山銀行ト金錢取引ヲ爲ス熱田好之助請求ニ依リ被告等ハ同銀行ノ役員ニシテ其求メニ應シ同銀行ノ約束手形ヲ作爲シ之ヲ好之助ヘ振出シタルモノナレハ固ヨリ被告等カ銀行役員ノ資格ヲ以テ作爲シタルモノニシテ之ヲ作爲スルハ役員ノ權内ニアリテ決シテ偽造手形ト云フヲ得ス云々ト論シ又被告四名ノ上告主意ハ其必要ナキヲ以テ之ヲ畧シテ掲ケス大審院立會檢察官ハ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ本件ハ見山銀行ノ役員即チ被告等カ其役員タルノ資格ニテ發シタル約束手形カ空券ナリトシ手形偽造ナリト論斷シタルモノナレハ抑モ銀行役員カ振出シタル手形ハ結局其銀行ニ該手形ニ對シ拂出スヘキ金員ナキ場合ニ至リ初メテ空券ト云フヲ得サルモノナリ又該手形ヲ清酒買代金ニ充タルヲ以テ詐欺取財ナリトシタルニ是又該手形ノ無効トナリ即チ空券ニ歸シタル后ニ至リ初メテ詐欺取財ト云フヘクモ未タ空券タルヤ

否ヲ究メサル限りハ其手形ノ爲メ損害ヲ受ケタルモノナキ理ナルヲ以テ詐欺取財罪ヲ組織スヘキモノニアラス要スルニ文書偽造ハ眞實ノ變換害ヲ加フルノ意思ノ生シ又生シ能フヘキ三原素ヲ具備スルニアラサレハ其罪ヲ構造セサルモノナルニ原判文ノ事實ノミニテハ未タ其原素ノ具備シタルヤ否ヲ見ルニ由ナキヲ以テ到底事實理由ノ不備タルヲ免カレサルモノナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ附帶上告論旨ノ如ク事實理由不備ノモノト認メ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ該裁判言渡ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑モ銀行ノ役員タル者カ其地位ニアリテ發シタル約束手形ヲ以テ偽造ナリトスルハ最モ異常ノ事柄ナレハ其事實ハ必ス役員タル者カ其ノ權限ヲ濫用シ即チ他人ニ害ヲ加フルノ意思ヲ以テ他日其銀行ヲシテ該手形ノ義務ヲ免カレシムルカ如キ不正ノ手形ヲ發シタル等ノ場合之ヲ例セハ爲替手形ハ現ニ其振出シ人アリテ之ヲ發

スルモノナルニ其振出シ人ナキニ之レアルカ如ク偽リ爲替手形ヲ發シタルカ或ハ其手形ノ用紙又ハ印鑑等總テ眞正ナラサルモノヲ用ヒ發シタル等ノ場合ナラサルヘカラス何トナレハ銀行役員ノ資格ヲ以テ正當ニ發シタル約束手形ナリトセン乎到底其銀行ニ於テ民事上ノ義務ヲ免カレサル筋合ナルヲ以テ或ハ其銀行破産等ノ爲メ該手形ニ付民事上ノ損失ヲ被ムルモノアルヘキモ之カ爲メ刑事上ノ損害ヲ受ケルモノナキハ尤モ賭安キノ理ナレハナリ夫既ニ損害ヲ受ケルモノナシトスル乎文書偽造ノ原素ヲ欠キ其罪ヲ組成セサルモノナリ故ニ被告等カ發シタリ約束手形ニシテ果シテ偽造ナリトスルニハ其不正ニ出タル事實ヲ明瞭ニ判示セサルヘカラス然ルニ原判文ニ被告四名ハ大坂見山銀行役員ニシテ該銀行資金窮乏ノ際共ニ謀リ金策ノ手段ヲ以テ云々トアルモ銀行ノ資金窮乏ニ際シ共ニ金策ヲ謀ルハ其銀行役員タルモノ、當然爲スヘキ事柄ニシテ只此所爲アルノミヲ以テ直

チニ不正ノ所爲ト云フヘキモノニアラサルヘキニ其次項ニ至リ漠然
 四百圓爲替約束手形ヲ作爲シ空券ナルニ云々ト果シテ何等ノ爲メ之
 ナ空券ナリト認メタルヤノ理由ヲモ掲ケス遂ニ手形偽造ヲ以テ論斷
 シタルハ不當ナルノミナラス其約定手形ニシテ果シテ空券ナルヤ否
 ヤ判然セサル上ハ之ヲ握受シタルモノ即チ清酒代價トシテ受取タル
 柴谷武次郎ニ於テ之カ爲メ損害ヲ受クルモノトスルハ早計モ亦太シ
 タ之ヲ要スルニ原判文ハ本院立會檢事附帶上告論旨ノ如ク本件ニ必
 要ナル事實理由ニ不備アリ從テ擬律ノ當否ヲ鑒查スルニ由ナキモノ
 ニシテ治罪法第四百十條第九項ニ適合スル破毀ノ原由アルモノトス
 既ニ此點ニ付原裁判ヲ破毀スル上ハ他ノ總テノ上告論旨ニ對シ特ニ
 辯明ヲ與フルノ必要ナキモノナリ

○印紙再貼用ノ件明治十九年
 第四百四十二號

依頼人ヨリ答辯書ヲ受取り其消印アル訴訟用印紙ヲ剝取り自ラ

造リタル答辯書ニ貼用シタルモノハ印紙再貼ヲ以テ論スヘキ

ヤ

神奈川縣橫濱區住吉町六丁目八十二番地平民代理人海老塚太郎
 欄ニ對スル被告事件

初審 橫濱輕罪裁判所

終審 東京控訴院

本件ノ事實被告海老塚太郎欄ハ初審裁判所ニ於テ印紙再貼用ノ被告
 事件ニ對シ無罪ノ裁判ヲ與ヘタルヲ不當トシ檢察官ハ控訴ヲ爲シタ
 ルニ終審裁判所ハ更ニ審理ヲ遂ケ被告ハ明治十九年三月六日橫濱相
 生町平民佐藤勘次郎ヨリ代理人ノ依頼ヲ受ケ曩ニ勘次郎カ認メ訴訟
 用印紙ヲ貼用消印シ置タル答辯書ヲ受取其答辯書ニ貼用シアル拾錢
 ノ印紙貳枚ヲ剝キ取り被告カ造リタル答辯書ニ貼用シ更ニ消印ノ上
 之ヲ橫濱始審裁判所ヘ差出シタルモノト判定シ刑法第九十九條及

明治十三年司法省甲第一號布達代人規則第二十三條第二十四條
 第二十五條ヲ適用スヘキナルニ初審裁判所カ無罪ヲ言渡シタルハ不
 當ナルニ付之ヲ取消シ更ニ罰金二圓ニ處シ且阿責スルモノナリ但再
 貼用ニ係ル印紙ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收シ答辯書ハ治罪法第三
 百八條ニ依リ被告人ニ還付スト言渡シタルニ被告ハ上告ヲ爲シタリ
 其要旨ハ原裁判所ニ於テ被告ノ所爲惡意ナキニモ拘ハラズ印紙ヲ再
 ヒ貼用シタルヲ以テ已ニ其罪ヲ構成セリト論斷シ殊ニ印紙効力ノ有
 無ノ如キハ論スヘキニアラスト裁判セラレタルハ所謂刑ヲ言渡スノ
 理由不備ナルモノナリ且訴訟用印紙ノ如キハ他ノ印紙ト異ナリ一度
 之ヲ使用セハ再度人民ノ手ニ戻ルヘキモノニアラス之レ他ノ印紙規
 則ニ再貼用ヲ罰スル條項アルモ訴訟用印紙規則ニ之ナキ所以ナリ蓋
 シ訴訟印紙ハ一度ヒ官衙へ差出セシニアラサル以上ハ其効用ヲ爲サ
 ハルモノニ付再貼用ヲ以テ論スヘキニ非サルナリ然ルニ原裁判所カ

再貼用ヲ以テ處分シタルハ罰スヘカラサルモノニ刑ヲ科シタル越權
 ノ處分ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ上告論旨ニ基キ治
 罪法第四百二十九條ニ則リ該裁判ヲ破毀シ同第三百五十八條ニ依リ
 被告海老塚太郎儒ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シ但原裁判所カ再貼用トシ
 テ沒收シタル印紙及答辯書ハ治罪法第三百八條ニ依リ被告へ還付シ
 タルモノニ係ル

其理由ニ曰ク刑法第百九十九條ニ已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵
 便切手ヲ再ヒ貼用シタル者トアルハ已ニ貼付シテ其効用ヲ爲シタル
 印紙ヲ再ヒ貼用シタルヲ云ヒ若シ之ニ反シ一旦貼付スルモ未タ其効
 用ヲ爲サハルニ於テハ素ヨリ再貼用ノ罪ヲ組成セサル者トス今原判
 文ニ認ムル事實ニ據レハ被告ハ佐藤勘次郎ヨリ代言人ノ依頼ヲ受ケ
 曩キニ同人カ訴訟用印紙ヲ貼付シ消印シ置タル答辯書ヲ受取り其答
 辯書ニ貼用シタル拾錢印紙二枚ヲ剝取り被告カ造リタル答辯書ニ貼

用シ云々トアリテ彙キニ貼付シタル印紙ハ未タ其効用ヲ經タルモノニ非サレハ之ヲ他ノ答辯書ニ貼用スルモ再貼用ト云フヲ得サルナリ然ルヲ原裁判所ニ於テ刑法第九十九條ヲ適用シタルハ上告論旨ノ如ク不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十二適スル破毀ノ原由アル者トス

身分詐稱罪ニ關ス

○氏名詐稱ノ件明治二十年
第五十五號

氏名詐稱ハ即時犯ナルヤ否

後發犯罪事件ニ際シ前罪ヲ包藏センカ爲メ氏名ヲ詐稱シタルモノハ別ニ詐稱罪ヲ構造スルヤ否

長崎縣肥前國東被袴郡福重村吉原祐次郎方同居平民無職業堀利三郎ニ對スル被告事件

初審 佐賀輕罪裁判所

本件ノ事實ハ被告堀利三郎ハ明治十九年四月十二日福岡輕罪裁判所ニ於テ詐欺取財ノ罪ニ因リ重禁錮十月罰金拾圓監視八月ノ處刑ヲ受ケ明治二十年二月中主刑滿限ニ付キ監視執行ノ爲メ福岡箱崎警察署ヨリ長崎縣警察署迄ノ旅券ヲ附與セラレ明治二十年二月九日該署ニ到達ス可キニ被告人ハ正當ノ事故ナクシテ其執行ヲ遁レン爲メ途中大村地方ニ潜伏シ而シテ明治二十年四月廿九日初審裁判所ニ於テ詐欺取財ノ罪ニ付取調ヲ受クルニ當リ前罪ヲ包藏センカ爲メ故ラニ東京府麹町區麹町三丁目佐々木市郎ト詐稱シ處刑ヲ受ケシ爾後佐賀監獄拘留中即明治二十年六月九日迄獄司等ヨリ前詐稱氏名ヲ呼ハルハニ應シ居タルモノニテ明治二十年六月廿五日初審裁判所ハ其二個ノ罪ハ餘罪後ニ發シ輕キヲ以テ刑法第百二條ニ依リ其罪ヲ論セスト言渡シタルニ之ヲ不當トシ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告カ明治二十年四月廿九日初審裁判所ニ於テ詐欺取財罪ニ依リ言渡ヲ受

グルニ當リ曩キニ福岡輕罪裁判所ニ於テ同上ノ罪ニ依リ處刑セラレ
 タルノ事實ヲ包藏セン爲メ故ヲニ東京府麹町區云々ト詐稱シタルハ
 刑法第二百三十一條ニ該當ス而テ其詐欺取財ノ罪ニ依リ佐賀監獄ニ
 於テ之カ執行ヲ受ルニ當リ仍ホ前郷貫氏名ヲ詐稱シ發覺ノ日迄其犯
 罪ノ止マサルモノナルヲ以テ純然タル繼續犯ナリト云ハサルヲ得ス
 今原判文ニ照スモ繼續犯ナルヤ判然タルヲ以テ刑法第百二條後項ニ
 依リ其包藏シタル監視違犯ノ罪ト郷貫氏名ヲ詐稱シタル再犯ノ罪ト
 ヲ比較シ一ノ重キ監視違犯ノ罪ニ依リ處斷スヘキモノトス然ルニ原
 判官ニ於テ被告ハ佐賀監獄ニ對シ郷貫氏名ヲ詐稱シタルノ事實ヲ認
 メナカラ其詐稱罪ハ曩キニ裁判所ニ對スル氏名詐稱罪ノ結果ニ外ナ
 ラス又其罪ハ詐稱スル時ニ當リ成立スルモノニシテ其所爲間斷ナキ
 モノト云フヲ得サレハ繼續犯トスルヲ得サルニ付再犯ノ罪ニ非サル
 モノトシ刑法第百二條初項ニ依リ其罪ヲ論セスト言渡シタルハ擬律

ノ錯誤ナリ因テ之カ破毀ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ檢察官
 ノ氏名詐稱ノ繼續犯ナリトノ論旨ハ相立タサルモ治罪法第四百三十
 一條ニ法リ原裁判官カ氏名詐稱ノ罪アリトシ處斷シタル一部ハ擬律
 ヲ誤リタルモノトシ此一部ヲ破毀シ直チニ氏名詐稱ハ罪トナラサル
 モノト認メ治罪法第三百五十八條ニ照シ被告堀利三郎ニ對シ無罪ノ
 言渡ヲ爲シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク刑法第二百三十一條ノ氏名詐稱罪ハ官署ニ對シ詐稱ヲ
 ナシ初テ組成スルモノニシテ一旦氏名ヲ詐稱シ其之ヲ改メサル間尙
 ホ亦組成スルモノト云フヲ得ス故ニ其詐稱數度ニ引續クカ如キハ單
 ニ其詐稱ヲ貫カントスル意思ノ繼續タルニ過キササルヲ以テ連續犯ト
 稱スヘキモノニシテ繼續犯ト稱スヘキモノニ非サルナリ因テ原檢察
 官ニ於テ氏名詐稱ノ罪タル繼續犯ナリト云フノ論旨ハ相立タサルモ
 ントス然リト雖モ今原判文ヲ閱スルニ略前罪ヲ包藏センカ爲メ故サ

ラニ東京府麹町區麹町三丁目佐々木市郎ト詐稱シ處刑セラレ爾後佐賀監獄拘留中即明治二十年六月九日迄獄司等ヨリ前詐稱氏名ヲ呼ハルハニ應シ居リタルモノナリトス)トアル事實ニ依ルキハ被告人カ氏名ヲ詐稱シタルハ己レカ前罪ヲ包藏シ再犯加重ヲ免レン爲メニシテ監獄ニ對スルノ詐稱ハ其加重ヲ免ル、爲メ詐稱シタルヲ貫カン爲メニ過キサルナリ果テ然ラハ氏名詐稱ハ加重ノ刑ヲ免レントスルノ手段ニ外ナラサルノミナラス斯ノ如キヲハ被告人ノ常情ニシテ別ニ罪トシ罰スヘキモノニ非サルナリ然ルニ原裁判官於テ其事實ヲ認メナカラ之ヲ氏名詐稱ナリトナシタルハ擬律ニ錯誤アル失當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス

健康ヲ害スル罪ニ關ス

○私醫業ノ件明治二十年
第六百九十七號

人ヲ雇ヒ代診セシメタルモノハ刑法第二百五十六條ニ該當スル

ヤ否

和歌山縣紀伊國東牟婁郡新宮四百五拾壹番地平民開業醫富岡東榮大阪府河内國丹南郡池尻村二百七十九番地平民菊井恒次岡山縣美作國東北條郡桑原村九百六十九番地平民岡部一貞ニ對スル
被告事件

初審 田邊 支 廳

本件ノ事實被告富岡東榮ハ患者ノ往診ヲ乞ヒ來タル者アレハ代診ヲ爲サシメンカ爲メニ明治十九年三月十八日被告人岡部一貞ヲ一月金五圓ニテ雇入レ明治十九年五月五日ニ被告菊井恒次ヲ一月金拾圓ニテ雇入レ爾後一貞恒次ノ二人ハ右俸給ヲ得ルノ契約ニテ東榮ノ許ニ寄宿シ其指揮ニ從ヒ數多ノ患者ヲ往診シ且投藥ヲ爲シタルモノニテ明治十九年八月二十三日初審廳ハ刑法第二百五十六條ニ依リ各拾圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判確定ノ后大審院檢事長ハ非常上告ヲ

爲シタリ其要旨ハ被告三名ニ對シ刑法第二百五十六條ヲ適用シ各罰金十圓ニ處スルノ言渡ヲナシ既ニ裁判確定ニ至リタリ抑モ刑法第二百五十六條ハ自カシ門戸ヲ張り醫業ヲナシタルモノヲ罰スル法條ニシテ本案ノ如キ其師ノ指揮ニ從ヒ代診ヲナス場合ヲ支配スルモノニアラサレハ法律ノ制裁ヲ施スヘカヲサルコト明ナリ然ルニ原裁判所カ之レニ刑ヲ科シタルハ是レ法律ニ於テ罰スヘカヲサル所爲ヲ罰シタル不法ノ裁判ナリト云ハサルヲ得ス因テ茲ニ非常上告ニ及フ間破毀シテ無罪ノ言渡アラント希望スト云フニアリ刑事局ニ於テハ非常上告論旨ニ基キ治罪法第四百三十五條末項ニ照シ原裁判所言渡ヲ破毀シ直チニ被告富岡東榮菊井恒次岡部一貞カ所爲ハ法律ニ罰スヘキ正條ナキモノトシ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑モ免許ヲ受ケスシテ私ニ醫業ヲ爲ス者ハ其醫師タル

ニ充分ナル學術ヲ備フルト否トヲ論セス刑法第二百五十六條ノ制裁ヲ免カレスト雖モ本按被告東榮ハ開業醫ニシテ患者ノ往診ヲ乞ヒ來タル者アレハ代診ヲ爲サシメンカ爲メ被告一貞恒次ヲ雇入置一貞恒次ハ其指揮ニ從ヒ患者ヲ往診シタルニ止マリ別ニ醫業ヲ爲シタル者ニ非レハ之ヲ以テ同條ニ所謂官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ト云フヲ得ス故ニ被告等ノ所爲ハ刑法ノ制裁ヲ受クヘキ者ニ非ラサルニ原裁判所ハ該所爲ニ對シ刑法第二百五十六條ヲ適用シ罰金ノ刑ニ處シタルハ本院檢察長カ非常上告論旨ノ如ク法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタル者ナリトス

○幼者ヲ遺棄シ死ニ致シタル件明治十九年 第四百二十八號

人ノ遺棄シタル嬰兒ヲ拾ヒ又之ヲ遺棄シ因テ以テ死ニ致シタルモノハ刑法第三百三十九條ニ該當スルヤ將々同第三百四十條ニ問フヘキヤ

朽木縣下野國梁田郡上澁垂村平民同所質屋營業石川宗平同縣同國同郡福富村平民留吉長男福地馬次郎明治二年一月生ニ對スル被告事件

初番 朽木重罪裁判所

本件ノ事實被告石川宗平ハ明治十九年二月十六日夜十時頃小沼彌三郎同ミヤカ其嬰兒ヲ被告宗平居室ノ椽側ニ遺棄シタルヲ拾ヒ揚ケナカラ之ヲ扶助シ官ニ届出ルノ煩勞ヲ厭ヒ該兒ノ遺棄ヲ即時被告馬次郎ニ命シタルニ同人モ其意ニ從ヒ共ニ該兒ヲ抱キテ近傍ナル上澁垂村ノ舊例幣使街道ニ出テ同村字東畑ト稱スル街道ニ積ミアリシ砂礫ノ上ニ遺棄シ因テ該嬰兒ヲ死ニ致シタルモノニテ明治十九年九月廿九日初審裁判所ハ刑法第三百三十九條ニ依リ有期徒刑ニ該ルモ馬次郎ハ犯時廿歲未滿ナルヲ以テ刑法第八十一條ニ從ヒ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減シ仍ホ孰レモ所犯原諒スヘキ者アルヲ以テ同法第八

十九條第九十條ニ照シ各二等ヲ減シ被告宗平ヲ輕懲役六年ニ處シ被告馬次郎ハ同法第六十九條ノ範圍内ニ於テ二年ノ重禁錮ニ處スト言渡シタルニ被告兩名ハ右裁判ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ニ於テ一旦該嬰兒ヲ拾揚ケタルニ相違ナキモ之ヲ遺棄シタルハ小沼彌三郎ニシテ被告ハ單ニ其遺棄シタル嬰兒ノ居所ヲ少シク轉シタルノミ其居所ヲ轉スルト遺棄トハ固ヨリ同一ノコトニ非ス我刑法遺棄罪ヲ罰スルノ精神ハ己レノ看守内ニアル者ヲ遺棄シタル所爲ヲ問フモノニシテ單ニ甲所ヨリ乙所ニ移シタルモノヲ罰スルノ主意ニ非ルナリ然ルチ原裁判所カ遺棄罪ヲ以テ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云ヒ代言人ハ上告趣意ヲ擴張セリ其要旨ハ第一公判廷ニ於テ朗讀セサル調書ハ證據ト爲スヘカラサルニ茂木徳三郎外一名ノ調書ヲ朗讀セスシテ採用シタルハ越權ナリ第二刑法第三百三十九條ハ己レカ保護スヘキ責任アル幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ死ニ致シタル場合ヲ

云フモノニシテ本案被告等ノ如キ毫モ其責任ナキ者ハ同第三百四十條ニ該當スルモノナリ原判文ニモ之ヲ扶助シ之ヲ官ニ届出ルノ煩勞ヲ厭ヒ云々ト事實ヲ認メナカラ第三百三十九條ヲ適用シタルハ不法ナリ第三公判辯論中被告カ該嬰兒ヲ捨ヒ揚ケタル時ハ已ニ死体ナリトノ申立アリテ其生死ハ一ノ争點ナリシニ原判文中唯遺棄シタルヲ捨ヒ揚ケナカラ云々トアリテ其死体ナリシヤ否ヤヲ明示セサルハ理由不備ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告及擴張論旨ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判言渡ヲ破毀シ直チニ刑法第三百四十條一項ニ依リ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ該ルモ被告馬次郎ハ犯時十六歳以上二十歳ニ滿タサルヲ以テ同第八十一條ニ依リ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減シ同第七十條ニ照シ十一日以上四月十五日以下ノ重禁錮ニ處スヘキ者ト認メ被告宗平ヲ重禁錮六月ニ處シ被告馬次郎ヲ同四月ニ處スト言渡シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク本案上告趣意中代言人カ擴張論旨ノ第一ハ公判廷ニ於テ朗讀セサル茂木徳三郎外一名ノ調書ヲ採用シタルハ越權ナリト云フニ在レレ公判始末書ヲ調査スルニ裁判長尙ホ被告兩人ニ對シ證人爲貝多吉茂木徳三郎ノ調書ノ大要ヲ告示シタル上若シ調書ノ全部朗讀ヲ願フナラハ申立ツヘシト告ケラレ被告兩人ハ別ニ必要モ之レナキニ付朗讀ヲ願ハサルモ宜シト申立タリト記載アツテ既ニ其大要ヲ告示シタルノミナラス被告ニ於テ全部朗讀ヲ願ハスト申立ル上ハ之ヲ朗讀セサルモ越權ナリト云フヲ得ヌ又第三ハ原判文ニ被告カ嬰兒ヲ捨ヒ揚ケタルハ死体ナヤ否ヤノ理由ヲ明示セサルハ不法ナリト云フニ在ルモ原裁判官ハ死体ヲ捨ヒ揚ケタリト認メタルニ非サルコトハ判文上明白ナレハ其認メサル所ノ理由ヲ付セサルモ固ヨリ理由ノ不備ト爲スヘキモノニ非ス故ニ右二點ハ上告ノ理由ナシト雖モ其第二論旨及ヒ本人上告趣意ニ據リ原判文ヲ閱スルニ被告宗平ハ明治十九年

二月十六日夜十時頃小沼彌三郎同ミヤカ其嬰兒ヲ被告宗平居宅ノ椽側ニ遺棄シタルヲ拾ヒ揚ケナカラ之ヲ扶助シ官ニ届出ルノ煩勞ヲ厭ヒ即時被告馬次郎ニ命シ同人モ其ノ意ニ同シ共ニ該兒ヲ抱キ云々砂礫ノ上ニ遺棄シ因テ該嬰兒ヲ死ニ致シタリトアリ此事實ニ據レハ被告宗平ハ自己ノ居宅椽側ニ棄兒アルヲ發見スルモ之ヲ扶助シ官ニ届出ルノ勞ヲ厭ヒ被告馬次郎ニ命シ之ヲ他ノ場所ニ移シタル者ニ過キサレハ即チ刑法第三百四十條ニ所謂自己ノ所有地云々之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ニシテ固ヨリ之ヲ遺棄ト同一ニ論スヘキ者ニ非ス然ルヲ原裁判所ハ右ノ事實ヲ認メタルニモ拘ハラス刑法第三百三十九條ヲ適用シタルハ上告及ヒ代言人カ擴張論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第十二適スル破毀ノ原由アル者トス

謀殺故殺罪ニ關ス

○謀殺ノ件明治二十年四月十四號

豫テ妻ノ姦通ヲ覺知シ一夕兇器ヲ持シ寢室ヲ窺フニ人聲アルヨリ姦夫姦婦ノ同衾スルモノト思ヒ直ニ侵入シテ刺撃シタルニ其呼聲ノ姦夫ニ似サルニ愕キ殺意ヲ中止シタルモ目的外ノ者ヲ刺傷シタル場合ニハ謀殺未遂ヲ以テ論シ刑法第二百九十八條以下ヲ適用スヘキヤ將タ同第三百一條ニ該當スルヤ

栃木縣下野國河内郡藥師寺村平民農平田半平ニ對スル被告事件

初審 宇都宮輕罪裁判所

本件ノ事實被告平田半平ハ明治十八年七月頃ヨリ自己ノ不在ヲ幸ヒ妻ミナニ於テ新井喜三郎ナル者ト姦通シ居ルヲ覺知シ其現場ヲ認メ之ヲ殺害セント決意シ明治十九年九月廿八日故ヲニ東京ニ出テ郵便ヲ以テ當分歸宅セサル旨ヲ報知シ置キ某所ニ於テ短力ヲ小刀ニ造

リタルモノヲ買求メ同月三十日不意ニ上野ヨリ第三番汽車ニテ歸村
シ家内ノ動靜ヲ覗フニ初メハ妻ミナ等ハ不在ナリシカ翌十月一日午
前三時頃ニ至リ寢屋ニ人聲等アルヨリ姦夫姦婦ノ全衾シ居ル者ト一
途ニ思ヒ込ミ突然侵入シテ左手ニ妻ミナノ毛髮ヲ掴ミ右手ニ豫テ用
意ノ短刀ヲ持チ先ツ姦夫ト覺シキ者ヲ刺撃スルニ驚愕ノ模様ナク又
一撃スルニ其呼聲小兒ノ音聲ニシテ姦夫喜三郎ト思ハレサルニ駭キ
妻ミナヲ起シ燈火ヲ點セシメタルニ其長女テイナリシカハ狼狽シテ
家外ニ馳出近隣ニ告々官ニ自首シタルニ明治二十年二月廿八日初審
裁判所會議局ハ刑法第三百一條第二項第七十七條第三項第三百十一
條第三百十三條ヲ適用シタルモ被告人カ人違ヒタルヲ知ラス飽迄
喜三郎ナリト思ヒツ、其殺意ヲ中止セハ其効果ヲ以テ論シ刑法第三
百一條ヲ適用ス可キハ當然ナリト雖モ本件事實ハ刺撃スルニ其呼聲
小兒ノ音聲ニシテ姦夫喜三郎ノ音聲ニアラサルニ駭キタル云々ノ事

實トシテ即チ其驚愕ノ模様ナキト呼聲ノ異ナルハ殺意ノ障礙トナリ
タルモノナリ人違ヲ爲シタルハ不注意ヨリ致シタル舛錯ナリ然レハ
被告人カ喜三郎ニ對シ殺意ヲ中止シタルニアラスシテ人違ヨリ成リ
タルモノナレハ宜シク謀殺未遂ヲ以テ問ヒ刑法第二百九十八條第二
百九十二條第三百十三條第一百十二條ヲ適用シ處斷ス可キモノナルモ姦
夫ト認メ本犯ノ所爲ニ及ヒタルモノナレハ罪本重カル可クシテ犯ス
時知ラサル者ナルニ付同法第七十七條第三項第三百十一條第三百十
三條ニ照シ減等ヲ與フ可キ重罪犯ナルヲ以テ宇都宮重罪裁判所ノ管
轄ニ屬ス可キモノナルニ依リ治罪法第三百六十二條ニ從ヒ當輕罪裁
判所ノ管轄ニアラサルヲ言渡スト宣告シタルニ之ヲ不當トシ被告
ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ本件ハ曩キニ宇都宮輕罪裁判所會議局ニ
於テ宇都宮輕罪裁判所へ移スノ言渡ヲ爲シタルヲ檢察官ヨリ上告ヲ
爲シタルニ大審院ニ於テ會議局ノ判決ヲ至當トシ上告ヲ棄却セラレ

裁判管轄ハ已ニ確定シタルモノナリ然ルニ宇都宮輕罪裁判所カ之ヲ管轄ニアラスト言渡シタルハ越權ナリ又被告カ殺意ヲ中止シタル行爲ニ對シ原裁判官カ刑法第二百九十二條以下ヲ適用スヘキモノトシ處斷シタル理由ハ之ヲ約言スレハ其中止ハ人違ヒナルニ因ルモノナレハ謀殺未遂ト云フニアリ然レトモ法律ハ犯罪ノ目的トスル被害者ニ依リ其刑ヲ區別セサレハ三ノ場合ヲ除ク外被害者ノ誰彼レヲ問ハス一般ニ其犯罪ニ從ヒ正條ヲ適用スルモノニテ犯人誤テ目的外ノ人ヲ害シタル場合ト雖モ其目的人ヲ害シタルト同一ノ刑ヲ以テ論スルナリ本件ノ如キモ被害者其人ニ依リ罪ヲ組成スルモノニアラサレハ假令人違ヨリ殺意ヲ中止シタリトスル意外ノ障礙若クハ舛錯ニ依リ目的ヲ遂ケサル場合トハ同一ニ處斷ス可カラサルコトハ多辯ヲ要セスシテ明カナリ然ルニ原裁判所ハ破告ノ行爲ハ若シ人違ニアラスシテ姦夫喜三郎ナリセハ決行シ遂クルモ知ル可カラストノ推測ヲ以テ之

ヲ謀殺未遂トシ宇都宮輕罪裁判所ノ管轄ニアラスト言渡シタルハ治罪法第四百十條第三項ニ當ル不當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ乞フト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ上告論旨ノ如ク破毀ノ原由アル不法ノモノト認メ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク中止犯トハ犯罪ヲ決行シ了ラサル以前ニ在テ犯人自ラ之ヲ遂行スルヲ止ムルノ謂ニシテ犯人ノ真心悔悟ニ出ルト被害者ノ發聲ヲ聞キ哀情ヲ生スルニ出ルト又ハ其目的人即チ被害者ノ人違ナルニ因ルトヲ問ハス苟モ犯人自己ノ意思ヨリ出テ其行爲ヲ中止シタル場合ハ總テ中止犯ニシテ彼ノ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ依リ其目的ヲ遂ケ得サル場合トハ決テ同視ス可カラサルナリ今原判文言渡ニ認メタル事實ヲ閱スルニ前略豫テ用意ノ短刀ヲ持チ先ツ姦夫ト覺シキ者ヲ刺撃スルニ敢テ驚愕ノ模様ナク又一撃スルニ其呼聲小兒ノ音

聲ニシテ姦夫喜三郎ト思ハレサルニ駭キ急ニ妻ミナチ起シ燈火ヲ點セシメタルニ姦夫ニアラスシテ長女テイナリシカハ狼狽シテ家外ニ驅出シ近隣ニ告ケ官ニ自首シタル事實云々トアリテ意外ノ障礙ニ依リ遂ケ得サルニアラス被告自ラノ意思ヲ以テ其行爲ヲ中止シタル事實ナルヲ明カナリ然リ而シテ被告カ現ニ加ヘタル被害者ノ負傷ハ十五日ニシテ全癒ニ及ヒタルハ亦一件書類ニ徴シ明了ナレハ刑法第三百一條ニ該當スル輕罪ナルニ原裁判所カ之ヲ謀殺未遂罪ナリトシ管轄違ヒノ言渡シヲ爲タルハ上告ノ論旨ノ如ク破毀ノ原由アル不法ノ裁判ナリト判定ス

○謀殺ノ件明治二十年第六十二號

糊口ニ苦ミ夫婦同死ヲ謀リ嬰兒ヲ懷キテ共ニ投身シタル場合ニ於テ嬰兒ノミ溺死シタルトハ此夫婦ハ謀殺ヲ以テ論スヘキモノナリヤ將タ刑法第二條及治罪法第四百一條ニ依照シ無罪放免ス

ヘキモノナリヤ

三重縣伊勢國度會郡宇治櫻木町長吉養子鈴木齋次郎及養女鈴木みづニ對スル被告事件

初審 安濃津始審裁判所

本件ノ事實ハ被告等ハ其實夫婦ニシテ明治十七年中幸ナル一女子ヲ舉ケ爾來養父トハ別居生計ヲ營ミ居タリシニ世態追々不如意トナリ炊烟モ立難キニ付キ右幸ヲ脊負ヒ夫婦諸共郷里ヲ出テシモ三河國豊橋驛ニ投宿セシ時ハ囊中已ニ一錢ノ蓄ナク如何セント苦慮スル折柄旅店ノ手代ニ勸メラレ市中見物ノ爲メ立出タル途中ニテ夫婦彼レ是レ相談ノ末所詮旅店ニ對シ無代飲食ノ罪人トナリ生耻ヲ晒サンヨリ共ニ死セント一決シ豊橋際ヨリ八九丁川下ニ到リ嬰兒幸ヲ捨置クトモ兩親差捕フテスラ養育出來サル不景氣ノ世ナレハ迎モ拾取リテ育テ呉ルハモノアリトハ思ハレヌ今死スルニ増サル難儀ヲ與フヘケレ

ハ寧ロ共ニ死スヘシト被告みつノ云フニ住セ被告齋次郎ハ右ノ手ニ幸ヲ懷キ左ノ手トみつノ右ノ手トヲ細細ニテ結ヒ三人共ニ水中ニ身ヲ投ケシニ幸ハ自然ニ手放レテ深ミニ流レ行キ被告等ハ意外ニ淺瀬ニ流着セシヨリ兩人ハ俄ニ死ヲ厭フ情ヲ發シ嬰兒ノミ流レ失セタルヲ悲ミ共ニ一命ヲ全フシタルモノナリ是レ初審裁判所カ其判文ノ前段ニ掲ケタル事實ノ概要ニシテ該審裁判所ハ被告等カ嬰兒幸ヲ死ニ致シタルハ敢テ子ヲ殺スノ惡意アリシニアラス畢竟被告等カ進退困迫シ死ヲ急クノ場合之ヲ遺棄スルニ於テハ却テ死ニ勝ル困難ヲ與フルコアラントノ癡情ニ絆サレタル所爲ニ付到底之ヲ罰スヘキ正條ナシト判定シ刑法第二條及治罪法第四百一條ニ依照シ無罪放免ノ言渡ヲ爲シタリ然ルニ檢察官ハ原裁判所カ認メタル事實ノ中兩親差揃テスニ云々寧ロ共ニ死スヘシトアルハ即チ過去將來ヲ顧慮シ殺スニ如カストノ決心ニシテ當時無思ノ小兒ニ對スル殺意ナリ而シテ已ニ河

流ニ投シテ殺死シタレハ其死ヤ小兒自ラ執リシモノト云フ可ラサルコト喋々ヲ埃ダスシテ明カナリ然ラハ被告人等ノ所爲ハ其情酌量スル所アルモ謀殺タルコト勿論ナルニ原裁判所カ謀意舉行ノ事實ヲ認メナカラ前顯ノ裁判ヲ下セシハ所謂ル理由ノ齟齬セシ不法ノ裁判ナル旨上告セシニ刑事局ニ於テハ原裁判ヲ以テ事實理由ノ齟齬ニシテ法律適用ノ當否ヲ鑑査スルニ由ナキモノト認メ之ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク原判文ヲ査スルニ被告等カ投水ノ際其子幸ナルモノヲモ水死セシムルノ意旨ヲ以テ之ヲ懷キ以テ共ニ投水シタルコトヲ明記シアルモノナレハ縱令其意ハ之ヲ懲諒スルニ出ルニモセヨ之ヲ以テ殺意即チ犯法ノ意ナシト云フヲ得サルモノナリ若シ亦被告等カ進退維谷ニ際シ一時精神喪失等ノ事故ニ因リ殺意ナカリシト云フノ意ナラハ其事實ヲ明記セサル可ラス然ルニ原裁判ハ其等ノ事實ヲモ記セ

スシテ突然其末段ニ至リ敢テ子ヲ殺スノ惡意ニ出テタルニ非ストシ
テ以テ無罪ト爲シタルハ擬律ノ錯誤ヲ免カレス然リト雖也原判文事
實中女子幸ハ自然手放レ深ミニ付流レ行キ或ハ嬰兒ノミ流レ失セタ
ル等ノ文詞ノミニシテ幸ナル者カ既ニ死シタル事蹟ハ毫モ記載ナキ
ニ其末段ニ至リ嬰兒ヲ死ニ致シタルハ云々ト掲載セシハ事實理由ノ
齟齬ニシテ其法律適用ノ當否ヲ査定スルニ由ナキ裁判ナリトス

○謀殺ノ件 明治二十年
第一千三百四十四號

分娩ニ至ラハ豫テ殺害セント決意シ其生兒ヲ殺シタルモノハ謀
殺ヲ以テ論スヘキモノナリヤ將タ胎兒ニ對スル豫謀ハ未必トシ
故殺ヲ以テ論スヘキモノナリヤ

福島縣岩代國安積郡々山村平民氣仙專之助同縣同國同郡同村平
民上村アキ及宮城縣陸前國仙臺區新町士族佐藤ヒサノニ對スル
被告事件

初審 福島重罪裁判所

本件ノ事實ハ被告ヒサノニ於テ曾テ某方ニ雇ハレ中同雇人ナル某ト
私通ノ末懐胎シ情夫某逃走シタルニ付雇主ヨリ雇入ノ際周旋シタル
被告專之助ニヒサノヲ依託シタルヨリ專之助ハ出産後同人ヲ乳母奉
公ニ出シ多分ノ給料ヲ貪ラント企圖シ被告アキ共々ヒサノニ對シ分
娩ニ至ラハ其産兒ヲ殺シ乳母奉公ヲ爲スヘシト勸誘シ出産ニ當リア
キハ生兒ノ頭部專之助ハ其腹部ヒサノハ之ヲ膝下ニ扼シ遂ニ共ニ之
ヲ壓殺シタル者ニシテ初審裁判所ハ右被告等ノ所爲タル素ヨリ豫メ
通謀シテ生兒ヲ殺害シタリト雖モ畢竟社會ニ顯出セシ人ニ對シ豫謀
シタルモノニアラスシテ胎内ニアル未必ノモノニ對シテ爲タル所爲
ニ過キス依テ出生以前ノ豫謀ハ以テ生息シタル現時ニマテ繼續シタ
リト云フ可ラス即チ分娩ノ當時其生兒ヲ見テ初テ殺意ヲ起シ相共ニ
壓殺シタルモノナルヲ以テ刑法第二百九十四條故殺ノ罪ナリト判定

シ尙ホ所犯情狀原諒スヘキ所アリト認メ同法第八十九條第九十條ニ照シ無期徒刑ニ二等ヲ減シ被告專之助ヲ重懲役十一年アキヲ同十二年ヒサノヲ同九年ニ處スル旨言渡シタリ然ルニ檢察官ハ原裁判所カ胎兒ニ對スル豫謀ハ未必ナリト本案ヲ故殺ヲ以テ論斷シタルハ失當ノ裁判ナリト思料スル旨縷々上告セシニ刑事局ハ亦原裁判ヲ不法ノモノト認メ治罪法第四百二十九條ニ照シ其全部ヲ破毀シ直ニ被告等ニ對シ原裁判所ノ認定シタル事實ヲ法律ニ擬辯セハ被告等ノ所爲ハ刑法第二百九十二條ニ該當スルヲ以テ死刑ニ處斷スヘキ處原裁判官ニ於テ所犯情狀原諒スヘキモノト認メアルニ因リ刑法第八十九條第九十條及第六十七條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ被告專之助ヲ有期徒刑十四年ニアキヲ同十三年ニヒサノヲ同十二年ニ處スル旨判決シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク本案ハ謀殺及ヒ胎兒ノ何タルノ説明ヲ以テ主眼ト爲

ス案件ナリトス何トナレハ是レカ定義ハ法意ノ存スル所ヲ明晰タラシムモノナル而已ナラス代言人ノ附帶上告論旨モ亦此説明ノ範圍ニ屬スルモノナレハナリ仍テ先ツ之レカ辯明ヲ降サンニ夫レ惡意豫謀及ヒ殺害ノ所爲ナル三條件ヲ具備スルモノハ所謂謀殺ニシテ其豫謀ノ一要件ヲ虧欠スルモノハ即チ故殺ナリ然リ而シテ豫謀ノヲタル其謀畫ノ決行上即チ殺害既遂ノ點ヨリ之ヲ觀レハ一トシテ未必ナラサルナシ是レ法律上豫謀ニ止マル事爲ハ之ヲ責罰セサル所以ノ一ナリ又胎兒ナルモノハ其母ノ胎内ニ在テ生活スル一個人ニシテ之ヲ覆言セハ即チ其母ト業已ニ一體ヲ殊ニスル一個ノ人體ニシテ止テ普通ニ外ナル點ハ獨リ生存スル場所ノ異ナルノミトス故ニ故意ニ出テ、豫謀ノ如ク之ヲ殺害シタランニハ固ヨリ刑法第二百九十二條ノ裁制ハ免ル可カラサルモノナリ然ルニ原裁判所ハ被告等豫メ通謀シ胎兒ノ生出ヲ待テ之ヲ殺害シタル者ト認メナカク其出産前後ニ異様ノ觀察

ヲ下シ出生前ノ豫謀ハ出生後ニ繼續ス可ラスト断定シ恰モ謀殺罪ノ
一元素ヲ虧欠セルモノ、如ク之ニ刑法第二百九十四條ヲ適用セシハ
即チ擬律ノ錯謬ニシテ又代言人カ初生兒タルノ理論ニ藉リナカラ其
初生兒ヲ視テ人ノ一分子トスルハ旨趣矛盾ノ訴告ナレハ相立タス故
ニ原檢察官ノ上告ハ治罪法第四百十條第十項ニ適應スル破毀ノ原由
タルモノナリ

○謀殺ノ件明治二十五年
甲第千二百六十五號

殺人ノ場合ニ若シ主害者ノ仕損シタル時ハ助力ヲ爲スヘキ依頼
ヲ受ケ現場ヲ離レ居タルニ主害者ニ於テ其目的ヲ達シタルヨリ
手ヲ下サ、ルモノハ刑法第二條ニ依リ無罪放免ノ言渡ヲ爲スヘ
キヤ否

愛媛縣伊豫國東宇和郡豫子村平民芝田藤次郎同村平民農亡太市
長女クマ事沖田ロク同村平民農右ロク實弟沖田要同村平民農石

工職有友兵三郎ニ對スル被告事件

初審 松山重罪裁判所

本件ノ事實被告沖田ロクハ今ヲ距ル十餘年前々夫仲五事松次郎死去
ノ後明治十一年五月中同村有友幾太郎弟佐五郎ヲ入贅トナシ爾來數年
經過ノ後明治十八年六月中ヨリ右佐五郎ノ伯父ナル同村有友兵三郎
ヲ同居爲致タル後被告ロクハ兵三郎ト姦通シ佐五郎ノ不在ヲ窺ヒ屢
々密會交情ヲ重マルニ隨ヒ居常本夫佐五郎ヲ忌嫌シ且ロクハ夫婦間
ニ子女ノ設ケナキヨリ吾血族ノ者ヲ養子ニ爲ントシ佐五郎ハ又其血
縁ノ者ヲ貫ハントスルヨリロクハ佐五郎ニ對シ睨離ノ情倍ス甚シク
遂ニ佐五郎ヲ殺害セント決意シ明治十九年陰曆四月中日不詳姦夫兵
三郎ヘ佐五郎トノ情誼不睦ノ事又ハ養子ノ義不協事等ヲ密談シ就テ
ハ佐五郎ヲ捨テ兵三郎ヲ家督人トシ永ク交情ヲ遂ン事ヲ依頼シ置キ
尙ホ同年陰曆六月中旬ノ交佐五郎不在中自家庭前ニ於テ曾テ別居ノ

實弟沖田要へ前條養子ノ義ニ付佐五郎ト自己ノ意見不協ヨリ佐五郎
 ヲ殺サン事ヲ依頼シ成功ノ上ハ假令財産ノ幾歩ヲ分與スルト不能時
 ハ黍貳俵位ヲ贈ル事并ニ其實行ノ時機ヲ通知センコトヲ約シ又有友兵
 三郎ハ資生飲酒ヲ好ミ爲メニ家産ヲ蕩盡シ一身寄ルナキノ折柄明治
 十八年六月中甥沖田佐五郎ハ自家ノ石垣ヲ補理セント思ヒ幸ヒ被告
 カ石工職ナルニ付之ヲ依頼シタルヨリ右佐五郎方ニ同居シ石垣ノ補
 理又ハ農事ノ手傳等ヲ爲シ居タル内佐五郎妻ロクト姦通シ佐五郎不
 在ノ折ハ度々密會シ爲メニロクハ夫佐五郎ヲ疎外ニシ且養子ノ事ニ
 付佐五郎ト讎不協ヨリ明治十九年陰曆四月中日不詳兵三郎ト密會ノ
 折佐五郎ヲ暗殺シ兵三郎ヲ家督人トナシ永ク姦情ヲ遂ンコトヲ依頼セ
 シニ兵三部ハ其意ヲ傾シ共ニ時機ノ至ルヲ相待タリ又沖田要ハ實父
 太郎并ニ姉ロクノ前夫松次郎病死後一旦其家督ヲ相續セシモ稟生放
 恣ナルヨリ親屬等ノ協議ヲ以テ明治十一年五月中姉ロクハ佐五郎ヲ

入釋トナシ沖田家ヲ兩分シ松次郎ノ遺産ヲ分割シテ要ヘ其財産ノ四
 歩ヲ與ヘ別居セシメタルトモ要ハ尙ホ財産上ノ義ニ付佐五郎ト紛議
 ヲ生シ其際他人ノ仲裁ヲ以テ爾後財産ノ争ヲ爲ス間數旨ノ契約ヲ爲
 シ平穩ニ歸シタルモ要ハ日常佐五郎ト親睦ナラス而シ明治十九年陰
 曆六月中日不詳姉ロク方ハ越キタル際同家庭前ニ於テロクヨリ佐五
 郎ト養子ノ義ニ付紛議ヲ起シタルヨリ佐五郎ヲ毆殺セン事ノ依頼ヲ
 密カニ受ケ且財産ノ幾分ヲ贈與スルコト不能節ハ黍貳俵位ヲ贈ル事并
 ニ實行ノ時ハロクヨリ好機會ヲ圖リ通知センコトヲ約シ置キタルニ明
 治十九年七月廿九日被告ロクハ夫佐五郎カ其實兄有友幾太郎ト豫テ
 眼病ニテ他村ヘ出療ニ趣カントスルニ付キ同夜見舞ノ爲メ幾太郎方
 ヘ趣クヲ知り好機會ナリト察シ密ニ之ヲ兵三郎ニ告ケ豫テノ念慮ヲ
 果サン事ヲ需メタルヨリ被告兵三郎ハ其意ヲ傾シ且同日ハ自村俚俗
 罪王宮ト稱スル祭日ニ付被告沖田要ハ爲參詣同所ヘ起忍クキタル

リ兵三郎モ該處ニ到リ同夜佐五郎カ横山組ナル幾太郎方ヘ赴ク旨ヲ
 語り其途中ニ於テ俱ニ之ヲ毆殺セント約シ要ハ兵三郎ニ立別レ歸宅
 ノ上兇器ヲ携帶シ日没後自村大平山ノ内字修理駄場ニ到リ兵三郎ハ
 右龍王宮ヨリ時刻ヲ圖リ俱ニ同所ニ趣キ要ニ出會シ要ハ貳尺四五寸
 ノ斧ノ柄兵三郎ハ近傍ニテ要カ切取リタル櫛ノ手頃ノ棒ヲ携ヘ夫ヨ
 リ進テ大平山ノ坂路ニ到リ左右ニ分レテ佐五郎ノ來ルヲ待受ケ居タ
 リ然ルニロクハ其日午後佐五郎カ農事ニ出テ薄暮歸宅セシヨリ彼是
 時間ヲ費シ食事ヲ爲サシメ尙ホ幾太郎方ヘ爲土產白米壹升ヲ小風呂
 敷ニ包ミ佐五郎ニ爲持同夜八時過キ佐五郎ヲ出宅セシメタリ而シテ
 五郎ハ實兄同村字横山組ナル有友幾太郎方ヘ赴カントシ右要及兵三
 郎等ノ待受ケタル字大平山ノ坂路通過ノ際暗黒ニ紛レ要兵三郎ハ所
 持ノ兇器ヲ持テ佐五郎ノ前後ニ立顯ハレ兵三郎ハ佐五郎ニ對シ誰ナ
 ルヤト聲ヲ掛タルニ佐五郎ハ己シヤト答ヘタルハ佐五郎ニ無相違ヲ

認知シ突然兵三郎ハ前方ヨリ要ハ後邊ヨリ佐五郎ヲ數回毆擊シ爲メ
 ニ佐五郎ノ頭部頂心部ヘ交叉形ニ長サ貳寸八歩深サ骨ニ達スル迄其
 他數ヶ所ノ重輕傷ヲ爲負遂ニ佐五郎ヲ毆殺シ其死体ハ路下ノ梶畑ノ
 中ヘ落シ置タリ被告芝田藤次郎ハ明治十九年陰曆四月中日不詳自村
 大平山字修理駄場ニ於テ亡沖田佐五郎妻ノ口ヨリ其家内不和合ニ付
 佐五郎ヲ殺サンコトヲ依頼セラレタルモ被告藤次郎ハ其意ニ應セス立
 別レタル後同年七月二十九日右ロクノ實弟沖田要ヨリ豫テ姉ロクカ
 話シタル佐五郎殺害ノ儀ハ愈今夜實行スルニ付俱ニ手傳吳レト依頼
 セラレ再三辭シタルモ要ハ唯現場迄行キ万一要ニ於テ任損シタル時
 ハ助勢致シ呉レ度左スレハ黍壹俵可遣旨ヲ以テ強テ依頼スルヨリ同
 日午後八時過キ自村大平山ニ趣キ同所字修理駄場ニ於テ要ニ出會シ
 要カ携ヘタル柄鎌ヲ持テ佐五郎被害ノ場所ヲ距ル二十間程前ニ潛居
 リタルモ要等ニ於テ首尾能其目的ヲ達シ了リタルニ付終ニ手ヲ下サ

ハリシモノニテ初審裁判所ハ以上ノ事實ヲ認メ明治二十年六月三十日被告藤次郎カ所爲ハ法律ニ正條ナキヲ以テ刑法第二條ニ依リ無罪放免ス、ト言渡被告ロク要兵三郎ノ三名ハ謀殺ノ事實アリト認メ刑法第二百九十二條ニ依リロクハ教唆者ナルヲ以テ同第百五條ニ照シ各死刑ニ處スト言渡シタルニ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告藤次郎カ他ノ被告要等三名ニ於テ佐五郎ヲ殺害スルトニ與セシハ最初ヨリ共ニ手ヲ下シ事ヲ行フノ約束ニハアラサルモ若シ要等ニ於テ仕損シタレハ助力シテ殺害ノコトヲ仕遂クヘシト豫約シ現場ニ臨ミ少ク地ヲ距テ、潜伏シ其摸樣ヲ窺ヒ居リシニ遂ニ要等カ殺害ヲ遂ケシモノナルコトハ原判官ノ認メテ以テ言渡ニ明示スル所ニシテ此事實ハ万一ノ處ニ供スヘキ豫備ノ所爲ヲ以テ引續キ實行中尙ホ間斷ナク正犯ヲ幫助シタル從犯ノ事實ナリ然ルニ原裁判所カ右事實ヲ認メナカシ法律ニ正條ナキモノトシ刑法第二條ニ依リ無罪ヲ言渡シタルハ擬律

誤ノ裁判ナリト云ヒ被告ロクニ於テハ原裁判ハ被告カ兵三郎ト姦通シ本夫佐五郎ヲ嫌忌シ且養子ノ紛紜ヨリ佐五郎ヲ失ヒ姦夫ヲ家督人ト爲サント兵三郎及ヒ實弟要ニ依頼シ佐五郎ヲ殺害セシメタリト認定サレシモ全ク事實ニ反スル裁判ニシテ被告佐五郎ト結縁以來親睦ナルコトハ衆人ノ知ル所ニシテ兵三郎ト姦通シタルコトナク同人ハ石垣修營又ハ耕作ノ手傳ニ雇入レタルモノナレハ夫ヲ毆殺スル如キ惡事ヲ頼談スルノ理ナシ警察署ニ於テハ司法官ノ威嚴ニ恐レ心神茫然トシテ事理ノ辯別ナク且強問類似ノ取調ヲ受ケ苦痛ヲ免ン爲メ只恐レ入リタリト申立タルノミナリ云々ト云ヒ被告要ハ村内字横山組土居某ハ藤次郎ヲ召連レ立越途中大平山手前ニ至リシ際佐五郎ト同行シ雜談中口論ヲ生シ同人ハ携ヘタル棒ヲ以テ突然毆打シタルヨリ忿怒ニ堪ヘス其棒ヲ取揚ケ打返シタルニ仆レタルモノナレハ刑法第二百九十九條ニ問フテ至當ナリト云々ト云ヒ兵三郎ハ佐五郎ヨリ石垣ノ

補理ヲ依頼セラレ旁同人ハ甥ノ因ヲ以テ同居セシモ同人妻ロクト姦通シ佐五郎ヲ謀殺スル等ノ事ハ毫モ知ラサル所ナリ警察署ニテハ威ヲ以テ壓セラレ苦痛ニ堪ヘス一言恐入りタリト申立タルノミ決シテ自由任意ノ白狀ニアラス又着衣ニ血ノ染ミアルハ馬ヲ使役スル際馬ノ血ヲ吸タル蠅ガ被告ニ付キタルヨリ之ヲ打殺シタル血痕ナリ云々ト云ヒ又代言人ハ被告三名ノ上告趣旨ヲ擴張シログハ毀害ノ場合ニ關係ナケレハ之ヲ放唆者ト爲シ同一ノ刑ニ處シタルハ不當ナリ又要及ヒ兵三郎カ殺害ヲ行フノ手筈ヲ通知シタル理由ヲ示サレハ共ニ犯所ニ出會シタルヤ否ヲ知ルニ由ナク即チ理由不備ノ裁判ナリト論告シタリ刑事局ニ於テハログ要兵三郎カ上告ハ其理由ナキモノトシ之ヲ棄却シタルモ藤次郎ニ對スル原裁判ハ檢察官上告論旨ヲ適當ト認メ治罪法第四百二十八條ニ依リ該裁判ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク抑諸般ノ證憑ヲ取捨採擇シテ犯罪ノ有無ヲ判定スルハ法律上特ニ原判官ノ職權ニ任從シタル處ニシテ他ニ越權等不法ノ厥アルニ非サル限リハ何人ト雖モ豫テ容ル、コ能ハサルモノナリ今本按被告等カ上告ノ理由トスル處ハ前掲ノ如ク「ログ」ニ於テハ兵三郎ト姦通シ本夫ヲ殺害スル如キ惡事ヲ爲シタル事ナク警察署ノ調書ハ強訊ニ因リ事理ノ辯別ナク申立タルモノニテ證トスルニ足ラス要ニ於テハ佐五郎ト爭論ノ末毆打死ニ致シタル事ナルニ「ログ」兵三郎ト謀リ殺害シタルモノト判定セラレタルハ不法ナリ兵三郎ニ於テハ「ログ」ト姦通シ佐五郎ヲ謀殺シタル覺ナク衣服ノ染血ハ蠅ヲ殺シタル血痕ナルニ其證明ヲ許サス警察署ノ壓制ニ成リタル申立ヲ以テ有罪ト認定セラレタルハ不法ナリト云フニアリテ其趣旨大同小異ナルモ歸スル處證據ノ取捨事實ノ認定ヲ非難スルモノニテ一ツモ憑ルヘキ證ナク徒ラニ架空ノ口實ヲ設ケ該容喙シ得ヘカヲサル判官ノ職權ニ侵入シ

不服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ノ原由ナキモノトス又代言人ハ「ロク」ハ殺害ノ場合ニ關係ナケレハ教唆者ニアラス要兵三郎カ殺害ヲ行フノ手筈ヲ示シ合セタル理由ヲ示サスト云フモ原判文ニ被告「ロク」ハ夫佐五郎カ其實兄云々幾太郎方へ赴クヲ知リ好機會ナリト察シ之ヲ兵三郎ニ告ケ豫テノ念慮ヲ果サン「トヲ彌メタルヨリ兵三郎ハ其意ヲ傾シ云々被告沖田要ハ爲參詣同所ニ赴キタルヨリ兵三郎モ該所ニ至リ云々俱ニ之ヲ毆殺セント約シ」云々トアリテ「ロク」カ殺害ヲ教唆セシ「ト要兵三郎カ殺害ノ手筈ヲ示シ合セタル事實明瞭ニシテ毫モ理由ノ不備ナル處ナケレハ擴張論旨モ亦相立サルモノトス然レモ檢察官上告趣旨ニ因リ芝田藤次郎ニ對スル原裁判ヲ調査スルニ沖田要ヨリ豫テ姉「ロク」カ話タル佐五郎殺害ノ義愈今夜實行スルニ付俱ニ手傳與レト依頼セラレ再三辭スルモ要ハ唯現場迄行キ要ニ於テ仕損シタルハハ助勢致シ與レ度」云々トアル理由ニ依レ

ハ罪トナラサルモノ、如シト雖モ其後要ニ出會シ要カ携ヘタル柄鍬ヲ持テ佐五郎被害ノ場所ヲ距ル二十間程前ニ潛ミ居リタルモ要等ニ於テ首尾能其目的ヲ達シタルニ付終ニ手ヲ下サ、リシトアル理由ニ依レハ唯下手シテ斬害セサルノミ現ニ犯所ニ在テ勢援ヲ爲シタル正犯タルモノ、如ク前後ノ理由阻斷シテ眞實ノアル處ヲ知ルニ由ナケレハ上告論旨ノ如ク果シテ從犯ナルヤ正犯ナルヤ未タ擬律ノ當否ヲ鑑査シ能ハサル治罪法第四百十條第九項ニ該ル破毀ノ原由アル裁判ナリト判定ス

誣告及誹毀ノ罪ニ關ス

○官吏侮辱ノ件 明治二十三年
第三百六十三號

演説場臨監ノ巡查ニ對シ威嚴ヲ示シテ誥責シ又ハ臨監ノ經驗ナキモノナラン又ハ誤解上ノ處分ナリト思フ云々ト刊行ノ文書ニ記載シタルモノハ侮辱罪ヲ組織スルヤ否

東京府麻布區本村町十七番地士族京橋區元數寄屋町二丁目一番地メサマシ新聞編輯人山内正俊ニ對スル被告事件

初審 東京輕罪裁判所

本件ノ事實被告山田正俊ハ明治二十年八月六日第八百三十壹號目覺シ新聞雜報欄内ニノ一トト題シ去ル二日夜宇都宮ノ劇場都坐ニ於テ島地黙雷カ出席シテ佛教演說會ヲ開キ云々臨監ノ巡查一名來テ之ヲ劇場ノ一隅ニ引キ行キ頻リニ威嚴ヲ示シテ詰責スル様子ナリシニ其人更ニ屈スル色ナク云々近頃ノ一診事ナリシ因ニ記ス右巡查ハ餘リ演說會等ハ臨監シタル經驗モナク何カ誤解シテ此ニ及ヒタルモノト思ヘハ不日何トカ處分アル可シ云々ト揭タルモノニテ明治二十年九月六日初審裁判所ハ臨監ノ巡查某ノ職務ニ對シ刊行ノ文書ヲ以テ侮辱シタルモノト認定シ刑法第四百一一條末項ニ依リ重禁錮一月ニ處シ罰金五圓ヲ附加スト言渡シタルニ服セス被告ハ上告ヲ爲シタリ

其要旨ハ第一威嚴ヲ示シタリト云フモ之ヲ濫用シタリト云ハサレハ決シテ侮辱ノ文字ニアラス第二演說場ニ臨監シタルト少キカ故經驗薄ク依テ何カ誤解シタルモノデアラウト云フハ更ニ侮辱ノ文詞ニアラス第三巡查ノ氏名ヲ記載セサレハ何人ヲ指的セシカ知ルヲ得ス第四個ハ投書ヲ記載シタル迄ナレハ其事實ヲ知ラスシテ揭ケシモノナリ第五其當時病痾ニ罹リ代理者ニ任セ置キタルモノニテ更ニ意見ヲ述ヘサレハ惡意アリテ爲シタルモノニアラス且宇都宮警察署ノ達ニ因リ其後之ヲ取消シタルハ被害者アルトナシ第六一事件ニシテ二罪ヲ科セシハ不當ナリ以上ノ理由ニ因レハ無罪ナリト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告論旨ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ直ニ被告山内正俊ニ對シ無罪ノ言渡ヲ爲シタルモノニ係ル其理由ニ曰ク原判文ヲ閱スルニ被告カ明治廿年八月六日目覺シ新聞第八百三十一號ノ雜報欄内ヘノ一トト題シ去ル二日夜宇都宮ノ

劇場都座ニ於テ島地獸雷カ出席シテ佛教演說會ヲ開キ云々臨監ノ巡查一名來テ之ヲ劇場ノ一隅ニ引キ行キ頸リニ威嚴ヲ示シテ詰責スル様子ナリシニ其人ハ更ニ屈スル色ナク云々近頃ノ珍事ナリシ因ニ記ス右巡查ハ餘リ演說會等へ臨監シタル經驗モナク何カ誤解シテ此ニ及ヒタルモノト思ヘハ不日何トカ處分アル可シ云々ト揭ケシ事實ハ即チ臨監巡查青木正太ノ職務ニ對シ刊行ノ文書ヲ以テ侮辱シタルモノト明示アレ其威嚴ヲ濫用シタリト云ハス又臨監ノ經驗ナキカ故ニ誤解上處分ノ爰ニ至リシモノナラント想像シ他日或ハ其筋ヨリ之レニ對スル處分アルヘシトノ意思ヲ掲載シタタルニ止リ毫モ巡查ノ職務ヲ輕侮凌辱シタリト見ルヲ得ヘキ文詞ナケレハ之ヲ以テ侮辱罪ナリト云テ得ス然ルニ原裁判所カ其事實ヲ認メナカラ刑法第四百四一條ノ末項ヲ適用シタルハ抑擬律錯誤ノ裁判ニシテ則チ上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第十二該當スル破毀ノ原由アルモノニ付其他

○官吏侮辱ノ件明治二十年
第七百四十六號

自己ノ登記ヲ速カニセンカ爲メ登記吏ニ對シテ前願者ヨリ後願者ヲ先ニスルハ不公平ナリト聲言シタルモノハ侮辱罪ヲ構造スルヤ否

京都府丹波國船井郡園部若松町平民雜業井尻澄ニ對スル被告事件

初審 京都輕罪裁判所

終審 京都輕罪裁判所

本件ノ事實ハ初審裁判所ニ於テ被告井尻澄ハ官吏侮辱ノ罪アルモノト判定シ言渡シタル裁判ニ對シ控訴ヲ爲シ終審院ハ被告ハ明治二十年二月廿八日人羅安兵衛代人トナリ園部登記所へ田地書入ノ登記ヲ出願ノ際午後二時頃被告出願後ニ出願セシ願人等既ニ登記ヲ受ケ立

歸ルモノアリト一途ニ思ヒ込ミ該官ヲ侮辱セントノ意思ヲ以テ被告
 ハ受付口ヲ開戸シ出願人共居合スル所ニ於テ當該吏裁判所書記笠間
 渡麒彌ニ向ヒアナタハ不公平ノ取扱ヲ爲サレタリ自分ヨリ後ニ出願
 シタル者既ニ登記ヲ受ケ立歸リタル者アリト聲言シタルハ渡麒彌ヲ
 侮辱シタルモノト認メ原裁判所カ重禁錮一月罰金五圓ニ處スト言渡
 シタル裁判ハ取消スヘキ筈ナシ由テ治罪法第三百四十四條ニ基キ之
 レヲ認可スト言渡シタルニ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ不公平云
 々ノ言語ハ唯自己ノ登記請願速ニセラレンヲ望ムノ切ナルヨリ偶
 然發セシモノニシテ毫モ惡意ナキヤ灼然タリ凡侮辱罪ハ其對手タル
 官吏ニ對シ平素他ニ意志アルカ故事ニ乘シ辱カシメントノ目的ヲ以
 テ之ニ不敬ノ語ヲ加フル場合ニ於テ初メテ組織スルモノナリ今被告
 ノ如キハ他ニ意志ナキモノナレハ侮辱ノ價アリト云フヲ得ス其事實
 ハ登記官吏ノ追告書原判決ノ趣意ニ依ルモ明瞭ナルニ其故意ニ出ル

ヤ否ヤノ事實ヲ審究セス官吏侮辱罪ヲ犯シタル者ト判決セラレシハ
 事實ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナレハ破毀ヲ求ムト云
 フ大審院立會檢事ハ上告趣意ハ未タ以テ破毀ノ原由ト爲スニ足ラス
 其不公平ノ語ヲ用非タルハ聊カ穩當ナラサルガ如シト雖モ不服ヲ訴
 フルニ當リ不公平ノ語ヲ用フルハ普通ノ套語ナレハ此一點ヲ以テ侮
 辱ノ事實ト爲スヲ得サルニ一面ニハ當該官ヲ侮辱セントノ意思ヲ
 以テ云々トノ事實ヲ示シ他ノ一面ニハ侮辱ト爲スニ足ラサル不公平
 云々トノ普通ノ套語ヲ掲ケタルハ是レ即チ事實理由ノ齟齬ナリト論
 シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ附帶上告論旨ニ基キ治罪法第
 四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ直チニ治罪法第三百五十八
 條ニ依リ被告并尻澄ニ對シ無罪且放免スト言渡シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク本案原裁判官ハ不公平ノ取扱ヲ爲サレタリト云フノ一
 語ヲ以テ侮辱罪ヲ構造シタルモノト事實ヲ認定シタレトモ抑此不公

平ノ語ハ不當ト云フノ語ト同ク世間往々事ノ不服ヲ遡フルニ用フル
普通ノ套語ニシテ一概ニ人ニ耻辱ヲ與ヘ又ハ不敬ヲ加フルノ言語ナ
リト爲スヲ得ス故ニ良シ侮辱セントスルノ意思アリトスルモ其言語
自体カ侮辱ノ價直ナキモノナル上ハ畢竟其效果ヲ得サルモノナレハ
侮辱罪ハ組成セサルモノナリ然ルニ原裁判官ハ此事實ヲ舉示シナカ
シ刑法第四百一十一條第一項ニ該ルト爲シタルハ附帶上告論旨ノ如ク
事實理由ノ齟齬ニハアラサルモ擬律ノ錯誤ニ出テタル不法ノ裁判ナ
リトス

竊盜罪ニ關ス

○竊盜ノ件 明治二十年
第七百三號

乾燥ノ爲ノ暴露シタル稻束ヲ竊取シタルモノハ直チニ田野盜ヲ
以テ論スヘキヤ否

山形縣羽前國最上郡下ノ明村三百十八番地藤之吉弟平民農星川與助

五十九年ニ對スル被告事件

初審 山縣輕罪裁判所

本件ノ事實被告星川與助ハ明治二十年十一月四日夜阿部與右衛門居
村字道ノ上ト云フ所ニ乾シ置キタル同人所有ノ稻七束貳把ヲ自己ノ
所有ニナサントノ意ニテ之レヲ自宅ヘ持運ヒ内三把ヲ消費シタルモ
ノニテ明治二十年十一月十日初審裁判所ハ刑法第三百六十六條ニ依
リ犯時二十歳ニ滿タサルヲ以テ同第八十一條ニ則リ本刑ニ一等ヲ減
シ尙ホ同第三百七十六條ニ基キ重禁錮二月ニ處シ監視六月ニ付スト
言渡シタル裁判ニ對シ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告カ竊盜
シタル稻ハ僅カニ田野ヨリ刈採スルノ人工ヲ加ヘシモ天然ノ質ヲ變
更セサルノミナラス田畔ニ乾枯シ置キタルモノナレハ田野盜ヲ以テ
論シ刑法第三百七十二條ニ據ルヘキハ當然ナルニ前顯ノ如ク處斷シ
タルハ治罪法第四百十條第十項ニ適合スル擬律錯誤ノ裁判ナリト云

ヒ大審院立會檢事ハ被告カ犯罪ノ場所ハ同村字道ノ上トノミアリテ之ヲ一件書類ニ徴スルモ其道ノ上ト唱フル所ハ果シテ其稻ヲ刈取リタル田畠ノ傍ナリヤ將タ田野ヨリ之ヲ刈取リ來リテ之ヲ他所ニ移シタルモノナルヤ否ヤヲ鑑別スルニ由ナク然ルニ原裁判所カ此事實ニ對シ刑法第三百六十六條ヲ適用シタルハ事實理由ノ不備アル裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ附帶上告論旨ノ如ク事實理由ノ不備ノモノト認メ治罪法第四百廿八條ニ從ヒ該裁判ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク被告カ竊取シタル稻ハ僅カニ刈採ノ人工ヲ加ヘタルモノトスルモ尙ホ其田畔ニ乾枯シ置キタルモノヲ竊取シタル場合ニアリテハ原檢察官ノ上告論旨ノ如ク刑法第三百七十二條ヲ適用スルハ相當ナレモ若シ之ヲ其田畔ニ非スシテ他所ニ移シ乾枯シ置キタルモノヲ竊取シタル場合ニアリテハ一概ニ之ヲ田野ノ穀類ヲ竊取シタル

モノトナシ難キ場合ナキニアラス何トナレハ其移シタル場所ノ田野ヲ以テ目シ難キ場合ナキニ非サレハナリ故ニ其場所即チ被告カ犯所ノ如キハ充分之ヲ明示スヘキハ當然ナルニ原判文ニ只同村地内字道ノ上ニ杭掛ケ干置キタル稻トノミアリテ其明瞭チ欠キ字道ノ上トハ如何ナル場所ナルヤヲ確知スルニ由ナケレハ原裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條ヲ適用シタルハ果シテ其當チ得タルヤ否ヤヲ鑑別スルニ由ナク到底原裁判ハ本院立會檢事附帶上告論旨ノ如ク事實理由ノ不備アルモノニシテ治罪法第四百十條第九ニ適合スルモノトス

○竊盜ノ件 明治二十年
第六百八十九號

多人數來集シ其雜踏ニ乘シ竊盜ヲ爲シタルモノハ直チニ刑法第三百六十七條其他ノ變ニ乘シ云々トアルニ照ラシ處分スヘキヤ否

京都府上京區第三十三區八組北門前町五番戶平民淨土宗大恩寺

住職僧侶寺村隨願ニ對スル被告事件

初審 京都輕罪裁判所
終審 名古屋控訴院

本件ノ事實ハ被告寺村隨願ハ初審裁判所ニ於テ竊盜犯ト判定シ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ依リ重禁錮三年六月監視一年ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告ハ大阪控訴裁判所ニ控訴シ其裁判ニ服セス上告ヲ爲シタル末大審院ハ該判決ヲ破毀シ終審院ニ移シタルモノニテ終審院ハ審理ヲ遂ケ被告ハ自己弟子安之助法名隨圓ナルモノヲ曩キニ上京區第三十三組北門前四番戶平民西方寺住職郁芳信定ノ養嗣子タラシメンコトヲ信定ニ依頼シ信定ノ承諾ヲ得明治十六年十一月十一日甲第一號證ヲ差入レ送籍ヲ爲シタルノ緣故アレハ信定病ニ臥シ明治十八年十一月二十三日夜死亡シタルヲ以テ被告ハ葬儀萬般ノ事ニ關シ翌廿四日午前西方寺ニ到リ法類及ヒ檀徒ノ者共多人

數來集雜踏セシニ乘シ豫テ亡信定カ西方寺庫裏ノ大破ヲ歎キ之レカ改造ヲ圖リ非常ニ衣食ノ費ヲ節シ漸次ニ買得シ且利倍増殖シタル無記名起業公債證書額面三千二百五拾圓同寺佛壇中ニ藏シアルヲ竊取シ之レヲ賣却シ若クハ抵當ニ差入レ其金員ハ悉皆費消シタルモノト判定シ明治二十年四月十四日終審院ハ被告カ所爲ヲ刑法第三百六十七條第三百六十六條ニ問擬メヘキモノトシ原裁判ヲ取消シ重禁錮三年六月監視一年ニ處スル旨言渡シタル裁判ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シタルモ其必要ナケレハ之ヲ畧ス右ニ附帶シテ大審院立會檢事ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ刑法第三百六十七條其他ノ變ニ乘シテ云々トアルハ專ラ抗拒スヘカヲサル事變ノ爲メ自己ノ財産ヲ管理スルコト能ハサル場合ヲ豫想シタルモノナリ然ルニ本件原裁判ノ事實認定ニ依レハ被告ハ葬儀萬般ノ事ニ關シ西方寺ニ到リ法類檀徒ノ者共多人數來集雜踏セシニ云々ト云フニアリ此事實タル果タシテ水火震災

等ノ如キ非常ノ事變タルヤ否ヤヲ推知スルニ由ナシ何トナレハ多人
 數來集シタルヲ以テ直チニ事變ト目スヘカラサルノミナラス必スシ
 モ其財産ヲ管理スルヲ得サルニモアラサレハナリ要スルニ原裁判
 ハ事實理由不備ナルモノニシテ其當否ヲ鑑査スル能ハサルモノニ付
 破毀ヲ求ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ附帶上告ニ基キ治罪法第四
 百二十八條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シタルモノニ係ル
 其理由ニ曰ク附帶上告論旨ノ如ク原裁判ハ破毀ノ原由アルモノトス
 何トナレハ刑法第三百六十七條ニ水火震災其他ノ變ニ乘シ云々トア
 ルハ其抗拒スヘカラサル事變緊急ニ起リ全ク財産ヲ保管スル等ノ暇
 マアテサル場合ヲ謂フモノニシテ尋常集會雜踏等ヲモ包含シタルモ
 ノニアラサルナリ今原判文ヲ査閱スルニ信定病ニ臥シ明治十八年十
 一月廿三日夜死亡シタルヲ以テ被告ハ葬儀萬般ノ事ニ關シ翌廿四日
 午前西方寺ニ到リ法類及ヒ檀徒ノ者共多人數來集雜踏セシニ乘シ云

々トアルノミニシテ其來集雜踏ハ全ク財産ヲ保管スルノ暇マアラサ
 ルカ如キ事變ヲ生セシメタルヤ將々只尋常葬儀ノ爲メ來集雜踏シタ
 ルニ過キサルヤヲ知ル能ハサルモノナレハナリ是其實理由ノ不備
 ニシテ從テ其擬律ノ當否ヲ査定スルニ由ナキモノトス已ニ此點ヲ以
 テ破毀ノ原由アルモノト認ムヘキニ依リ其他ノ上告點ニ對シテハ辯
 明ヲ要セズ

○竊盜ノ件 明治二十年
第四百八十三號

委任ヲ受ケ守宅ヲ爲シ鍵等ヲ預リタル者其家屋内ノ財産ヲ竊取
 シタル場合ハ受寄物費消ヲ以テ論スヘキヤ將々竊盜罪ナルヤ
 岩手縣陸中國北岩手郡平笠村士族當今北海道廳根室郡彌榮町三
 丁目藤田豐吉方寄留無職業石川毅ニ對スル被告事件

初審 根室輕罪裁判所

本件ノ事實被告石川毅ハ明治十七年十月十六日根室輕罪裁判所ニ於

ラ官印章ノ影蹟ヲ盜用シタル科ニ依リ處刑ノ宣告ヲ受ケ監視執行中
 明治二十年一月九日根室彌榮町舊共進會跡留守番菊川兵次郎方ヘ到
 リ第一同夜被告ハ兵次郎ト共謀シテ豫テ兵次郎ノ預リ居ル鍵ヲ以テ
 該會跡家屬ノ錠ヲ開キ入り家屋内ニアリタル狐皮壹枚外壹品ヲ竊取
 シ之ヲ其翌日十日午前十時頃根室梅ヶ枝町高橋伊助ヘ代金壹圓七拾
 錢ニ取極メ被告及兵次郎ハ内金壹圓三拾錢ヲ請取り逃走シ第二被告
 ハ其九日夜同所彌生町氏名不知飲食店ニ於テ今村千代吉ト會合飲酒
 シ第三被告ハ同九日夜同町人家軒下ニアリタル高橋幸太郎ノ所有ニ
 係ル炭壹俵ヲ竊取シ之レヲ擔肩同所清隆町山手ノ方ヲ指シ行ク所ヲ
 同夜々廻リスル某等ニ看認メラレ其炭ヲ放棄シテ逃走シ同所氏名不
 知者ノ建家ノ傍ヲニ潜伏シ居ル所ヲ彼夜廻リノ者ニ取押ヘラレタル
 モノニテ明治二十年二月廿四日初審裁判所ハ被告カ所爲ニ刑法第三
 百六十六條第三百七十六條第三百六十九條刑法附則第二十七條第二

項刑法第百五十五條第百條第三項及ヒ第九十二條ヲ適用シ被告ヲ重
 禁錮七月監視八月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告ハ上告ヲ爲シ
 タリ其要旨ハ本案被告事件ノ内臘腴皮外壹品ハ菊川兵次郎カ竊取シ
 タルモノナルコトヲ知テ被告ハ之ヲ故買スル手續ヲ爲シタルモノナリ
 然ルニ其證據モナキニ摸樣ニ因リ兵次郎ト共謀竊盜シタルモノナリ
 トセラレタルハ不法ナリ又被告カ兵次郎ノ指圖ニ從ヒ同人ノ罪跡ヲ
 蔽フ爲メ共進會場ノ硝子窓ヲ毀壞セシ事實ヲ申立タルニ何様ノ裁判
 ナモ與ヘサリシハ不法ナリ又被告カ高橋幸太郎所有ノ炭ヲ竊取シ云
 ヲニ付テハ證人ノ申立ニ依リ未遂犯ノ法律ヲ適用セサル可ラサルニ
 然ラサリシハ不法ナリト云ヒ大審院立會檢事ハ原判文第一事實ノ共
 犯タル兵次郎ハ舊共進會場ノ留守居番トアリ又其會場ノ鍵ハ兵次郎
 ニ於テ預リ居タリトアルニ據レハ或ハ該狐皮外一品ハ兵次郎カ全ク
 信用上ヨリ委託ヲ受ケ看守スルモノニシテ其所爲ハ即チ受託物費消

ノ如キモ被告ニ在テハ毫モ其委託ニ關係セサルモノナレハ亦其背信ノ罪タル受託物費消ノ共犯者ト爲ス可ラス故ニ被告カ所爲ニ付テハ敢テ其受託物ナルヤ否ヲ論查スルノ必要ナキカ如キモ兵次郎ノ所爲若シ然リトセハ該狐皮外一品ハ被告自ラ奪取セシモノナレハ竊盜ニシテ其鎖鑰ヲ開キタル所爲加重ノ模様トナラサルニ於テハ原裁判ハ相當ナル可キモ若シ兵次郎ヲ經由セシモノナレハ即チ刑法第四百一條ニ該當スル受贓ノ罪ニ過キサレハナリ然ルニ原裁判ノ事實ハ不明瞭ニシテ是等緊要ノ點ヲ盡サレハ其擬律ノ當否ヲ斷定スルヲ得スト論シ附帶上告ヲ爲シタリ刑事局ニ於テハ上告及附帶上告共其理由ナキモノト認メ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ棄却シタルモノニ係ルニ其理由ニ曰ク前掲上告趣旨中第一點第三點ハ皆ナ以テ破毀ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス何トナレハ該第一點及ヒ第三點ハ法律上承審官ニ一任セラレタル事實認定ノ如何ヲ論難スルニ過キスシテ一モ治

罪法第四百十條各項ニ適當スル理由トナラサレハナリ上告第二點及ヒ原檢察官ノ附帶上告ニ對シ公判始末書ヲ查スルニ被告カ硝子窓ヲ毀壞セシ所爲ヲ竊盜ノ加重情狀トシタルノミニシテ一箇ノ罪トシ公訴セシモノニアラサレハ之ヲ以テ請求シタル事件ニ裁判セサルモノトハ謂フ得ス故ニ是亦上告ノ理由ト爲スヲ得ス本院立會檢事ノ附帶上告ニ對シ原判文ヲ查閱スルニ舊共進會跡留守居番菊川兵次郎方ヘ到リ第一同夜被告兵次郎親ハ共謀シテ豫テ兵次郎ノ預リ居ル鍵ヲ以テ該會跡家屋ノ錠ヲ開キ入り家屋内ニアリタル狐皮一枚外一品ヲ竊取シ云々トアルヲ以テ觀レハ被告級及ヒ兵次郎兩人共ニ竊盜罪ヲ犯シタルヲ知了シ得ヘク即チ原裁判ハ相當ニシテ破毀スヘキ理由ナキモノトス何トナレハ本案兵次郎ヲ留守居ノ如キハ原裁判所ニ於テ其財産防衛ノ任ヲ負フト雖モ其家屋内ニアル財産ニ對シテハ悉ク受託ノ任ヲ負フニアラスト認メタルモノナリ故ニ其受託者カ爲スヘキ

物品保存等ノ義務ナキヲ以テ原裁判所カ委託物費消ト爲サスシテ竊盜ト爲シタルハ當然ナレハナリ且其鎖鑰ヲ開キタルモ其鍵ハ兵次郎ニ於テ留守居ノ爲メ預リ居タルモノナレハ之ヲ開鎖スルハ兵次郎ノ權内ニアリト謂ハサル可ラス故ニ原裁判所カ之ヲ以テ加重情狀アリト見做サ、ルモ亦當然ナレハナリ

○竊盜ノ件 明治二十年
第千二百九十二號

戸壁ヲ毀壞シテ竊盜ヲ爲シタルモノハ刑法第三百六十八條ニ問フヲ要セサルヤ否

愛媛縣讚岐國豊田郡和田濱平民日雇稼合田音藏ニ對スル被告事件

初審 松山輕罪裁判所

本件ノ事實被告合田音藏ハ第一明治廿年七月十三日夜豊田郡大野原大兩元造方物置ノ壁ヨリ尖リタル杭ヲ以テ突キ破リ外ヨリ其内ニ在

ル麥四斗ヲ手ニテ攫出シ竊取シ第二明治二十年九月三日夜全所藤原儀介方表ノ兩戸ノ三寸斗明キアルヲ開キ忍入り奥座敷戸棚ノ抽斗ヲ引抽キ衣類八點ヲ竊取シタルモノニテ明治二十年九月初審裁判所ハ被告カ二次ノ竊盜ハ各刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ該當シ二罪俱發スルヲ以テ同第百條ニ依リ情狀重キ第一ノ所爲ニ從ヒ重禁錮六月ニ所シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ハ他人ノ物置ノ壁ヲ尖リ杭ヲ以テ突破リ其穴ヨリ手ヲ差入レ内ニ積ミアリシ麥四斗ヲ搔キ出シ之ヲ竊取シタル事實ナルヲ以テ刑法第三百六十八條第三百六十七條第三百七十六條ヲ適用スヘキノ意見ヲ述ヘタルニ裁判官ハ其事實ヲ認メナカラ單純ノ竊盜犯ナリトシ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ照シ重禁錮六月監視六月ニ處スト言渡シタルハ至ク第三百六十八條ヲ誤解シタルニ出テタルモノニシテ即チ擬律ノ錯誤ナリト云フニアリ刑事

局ニ於テハ上告論旨ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡
ヲ破毀シ直チニ被告カ第一ノ所爲ハ刑法第三百六十八條第三百六十
七條第三百七十六條ニ該リ第二ノ所爲ハ同第三百六十六條第三百七
十六條ニ該ルニ罪俱發ニ係ルモノト認メ同第百條ニ照シ犯情重キ第
一ノ所爲ニ從ヒ被告合田音藏ヲ重禁錮七月ニ處シ監視七月ニ付スト
言渡シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク原判文ニ徴スルニ被告カ第一ノ所爲ハ大兩元造力物置
ノ壁ヲ尖リタル杭ヲ以テ突キ破リ外ヨリ其内ニ在ル麥四斗ヲ手ニテ
攫出シ竊取シタリトアリテ即チ刑法第三百六十八條ニ牆壁ヲ踰越損
壞シ云々トアルニ適合スル所爲ヲ施シタル竊盜犯ニシテ尋常盜ト同
視スヘキモノニアラサルヲ明カナレハ同條ヲ以テ處斷スヘキ筈ナル
ニ其茲ニ出スシテ單ニ同第三百六十六條ヲ適用シタルハ上告論旨ノ
如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス

○竊盜未遂ノ件明治二十七年
第二百五十七號

竊盜ノ目的ニテ建物ヲ毀壞スル際人ノ來リシニ由リ其儘逃走シ
タルモノハ刑法第四百十七條ニ該當スルヤ將タ竊盜未遂ヲ以テ
論スヘキヤ

大阪府北區安治川北區三丁目番地不詳平民土方業西濱長藏ニ對
スル被告事件

初審 大阪輕罪裁判所
終審 大阪控訴院

本件ノ事實被告西濱長藏ハ明治十九年十一月廿四日午后十時頃竊盜
スル目的ニテ大阪府下南區三ツ寺町八番地太田彌五郎方近傍ノ學校
ノ家根ヨリ傳ヒ同家土藏ノ家根ニヨリ所持ノ螺旋外二點ヲ用テ長四
尺幅二尺餘ニケ所ノ内壹ヶ所ハメクリ掛ケ壹ヶ所板迄メクリ除ケ入
ラントスル際表ニ巡查ノ靴音スルヲ聞キ破壞シタル儘逃走シタルモ

ノニテ初審裁判所ハ人ノ健造物ヲ毀壞シタルモノト判定シ刑法第四百十七條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ罰金三圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ檢察官カ控訴ヲ爲シタルニ終審院ハ原裁判ヲ適當ト認タリ然ルニ終審院檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要旨タル本案ハ刑法第三百六十六條ニ掲グル竊盜罪加重ノ情狀アルモノニシテ被告カ土藏ノ家根ヲ切破リタルハ既ニ其加重ノ條件ヲ行ヒタルモノナリ又刑法第一百十二條ニ掲グル罪ヲ犯サントシテ既ニ其事ヲ行ヒタルモノナリ巡查ノ靴音ヲ聞キ家人ノ覺知セシ景況ヲ察シテ逃走シタルハ犯人意外ノ障礙ニ因リ未タ之ヲ逐ケサルモノナリ然ルニ原裁判官ハ之ヲ豫備中ノ所爲ナリトシ單ニ其結果ニ就キ刑法第四百十七條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナルヲ以テ破毀ヲ望ムト云フニアリ刑事局ニ於テハ上告論旨ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ直ニ刑法第三百六十八條第三百六十七條ニ依照シ六月以上五年以下ノ重禁錮

ニ該ル未遂犯ニ係ルヲ以テ同第三百七十五條同第一百十二條ニ照シ既遂ノ刑ニ一等ヲ減シ四月十五日以上三年九月以下ノ範圍内ニ於テ被告西濱長藏ヲ四月十五日ノ重禁錮ニ處シ尙ホ刑法第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視ニ付スト言渡シタルモノニ係ル

其理由ニ曰ク原判文ニ認メタル事實ニ依リ之ヲ按スルニ本件被告ハ竊盜スル目的ニテ所持ノ螺旋外二點ヲ以テ太田彌五郎方土藏ノ屋根ヲ破壞シ忍入ラントスル際表ニ巡查ノ靴音スルヲ聞キ逃走シタルモノナリ事實果シテ如斯ナレハ其所爲タル竊盜豫備ニ止マラス既ニ目的ノ犯罪ヲ實行シタル形跡明カナリ抑豫備ノ意義タル總テ犯罪實行以前ノ手續ヲ指稱スルモノニシテ現ニ目的ノ事柄ヲ行フタル場合ハ乃チ中止犯ヲ除ク外其罪ヲ構成ス可キヲ勿論ナレハ之ニ對シ相當ノ刑ヲ適用セサル可ラス然ルニ原裁判茲ニ至ラス尙ホ被告ノ所爲ヲ豫備ト做シ其結果ニ就キ判斷ヲ下シタルハ上告論旨ノ如ク治罪法第四

百十條第十項ニ該當シ破毀ノ原由アルモノトス

○竊盜未遂ノ件明治二十年
第六百廿八號

竊盜ノ意思ニテ晝間人ノ邸宅ニ忍入りタルモノハ刑法第百七十
一條ニ問フヘキヤ將タ第三百六十六條ニ該當スルヤ

京都府丹波國何鹿郡本宮町平民鍬風呂職摺見万之助ニ對スル被
告事件

初審 宮 津 支 廳

本件ノ事實被告摺見万之助ハ明治十六年十二月竊盜ノ科ニヨリ重禁
錮十月明治十七年十二月監視違犯ノ科ニヨリ重禁錮一月及ヒ明治十
九年九月毆打創傷ノ科ニヨリ重禁錮一月ノ處斷ヲ受ケ又明治二十年
十月九日午後第六時竊盜ヲ爲スノ意思ヲ以テ丹波國何鹿郡栗村白藤
勘兵衛ノ留守宅ヲ窺ヒ同家裏口ノ鎖鑰ナキ障子ヲ開キ内ニ忍ヒ入り
表ト奥トノ中間ニアル戸ヲ引明ケ立入りタル際勘兵衛歸リ來リ拿捕

セラレタルモノニテ明治二十年十月十九日初審廳ハ被告ハ晝間故ナ
ク人ノ住居シタル邸宅ニ入りタルモノト判定シ刑法第百七十一條ニ
依リ處分スヘキモ前キニ三度輕罪ノ刑ニ處セラレタル身分ニ係ルヲ
以テ同第九十八條第九十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ加ヘ重禁錮一月ニ
處スト言渡シタルニ檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其ノ要旨ハ刑法第百七
十一條ハ本件ノ如ク竊盜ヲ犯サンコトヲ目的トシ人ノ住家ニ入りタ
ルモノニ適用スヘキモノニ非ラス其目的竊盜ヲ爲サンカ爲メナル乎
姦通ヲ爲サンカ爲メナル乎將タ暗殺ヲ爲サンカ爲メナル乎之レヲ知
ルニ由ナク從テ何レノ未遂犯トモスル能ハサル場合ニ在テ適用スヘ
キモノナリ然ルチ裁判官ハ竊盜ノ目的ヲ以テ忍入りタル事實ヲ認メ
ナカラ刑法第三百六十六條ヲ適用セサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云
フニアリ刑事局ニ於テハ原裁判ハ擬律錯誤ニ出タルモノト認メ治罪
法第四百二十九條ニ從ヒ該裁判ヲ破毀シ直ニ刑法第三百六十六條ニ